

平成19年度
全国学力・学習状況調査
最終報告

平成20年3月

岡山県検証改善委員会
岡山県教育委員会

はじめに

昨年4月、全国学力・学習状況調査が、全国的な規模の悉皆調査としては43年ぶりに小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒を対象に実施されました。

岡山県では、対象となる学年の児童生徒が在籍する全ての小・中学校及び特別支援学校が本調査に参加し、10月には各教育委員会及び学校が調査結果を受け取りました。

岡山県教育委員会では、調査結果に基づく検証改善サイクルの確立に向け、6月に岡山県検証改善委員会が設置されました。本委員会では、県内の大学教官及び小・中学校、PTA、市町村教育委員会、県総合教育センター等の関係者の参画を得て、調査結果を分析し、これまでの教育の成果と課題を検証するとともに、その改善に向けた取組を進めるための作業を進めてまいりました。

すでに11月に中間報告を作成し、全教員に配付するとともに、県下4ブロックでその説明を行ったところですが、学校や市町村教育委員会には、12月末までに調査結果の分析と課題の改善に向けた計画をまとめた授業改善プランや学校改善支援プランを作成していただきました。

また、12月には、津山市立久米中学校及び吉備中央町立津賀小学校、総社市立総社中央小学校の3校をモデル校に指定し、それぞれの課題の改善に向けた実践的な研究に取り組んでいただき、2月末から3月始めにかけて、その成果を発表していただきました。3校の取組と研究会当日の授業の様子は、DVDに収めて県内の公立小・中学校に配付したところであり、各学校での授業研究に役立てていただきたいと考えています。

また、調査結果から、本県の児童生徒の自主的な学習態度に課題が見られたことから、2月には、自学自習支援ソフトを各学校に配付し、その活用を働きかけるとともに、家庭向けリーフレット「子どもたちの学習や家庭生活をとともに考えてみませんか」を配付しました。

さらに、学校関係者や保護者が学力向上に向けて共に考える「学力向上健やかフォーラム2008inおかやま」を開催するなど、様々な取組を行ってまいりました。

この最終報告は、中間報告で取りまとめた内容に、このような取組の成果と、その後さらに深めた分析などを加えて作成いたしました。

それぞれの教育委員会や学校が、本報告書に示す県内の状況と地域や学校の実態とを比較・検討していただくとともに、本報告書で示す事例の視点などを参考にし、さらに授業の改善やその他の課題改善を図っていただくことを期待しております。

最後になりましたが、最終報告を取りまとめるに当たり、本委員会の取組に御支援と御協力をいただいた関係各位に対しまして、衷心より厚くお礼申し上げます。

平成20年3月

岡山県検証改善委員会 代表 岡山大学教育学部 教授 森 熊男

目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果の概要と授業改善	2
3	調査結果の概要	
	(1) 学力分布の状況	4
	(2) 領域・観点別の状況	8
	(3) 学校の分布の状況	10
	(4) 児童生徒質問紙の状況	11
	(5) 学校質問紙の状況	20
4	教科ごとの分析と授業改善	
	(1) 国 語〔小学校〕	28
	(2) 国 語〔中学校〕	37
	(3) 算 数〔小学校〕	46
	(4) 数 学〔中学校〕	57
5	教育委員会・学校における事例	
	(1) 教育委員会が作成する学校改善支援プラン	67
	(2) 学校が作成する授業改善プラン	70
	(3) 個人票の返却	77
	(4) 校内研修・学級での指導	79
	学力向上健やかフォーラム2008inおかやま	84

1 調査の概要

○調査の目的

- ①全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。

○調査実施日 平成19年4月24日(火)

○県内の参加状況 国立・公立・私立の合計(公立)

	参加学校	参加児童生徒数
小学校	421校(417校)	17,951人(17,669人)
中学校	162校(153校)	16,557人(15,832人)
特別支援学校	3校(3校)	16人(16人)
総計	586校(573校)	34,524人(33,517人)

*データの処理は、後日実施をした児童生徒の数値を除いている。

○調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況を把握することを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要である。

本調査の結果においては、国語A・B、算数・数学A・Bごとの平均正答数、平均正答率等の数値を示しているが、平均正答数、平均正答率のみでは必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフなど他の情報と合わせて総合的に結果を分析、評価することが必要である。また、個々の設問や領域等に目して学習指導上の課題を把握、分析し、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることが重要である。

なお、児童生徒に対する質問紙調査の結果と教科に関する調査の結果とのクロス集計に関しては、必ずしも因果関係を示したものではないことに留意する必要がある。

○用語の説明

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均。
平均正答率	平均正答数を百分率で表示。 ○国語A、国語B、算数・数学A、算数・数学Bごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)。 ○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率。
標準偏差	集団のデータの平均値からの離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。標準偏差が0とは、ばらつきがない(データの値がすべて同じ)ことを意味する。 分布が正規分布になっていると仮定すると、「平均値±標準偏差」の間に全体の約70%のデータが含まれる。
解答類型	各設問についての正答、予想される誤答などの解答状況を分類し整理したもの。

2 調査結果の概要と授業改善

学力に関する調査から

〈P4～10、P19〉

学力の特徴 〈P4～10、P19〉

- 小・中学校とも正答数の分布は、全国の状況とよく似ているが、小学校ではABともに上位層がやや少なく、中位から下位層の数が若干多くなっている。
- 小・中学校のほとんどの領域・観点で全国平均を少しずつ下回っている。
- ほとんどの設問において、無解答率が全国平均より高く、無解答率が高いほど、ものごとを最後までやり遂げてうれしかった経験や自主的な学習意欲が乏しい傾向が見られる。

改善の取組

- 一人ひとりの達成状況の丁寧な確認と実態に応じたきめ細かな指導の実施（少人数指導や習熟度別指導、T Tなどの指導体制の検証と改善など）
- 学習意欲を喚起し、学ぶよさや達成感が感じられる授業の展開（ICT機器を活用したフラッシュ教材の作成・活用、外部講師の招聘、博物館・図書館の活用など）
- 研究課題を明確にした実践的な授業研究の実施（基礎的・基本的な知識・技能の定着、思考力・表現力の育成などの課題設定など）

児童・生徒質問紙調査から

〈P11～18〉

◇家庭生活 〈P11～12〉

- 「朝食を毎日食べる」「地域の行事への参加」や「読書への関心」などは、全国より肯定的な回答が多く、家庭生活が充実している児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られる。

◇自尊感情や規範意識 〈P13～14〉

- 「自分にはよいところがある」「人の気持ちがかかる人間になりたい」「友だちとの約束を守っている」などは、全国より肯定的な回答が多く、自尊感情や規範意識が高い児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

◇学校生活 〈P15～16〉

- 学校で好きな授業や楽しみにしている活動がある、教科の学習が大切だとか社会に出て役に立つといった項目で肯定的な回答が多く、学校生活に適応している児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

◇学習習慣 〈P17～18〉

- 授業時間以外の勉強時間の確保や授業の復習をするといった学習習慣、学んだことを生活に生かそうとする姿勢に課題が見られ、学習習慣が身に付いている児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

学校質問紙調査から

〈P20～27〉

◇指導方法・形態 〈P22～27〉

- 計算問題などの反復練習の実施の割合が全国より高くなっているが、小学校では平均正答率との間に相関が認められない。
- 実生活との関連を図った授業や習熟の程度に応じた指導の実施の割合が低い傾向が見られ、小学校より中学校で、その頻度が高いほど平均正答率が高い傾向が見られる。
- 長期休業中の補充的な学習サポートの実施の割合が、小学校で低く、中学校で高い傾向が見られる。
- 平均正答率が高い学校の方が、児童生徒が「熱意をもって勉強している」「授業中の私語が少なく、落ち着いている」「礼儀正しい」という傾向が見られる。
- 平均正答率が高い学校の方が、算数・数学で実生活における事象との関連を図った授業や、実践的な研修を行っている傾向が見られる。

◇家庭学習の課題 〈P21〉

- 家庭学習の課題を与える割合が高く、特に中学校において、その傾向が顕著となっており、家庭学習が長いほど平均正答率が高い傾向が見られる。

改善の取組

- 道徳性や社会性を育む活動の充実を図る。（道徳の時間、体験活動、話し合い活動、温かい学級づくりの取組等の充実など）
- 家庭学習の取組の充実を図る。（宿題を出す量・質の検討、提出後の確認方法と子どもへの返却方法の見直し、保護者への働きかけの検討など）

- 学ぶ内容と実生活との関連を図った授業展開を図る。（身の回りにある新聞、ニュース、チラシや地図、辞書などを活用する視点で教材研究を行うなど）
- 学び合いが成立する学級づくりを行う、学習規律の確立を図る。（一人ひとりの意見や間違いが大切にされる学級の雰囲気作り、聞くととき、話すとき、グループ学習、ノートの活用などの観点からルールを決めるなど）

重視したい指導の視点

学校の授業で

- 個に応じたきめ細かな指導の工夫
- 確かな知識・技能の習得
- 教科で学んだ知識や技能が
- 実生活との関連を図った授業
- 思考力・表現力の育成
- 発揮される「総合的な学習
- 達成感が感じられる学習
- 自主的な学習意欲の喚起
- の時間」の充実

学校や家庭の生活で

〔学習の基盤となる豊かな社会性・道徳性〕

- 基本的な生活習慣、学習習慣の確立
- 自尊感情や規範意識の高揚
- 友だちや先生など、人との豊かな関わり
- 身の回りの集団や社会への関心

授業改善の視点

〈P28～66〉

〔課題の見られる主な設問〕(問題番号)

改善の視点

小学校国語

- 人物の心情を表現や叙述と関係付けて読む(A10)
- 古紙を再利用することが課題となってきた根拠を文中から探して書く(B2-2)
- 二人の感想文から共通する書き方のよいところを書く(B3-1と2)
- 広告の情報とそれを説明した内容を関係付けて読み取る(B4-1)

〈P28～36〉

- 授業の課題(めあて)を自覚し、自分の考えをもち、それを発達段階に応じて書いたり、交流したりする活動を取り入れる。
- 多様な読み方が経験できる学習活動を効果的に取り入れ、読むための方法を身に付けることを重視した授業づくりをする。
- 授業の課題(めあて)をつかんで自分の考えをもち、それを書いたり発表したりする活動を取り入れる。
- 書かれていることに心を動かしながら読むおもしろさが経験できる学習活動を効果的に取り入れ、登場人物の行動描写のよさに気付くことができる授業づくりをする。
- 授業の課題(めあて)やそのもたせ方を工夫することにより、児童が課題(めあて)を意識して自分の考えがもてるようにするとともに、それを書いたり交流したりする活動を取り入れる。
- 行動描写や情景描写、登場人物や場面の設定などをもとに、根拠を明らかにし自分の考えをもつことができる授業づくりをする。

中学校国語

- 文学的な文章を読む際に、比喩等の表現技法に注意して内容をとらえる(A3-2)
- 文章の構成や展開をとらえ、表現上の特色を踏まえて自分の考えを書く(B2-2, 3)
- 中学生と店員の作成した広告カードを比較して違いを説明する(B3-3)

〈P37～45〉

- 書かれている内容を理解するだけでなく、表現の仕方の特徴に着目し、その効果を考えながら読む活動を取り入れる。
- 読み取ったことをもとに自分の考えを書く活動を効果的に取り入れ、生徒が自分の考えをもち、それを表現する活動を重視した授業づくりをする。
- 語句の意味を正確にとらえ、情景描写を基に、作者の表現の工夫や効果を考えながら読む活動を取り入れる。
- 読み取った作者の表現の工夫について、自分の考えを持ち、それを表現する活動を重視した授業づくりをする。
- 作品の内容や構成、表現上の特徴に着目し、その効果を考えながら読む活動を取り入れる。
- 読み取った筆者の表現の工夫や効果について、自分の考えをもち、それを表現する活動を重視した授業づくりをする。

小学校算数

- 分数、小数の意味と大きさの理解(A3-2、4)
- グラフから資料の特徴や傾向を読み取る(B3-3)
- 式の形に着目して計算結果の大小を判断する(B6-2)
- 百分率を用いて問題を解決する(B4-1)
- 基本的な図形を見いだしてその面積を求める(B5-3)

〈P46～56〉

- 計算の工夫や考え方を読み取り、その考えを新しい場面に用いる活動を取り入れる。
- 具体物、操作、図、言葉、式を用いて説明する活動を重視した授業づくりをする。
- 子どもがめあてをつかみ、主体的に測定の仕方を考える操作的な算数的活動を取り入れる。
- なぜその方法で正しく重さの順位が決まるのかなどについて、単位の幾つ分を根拠に説明し合う授業づくりをする。
- 表を見ることで2量の変わり方やきまりを見つけ、きまりをことばや□や○を用いた式に表す活動を取り入れる。
- 根拠を明らかにしながら、自分の考えを分かりやすく説明する活動を重視した授業づくりをする。

〈P57～66〉

中学校数学

- 円柱と円錐の体積の関係の理解(A5-4)
- 反比例の対応関係の理解(A10-1)
- 確率の意味そのものの理解(A14-1)
- 発展的に考え、その結果を説明すること(B2-2)
- 文字式で表し、理由を数学的な表現を用いて説明すること(B3-3)
- 2つの数量の変化の様子を読み取り、その特徴を的確にとらえて説明すること(B5-2)
- 問題解決の方法を数学的に説明すること(B5-3)

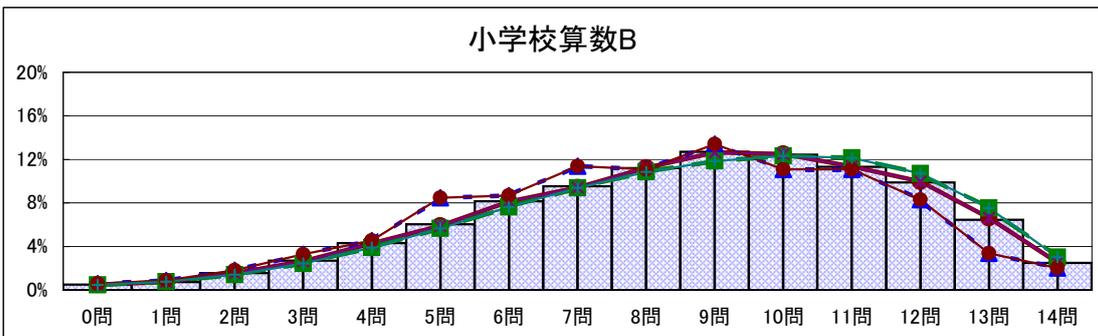
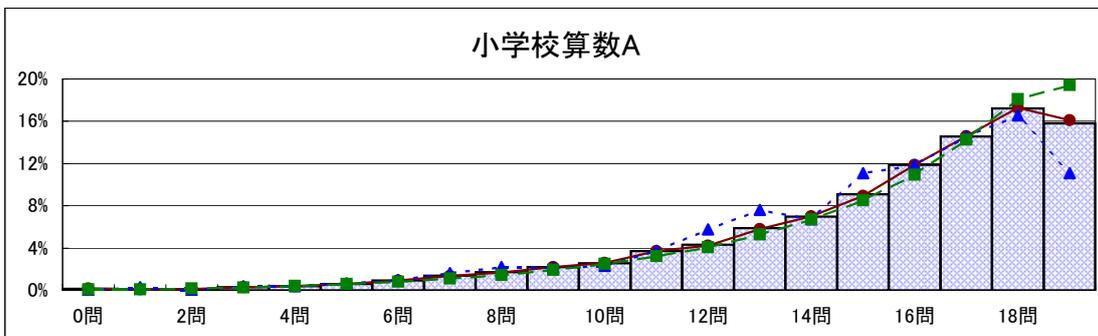
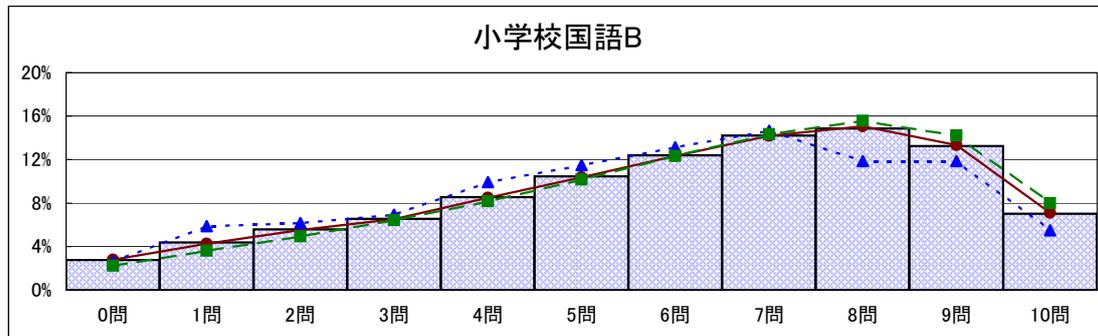
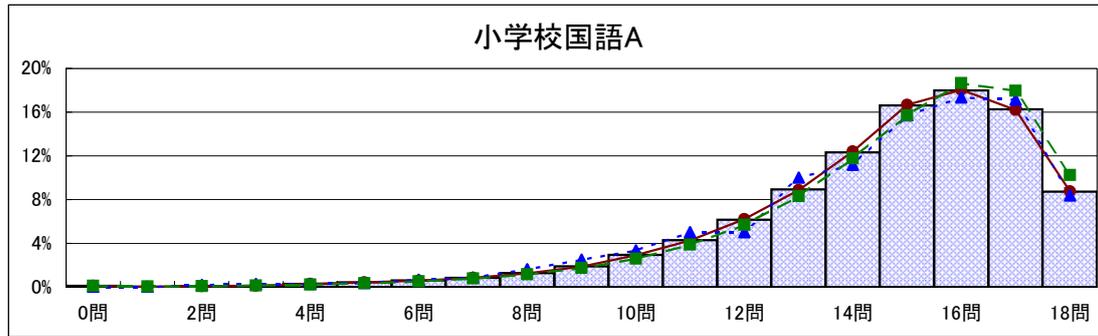
- 文章の立式指導だけでなく、式をよむ活動を取り入れる。
- 関数のグラフでは、単にグラフのかき方を指導するだけでなく、具体的な事象をイメージできるように、グラフをよんだり説明したりする活動を重視した授業づくりをする。
- オープンアプローチの課題を設定することにより、生徒の主体的な取り組みを促す。
- グループで各自の考え方を説明する場面を設定することにより、論理的に筋道を立てて説明する力を育てる。
- 数学を生み出したり、数学を利用したり、数学的に伝え合ったりするなどの数学的活動を充実した授業づくりをする。
- 帰納的な考え方が必要な課題を設定し、生徒が自ら情報を整理する方法を見いだす活動を取り入れる。

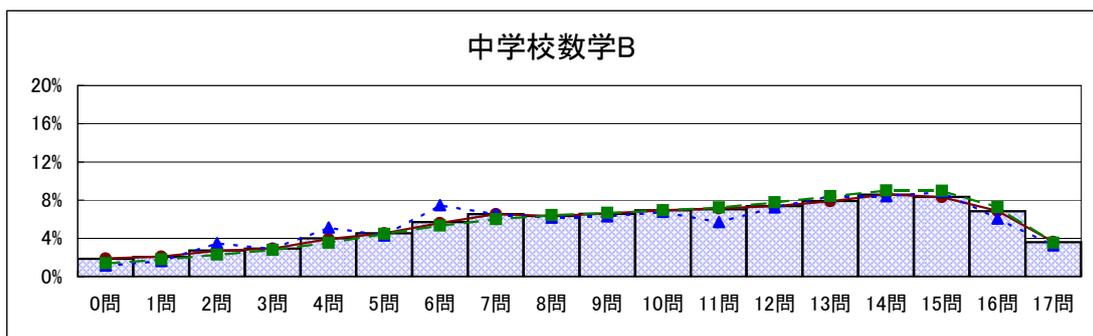
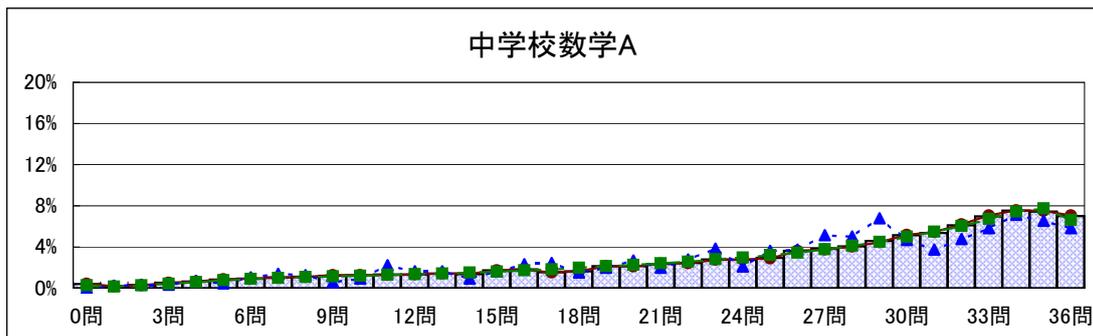
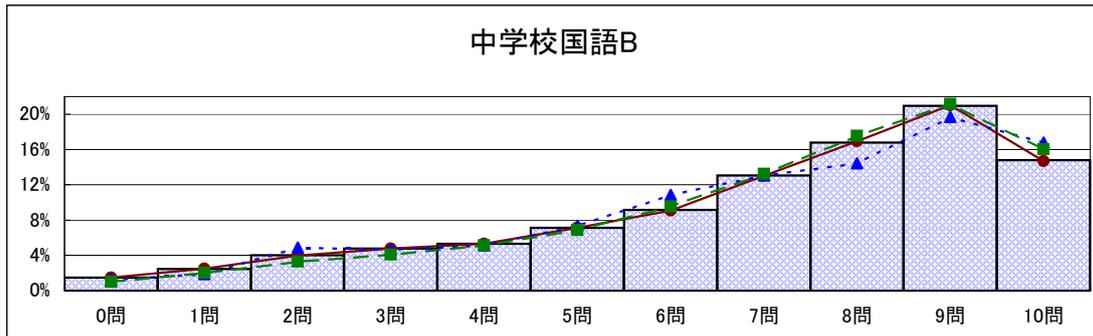
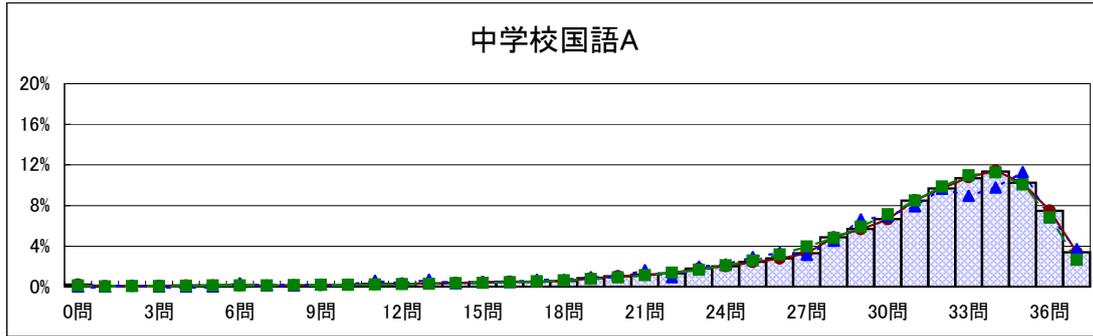
3 調査結果の概要（県立学校を除く公立学校）

(1) 学力分布の状況（横軸：正答数、縦軸：児童・生徒の割合）

①市部と郡部の状況

平均正答率 (標準偏差)	小学校 国語A	国語B	算数A	算数B	中学校 国語A	国語B	数学A	数学B
全国	81.7(2.8)	62.0(2.6)	82.1(3.4)	63.6(3.0)	81.6(5.5)	72.0(2.4)	71.9(8.7)	60.6(4.3)
岡山県	80.6(2.8)	60.0(2.7)	80.5(3.5)	62.1(3.0)	81.9(5.8)	70.0(2.6)	71.9(8.9)	58.8(4.5)
市部	80.6(2.8)	61.0(2.7)	80.5(3.5)	62.1(3.0)	81.9(5.8)	70.0(2.6)	71.9(8.9)	58.8(4.5)
郡部	80.0(2.9)	57.0(2.7)	78.9(3.5)	58.6(2.9)	81.1(5.8)	70.0(2.6)	70.6(8.6)	58.2(4.4)



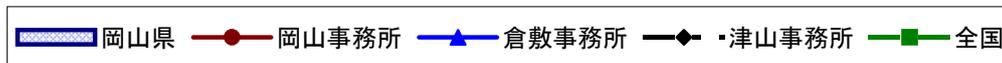
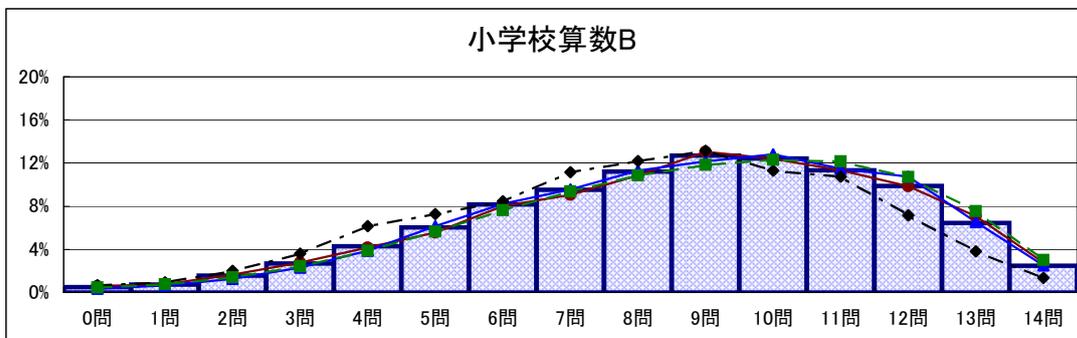
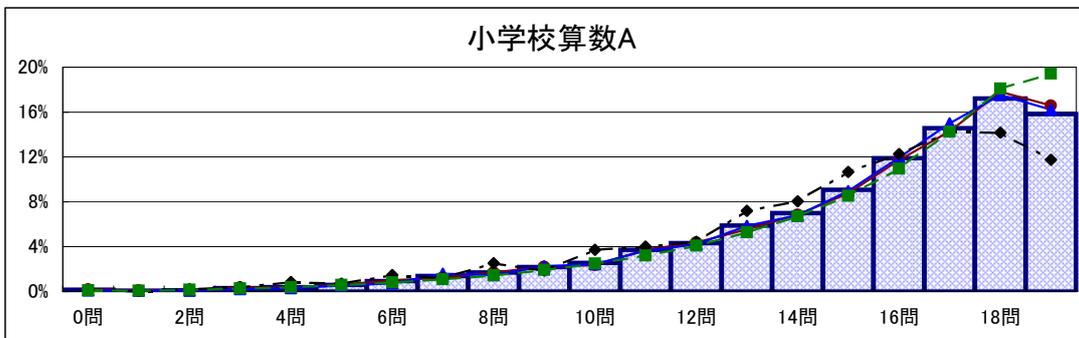
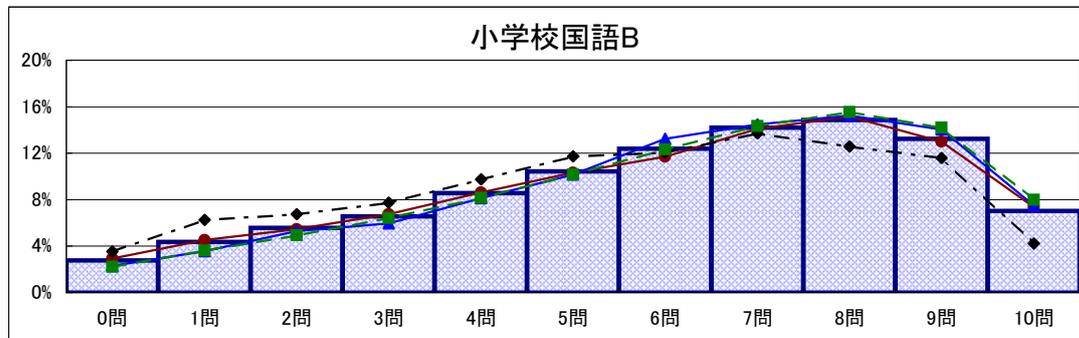
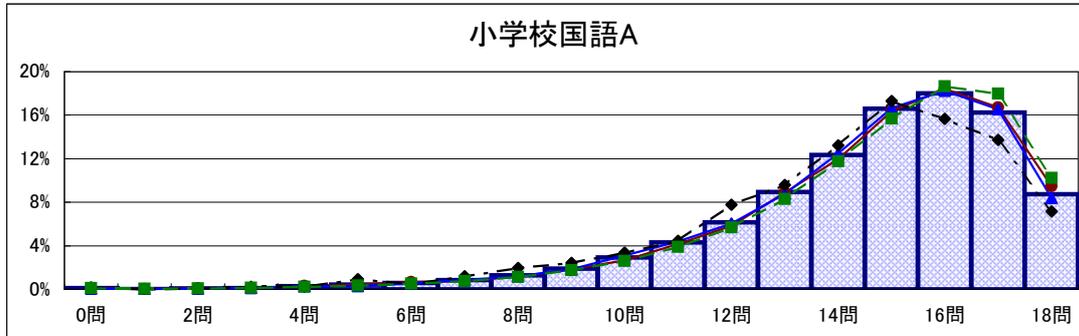


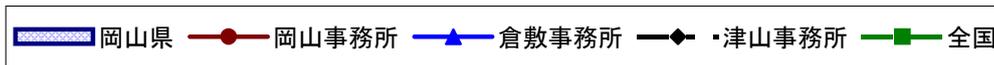
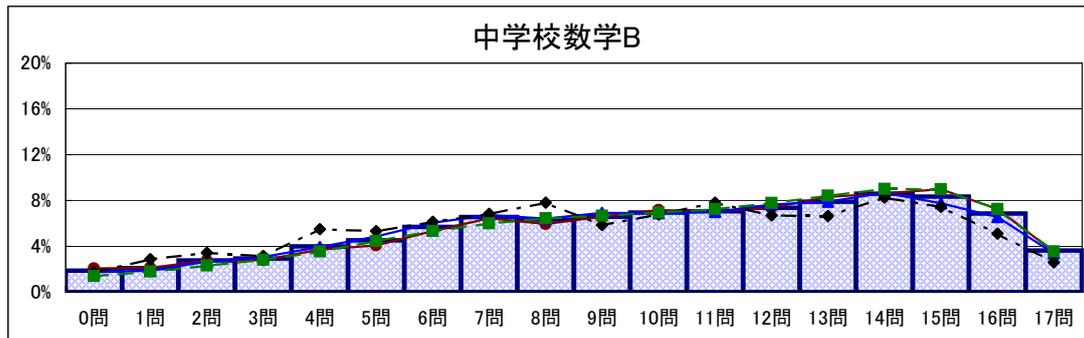
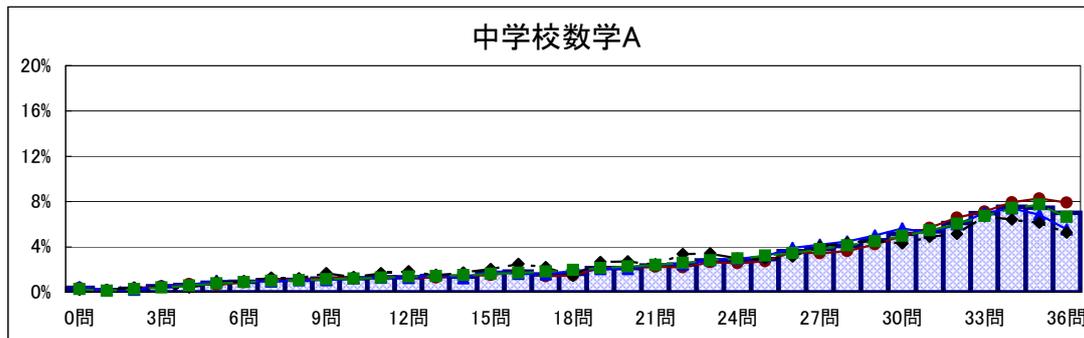
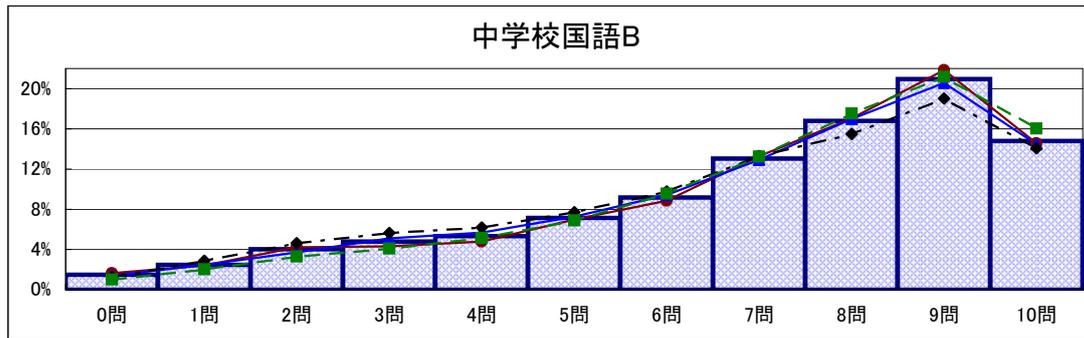
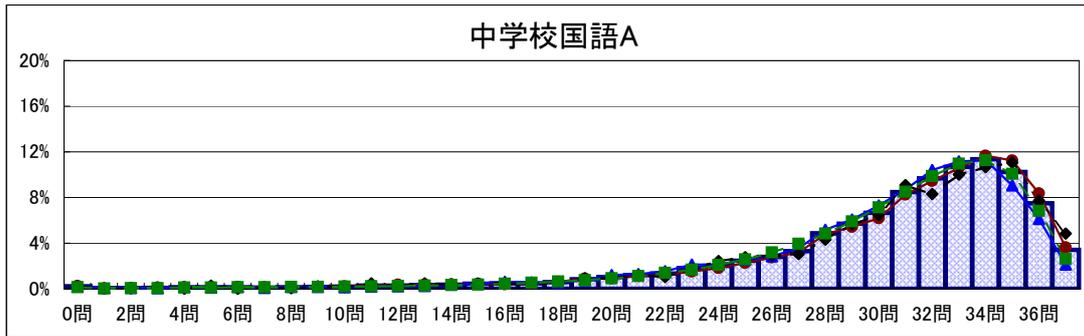
○平均正答率を見ると、小学校では、市部・郡部ともに全国をやや下回っている。中学校では、市部のA問題を除いた他の科目で、郡部・市部とも全国をやや下回っている。

○正答数の分布を見ると、市部は、小・中学校とも全国の状況とよく似ているが、郡部の小学校では、国語Aを除いて上位層がやや少なく、中位から下位層がやや多くなっており、中学校では、国語A Bと数学Aで上位層がやや少なく、数学Bで中位から下位層がやや多い。

②教育事務所ごとの状況

平均正答率 (標準偏差)	小学校 国語A	国語B	算数A	算数B	中学校 国語A	国語B	数学A	数学B
全国	81.7(2.8)	62.0(2.6)	82.1(3.4)	63.6(3.0)	81.6(5.5)	72.0(2.4)	71.9(8.7)	60.6(4.3)
岡山県	80.6(2.8)	60.0(2.7)	80.5(3.5)	62.1(3.0)	81.9(5.8)	70.0(2.6)	71.9(8.9)	58.8(4.5)
岡山	81.1(2.8)	60.0(2.7)	81.1(3.5)	62.1(3.0)	82.9(5.9)	70.3(2.6)	72.8(8.9)	59.4(4.5)
倉敷	80.6(2.7)	62.0(2.6)	81.1(3.4)	62.9(2.9)	81.1(5.7)	69.7(2.6)	71.4(8.7)	58.2(4.4)
津山	78.3(2.9)	56.0(2.7)	77.9(3.6)	57.9(3.0)	81.9(5.8)	68.0(2.6)	68.6(8.9)	55.3(4.5)



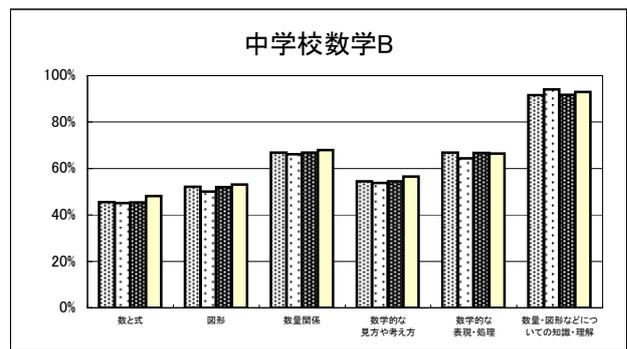
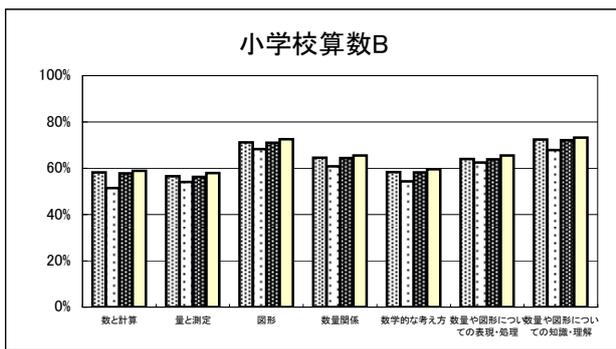
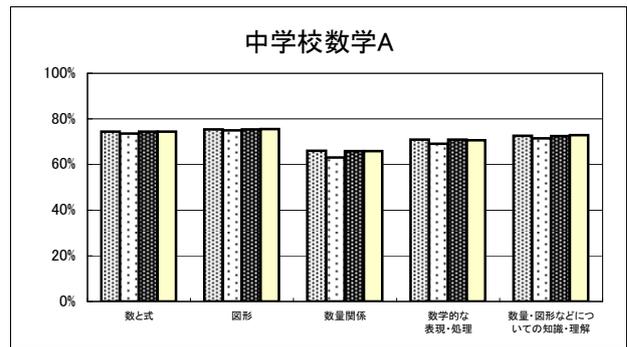
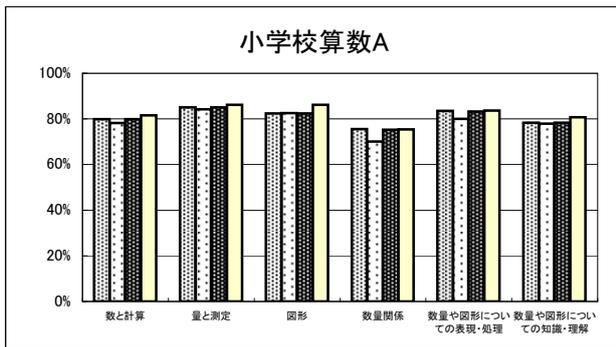
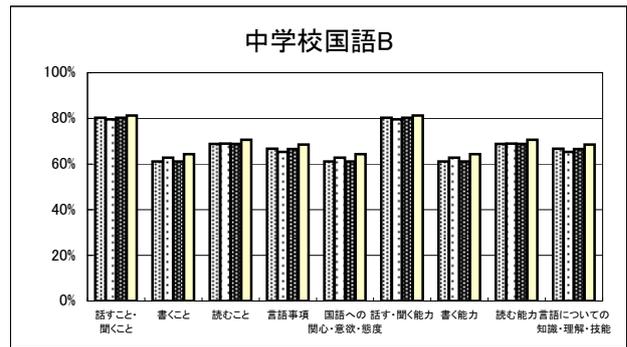
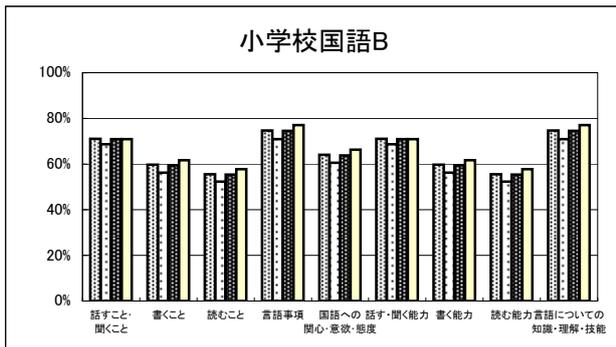
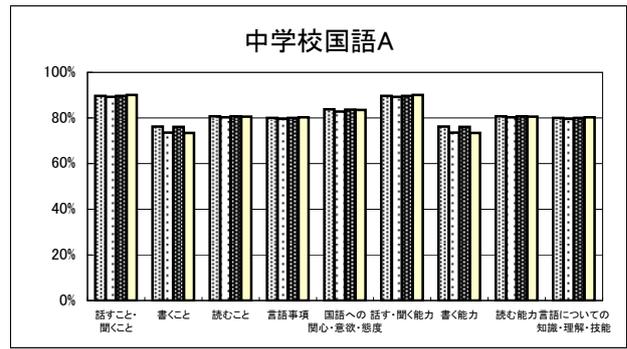
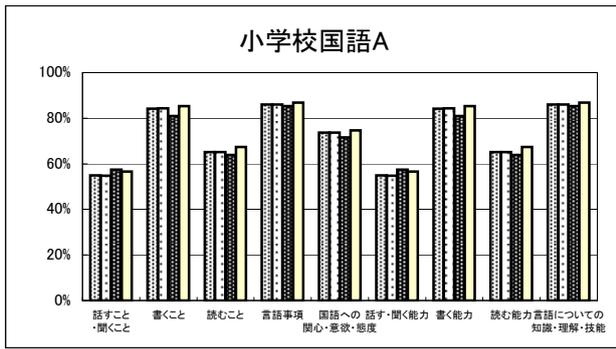


○平均正答率を見ると、小学校では、岡山・津山管内のどの科目も、倉敷管内の国語B以外で、全国をやや下回っている。中学校では、岡山管内のA問題、津山管内の国語Aで、全国を上回っているが、岡山管内ではB問題、倉敷管内ではどの科目も、津山管内では国語A以外で、全国の平均をやや下回っている。

○正答数の分布を見ると、小・中学校とも全国とよく似ているが、津山管内の小学校ではどの教科も上位層がやや少なく中位から下位層の数がやや多くなっており、中学校では数学Bにおいて、中位から下位層の数がやや多くなっている。

(2) 領域・観点別の状況 (横軸:領域および観点、縦軸:児童・生徒の平均正答率)

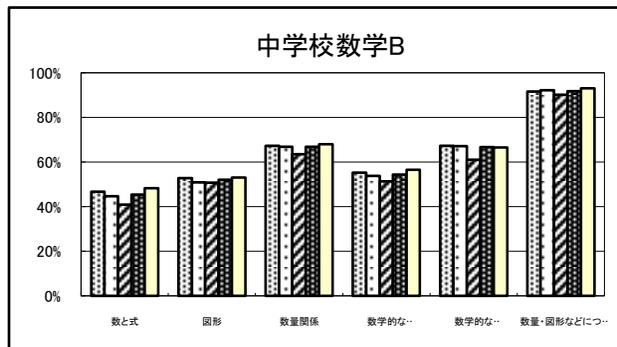
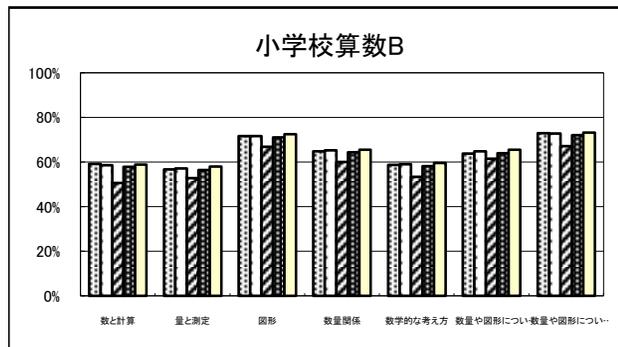
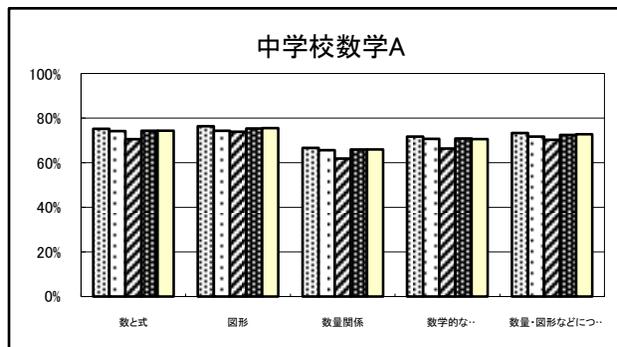
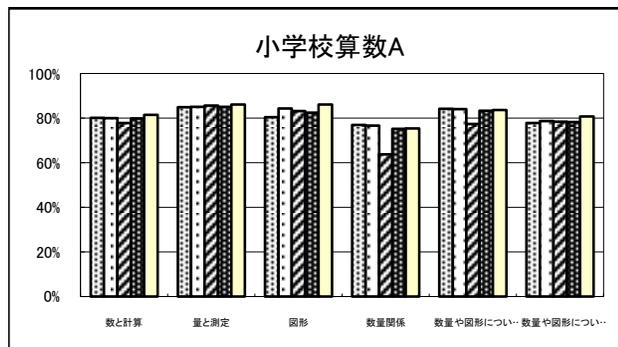
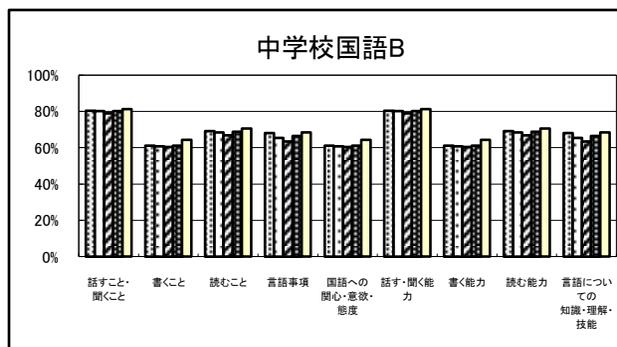
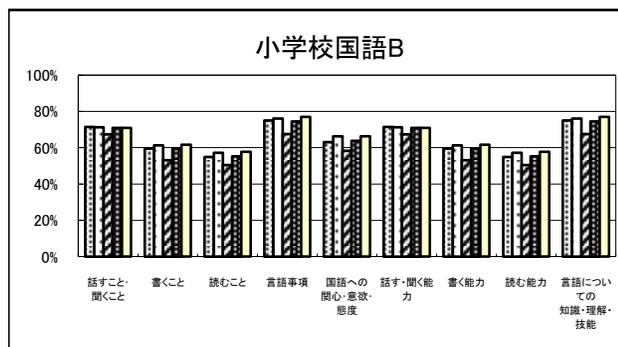
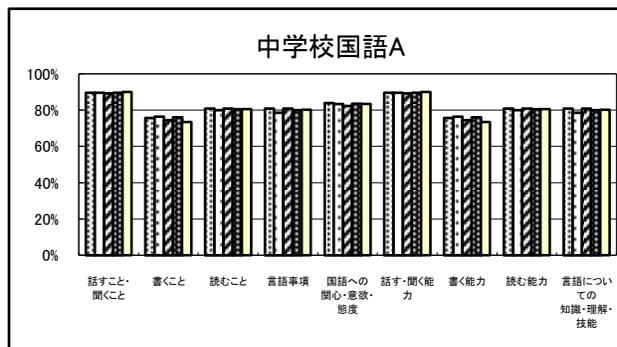
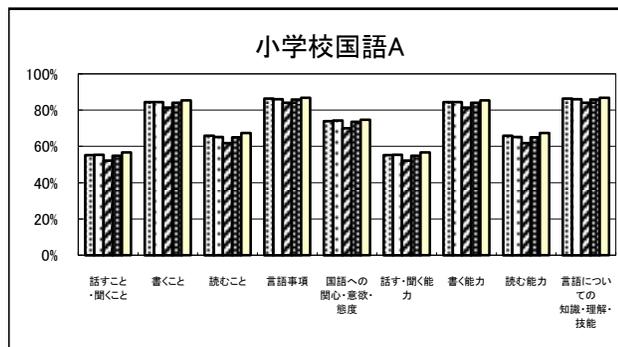
①市部と郡部の状況



市部
 郡部
 岡山県
 全国

○県、市部・郡部、教育事務所ともに、領域・観点別の状況は全国とよく似ている。
 ○小学校の国語では、「言語事項」は概ね良好であるが、「書くこと」や「読むこと」、算数では、「数と計算」「量と測定」について、活用する力に課題が見られる。
 ○中学校の国語では、「話すことや聞くこと」は概ね良好であるが、「書くこと」や「言語事項」、数学においては、「数と式」「図形」について、活用する力に課題が見られる。

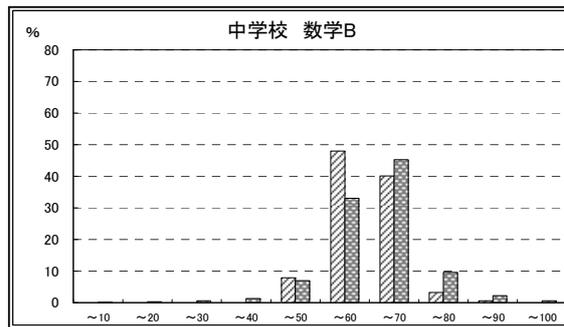
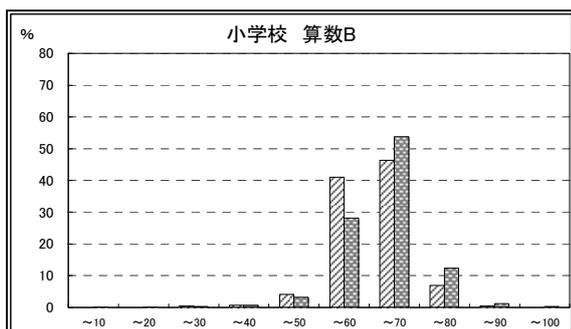
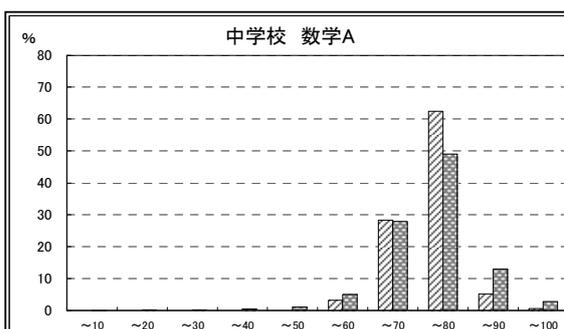
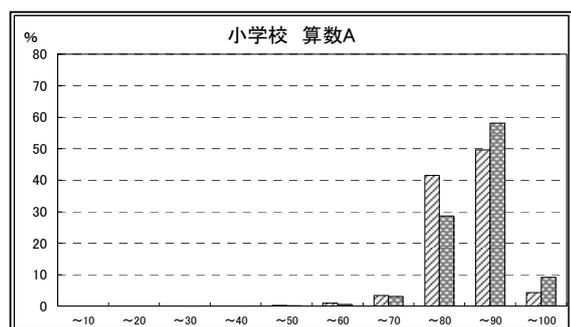
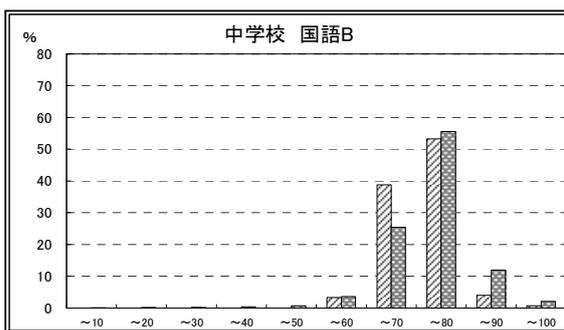
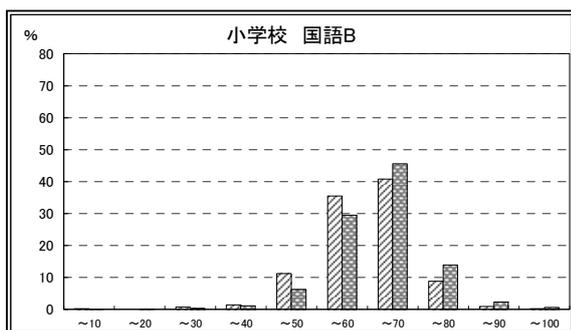
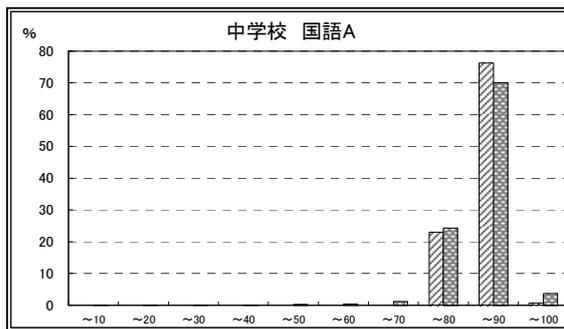
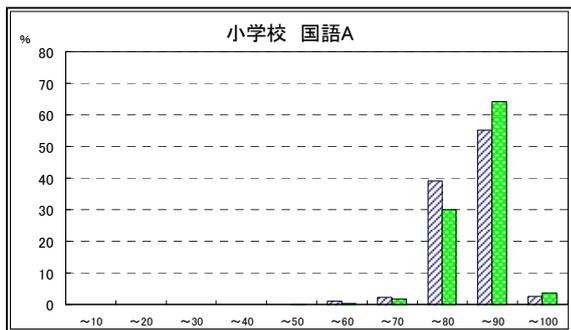
②教育事務所ごとの状況



岡山
 倉敷
 津山
 岡山県
 全国

○郡部、津山教育事務所管内では、他と比べて平均正答率が若干低くなっているところが見られる。
 ○領域や観点ごとの分類では、それぞれ問題数が少なくなるため、領域や観点間の比較には、留意が必要である。

(3) 学校の分布の状況 (横軸:学校の平均正答率、縦軸:学校の割合)



岡山県(公立)

全国(公立)

○小学校では、平均正答率が高い学校が全国より少なく、平均正答率が低い学校が多い。
○中学校では、平均正答率が高い学校が全国より少なく、平均正答率が低い学校が少ない。

(4) 児童生徒質問紙の状況

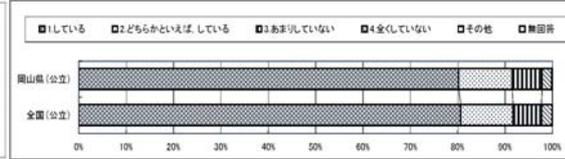
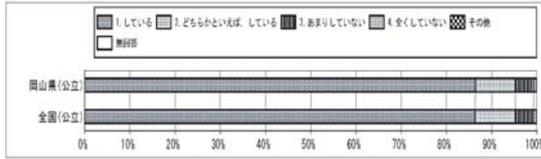
全国と比べて特徴的な傾向が見られた岡山県の児童生徒質問紙の項目を、①家庭生活、②自尊感情や規範意識、③学校生活、④学習習慣の4つに整理するとともに、それぞれについて学力との関連を調べた。

①家庭生活

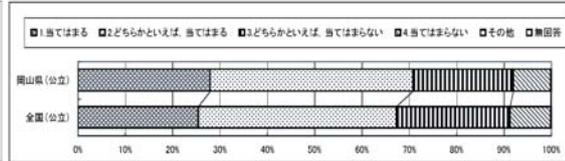
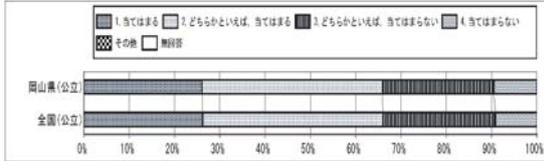
[小学校]

[中学校]

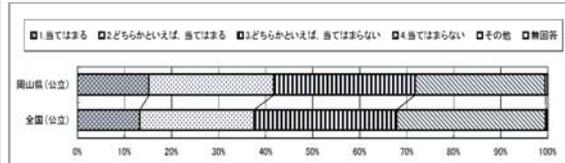
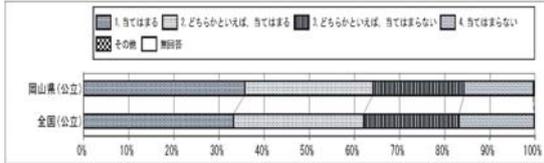
A 毎日朝食を食べていますか



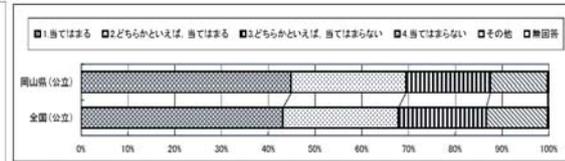
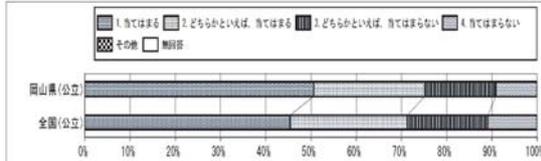
B 新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか



C 今住んでいる地域の行事に参加していますか



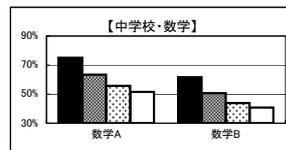
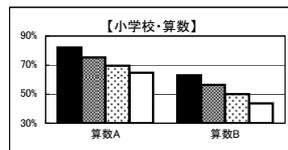
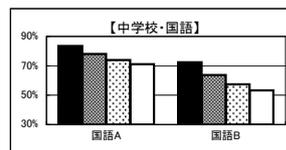
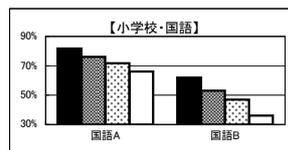
D 読書は好きですか



地域の行事への参加や読書への関心は、小中学校ともに全国より肯定的な回答が多く、新聞やテレビのニュースへの関心は特に中学校でその傾向が強い。

学力との相関（横軸：質問紙の回答，縦軸：平均正答率）

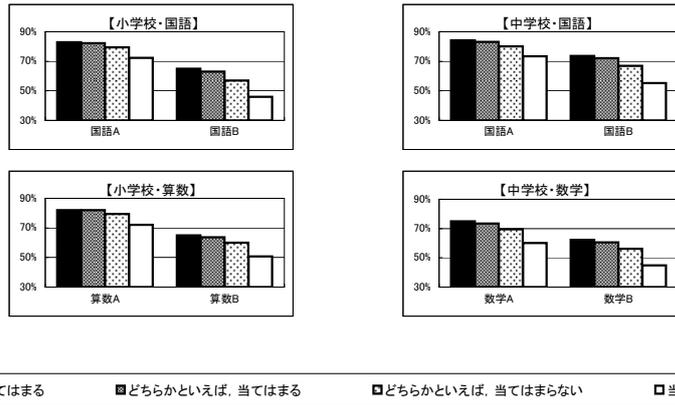
A 毎日朝食を食べていますか



■ 1日している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない ■ 全くしていない

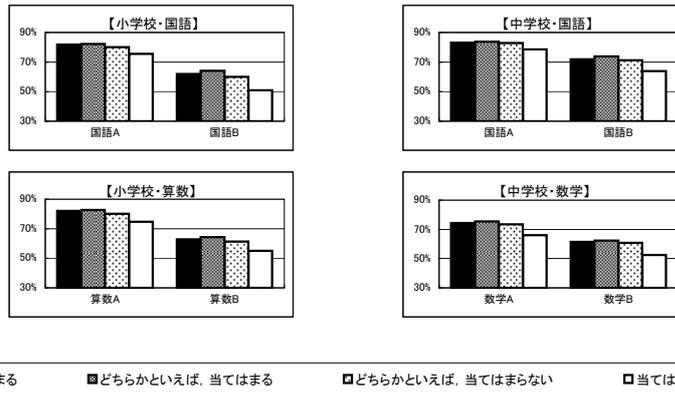
朝食を毎日食べている児童生徒の方が、正答率が高くなっている。これまで基本的な生活習慣の定着と学力については、関連があると言われてきたが、そのとおりの結果となった。

B 新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか



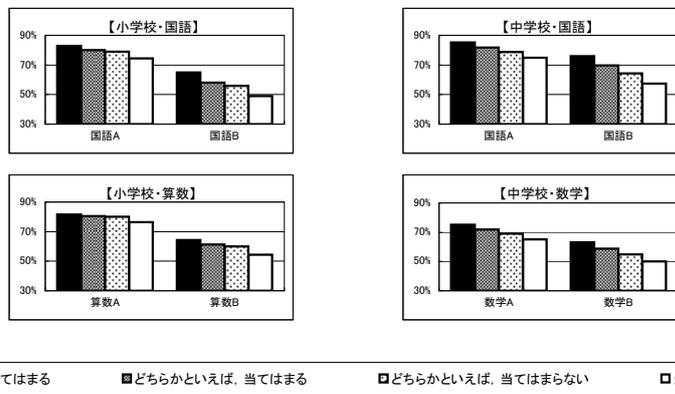
社会の出来事や身の回りのニュースなどに関心の高い児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。特にB問題においてその傾向が強く見られる。

C 今住んでいる地域の行事に参加していますか



地域やそこに住んでいる人、行事に関心が高く、行事に参加している児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られる。

D 読書は好きですか



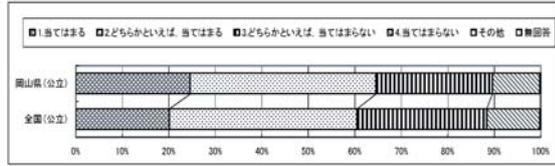
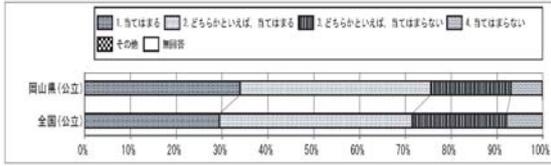
読書が好きな児童生徒ほど、国語、算数・数学ともに平均正答率が高い傾向が見られる。

② 自尊感情や規範意識

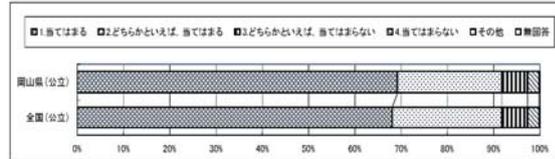
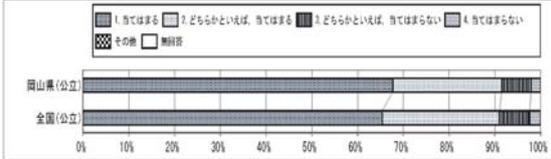
[小学校]

[中学校]

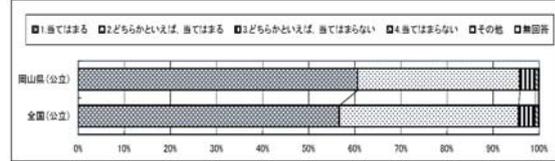
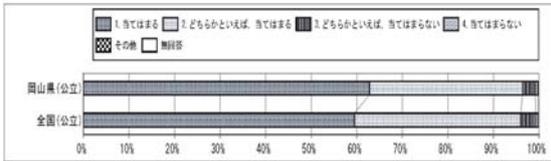
A 自分にはよいところがあると思いますか



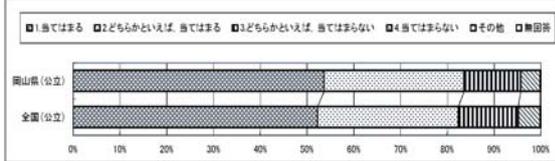
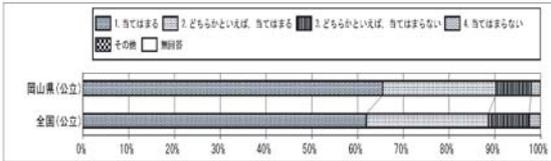
B 人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか



C 友達との約束を守っていますか



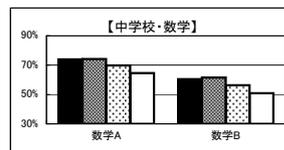
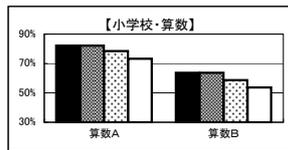
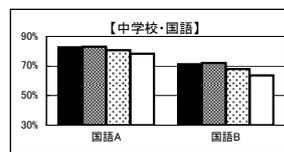
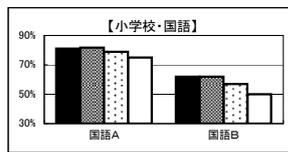
D 近所の人に出会ったときは、あいさつをしていますか



全国に比べて自己肯定感が強い上に、より豊かな人間性を求める高い道徳性がうかがえる。

学力との相関（横軸：質問紙の回答、縦軸：平均正答率）

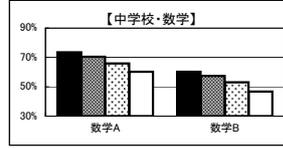
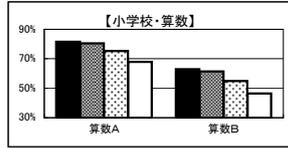
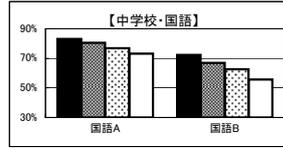
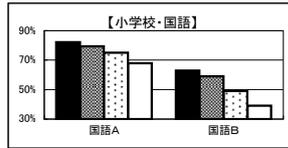
A 自分にはよいところがあると思いますか



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

特に自尊感情が低い児童生徒の平均正答率が低い傾向が見られることから、自分に自信がないことが学力に影響していると考えられる。

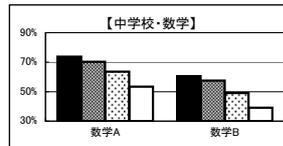
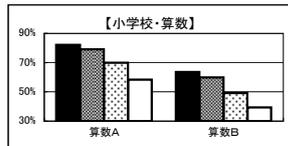
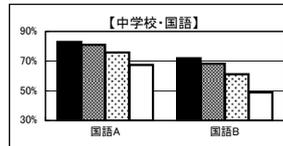
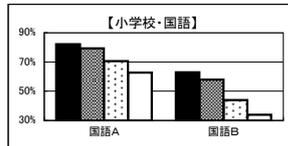
B 人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

人間的に豊かな成長を遂げようとする向上心が高い児童生徒は、平均正答率が高くなる傾向が見られる。

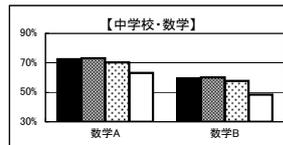
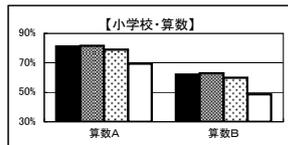
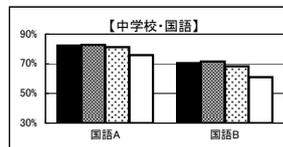
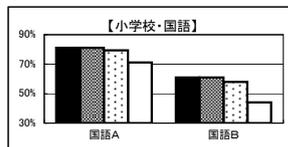
C 友達との約束を守っていますか



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

②の項目で最も学力との相関が強い傾向が見られた。特に「当てはまらない」と回答した児童生徒のB問題の平均正答率が40%を下回っていることから、規範意識が学力に影響していることがうかがえる。

D 近所の人に会ったときは、あいさつをしていますか



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

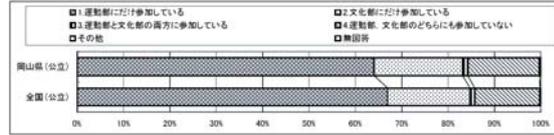
人とかわろうとする態度が積極的な児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られる。

③学校生活

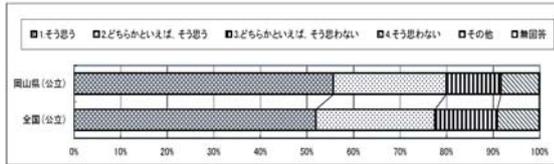
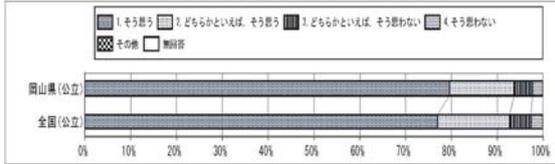
[小学校]

[中学校]

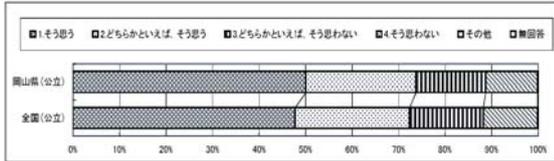
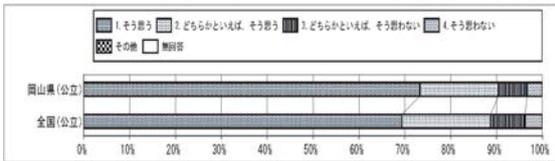
A 学校の部活動に参加していますか



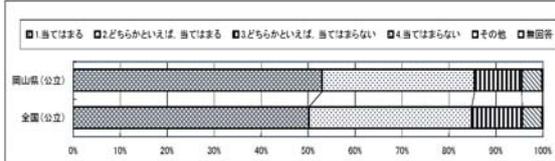
B 学校で好きな授業がありますか



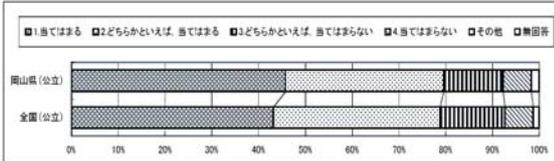
C 学校で楽しみにしている活動がありますか



D 国語で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



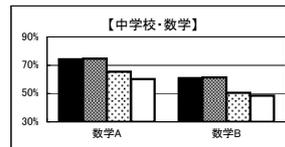
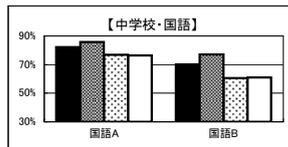
D 数学の勉強は大切だと思いますか



全国より学校で好きな授業や楽しみにしている活動がある、あるいは、教科の学習が大切だとか社会に出て役に立つといった回答が多いことから、学校生活に適応している児童生徒が全国より多く、学校生活に寄せる期待が大きいことがうかがえるが、部活動への参加はやや少ない傾向が見られる。

学力との相関（横軸：質問紙の回答、縦軸：平均正答率）

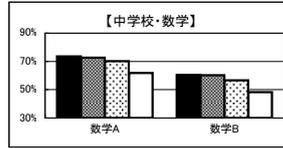
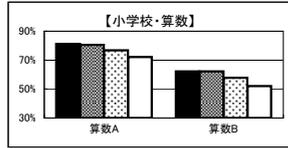
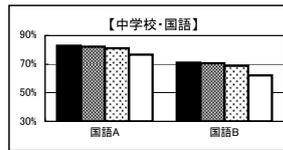
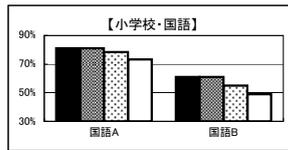
A 学校の部活動に参加していますか



■ 運動部だけに参加している
 ■ 文化部だけに参加している
 ■ 運動部と文化部の両方に参加している
 ■ 運動部、文化部のどちらにも参加していない

部活動に参加している生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

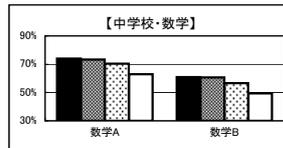
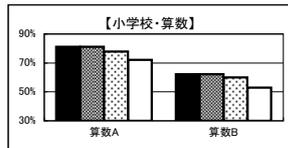
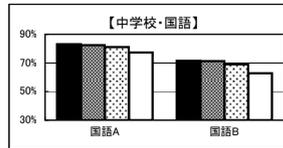
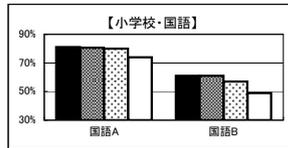
B 学校で好きな授業がありますか



■当てはまる ▨どちらかといえば、当てはまる ▩どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

学校で好きな授業がある児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

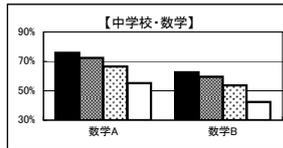
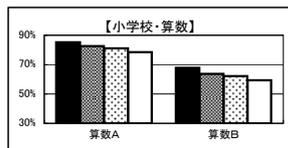
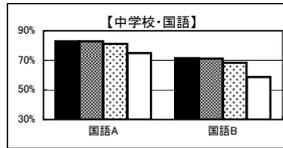
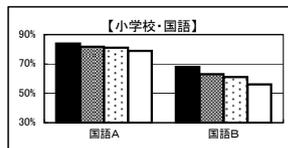
C 学校で楽しみにしている活動がありますか



■当てはまる ▨どちらかといえば、当てはまる ▩どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

学校で楽しみにしている活動がある児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

D 国語で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思います



■当てはまる ▨どちらかといえば、当てはまる ▩どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

学習したことが役に立つだとか、教科の勉強が大切だとかといった学習に対する有用感を感じている児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

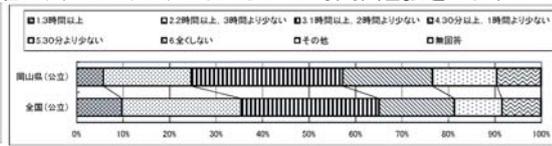
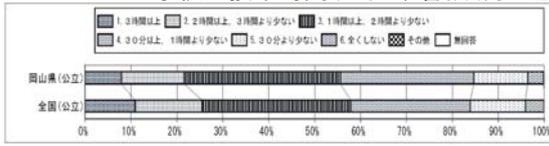
D 数学の勉強は大切だと思いますか

④学習習慣

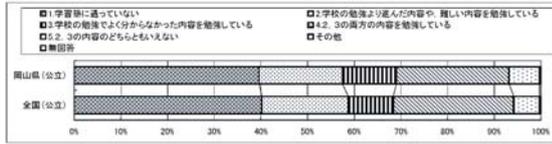
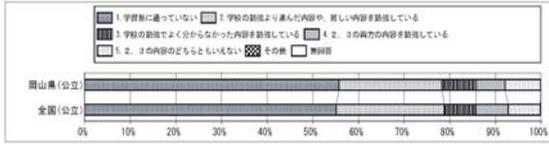
[小学校]

[中学校]

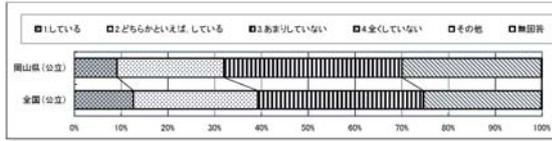
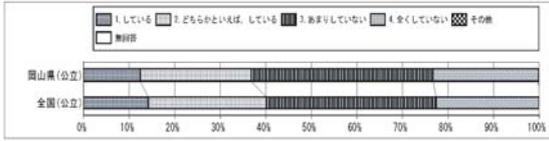
A 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



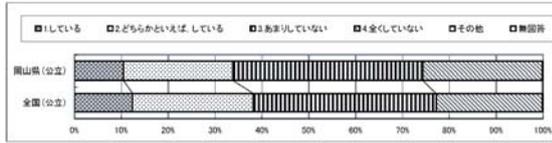
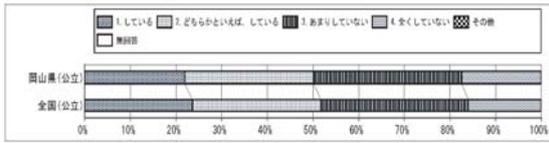
B 学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか。



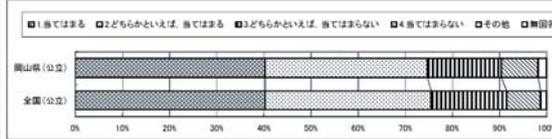
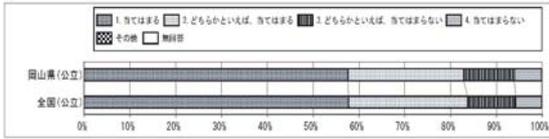
C 家で学校の授業の復習をしていますか



D 勉強する時間を自分で決めて実行していますか



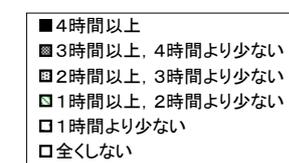
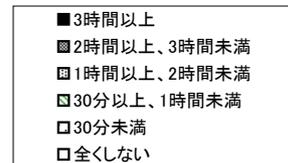
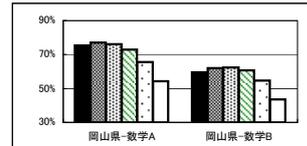
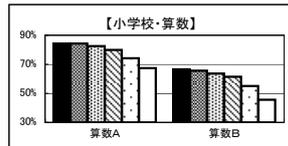
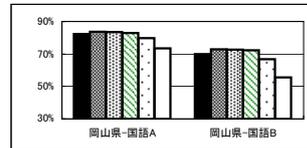
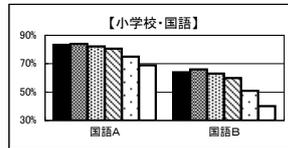
E 遊んでいるときや買い物に行ったときなど、普段の生活の中で計算をする必要がある場合、暗算をすることがありますか



全国と比べて、学校の授業時間以外の勉強時間の確保や授業の復習をするといった学習習慣、学んだことを生活に生かそうとする姿勢に課題が見られる。

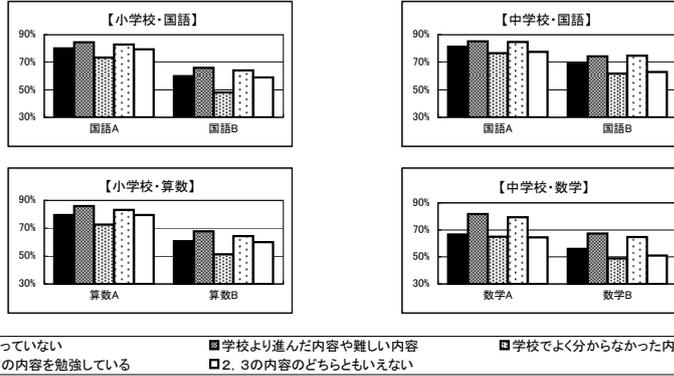
学力との相関 (横軸: 質問紙の回答、縦軸: 平均正答率)

A 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



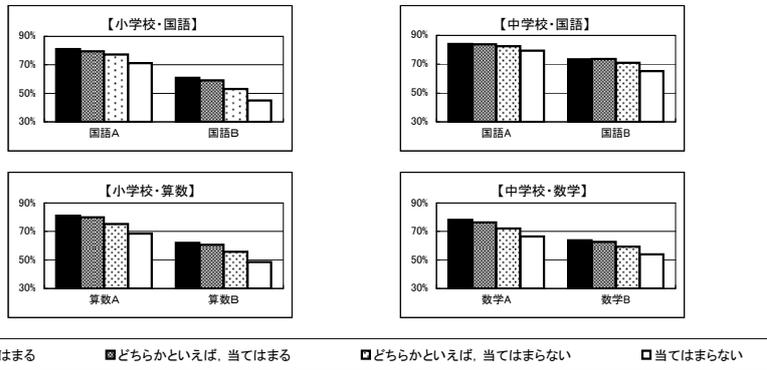
勉強時間が長いほど平均正答率が高くなる傾向が見られる。

B 学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか。



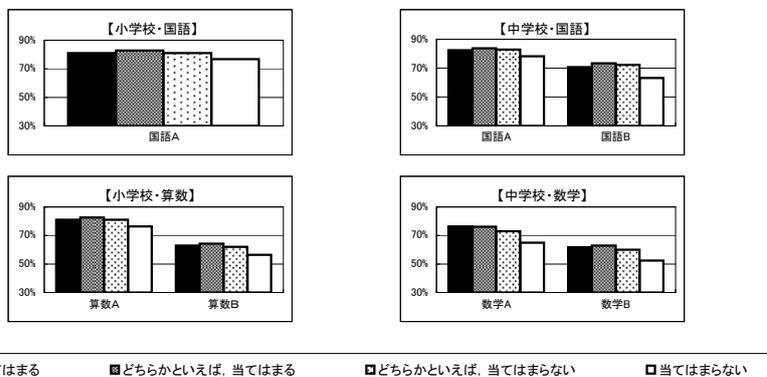
学習塾(家庭教師を含む)で、「学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強している」「両方の内容を勉強している」「通っていない」「学校の勉強でよく分からなかった内容を勉強している」児童生徒の順に、平均正答率が高い傾向が見られる。

C 家で学校の授業の復習をしていますか



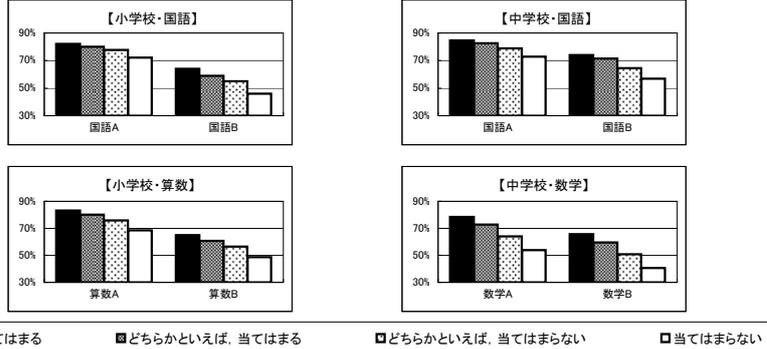
家で授業の復習をしている児童生徒ほど平均正答率が高い傾向が見られる。

D 勉強する時間を自分で決めて実行していますか



勉強する時間を決めて実行していない児童生徒ほど平均正答率が低い傾向が見られる。

E 遊んでいるときや買い物に行ったときなど、普段の生活の中で計算をする必要がある場合、暗算をすることがありますか



答えの見当をつけたり、確かめたりするために暗算をするなど、学校で学習したことを生活の中で活用しようとする児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

(5) 学校質問紙の状況

①全国と比較して特徴的な項目

取組や指導方法において、肯定的な回答の割合が高い順にならべたときに90%以上で、全国の割合より高い項目

岡山県 全国

小学校	(70)	第6学年の児童に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか	99.3	93.2
	(82)	学校評議員(類似の制度によるものを含む)制度を取り入れていますか	99.1	88.5
	(83)	学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか	99.1	98.7
	(59)	第6学年の児童に対する算数の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	98.6	97.5
	(51)	第6学年の児童に対する国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	98.1	97.1
	(79)	保護者からの意見や要望を聞くために、懇談会の開催やアンケート調査を実施していますか	98.1	97.8
	(61)	第6学年の児童に対する算数の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	97.6	97.3
	(30)	第6学年の児童に対して、「朝の読書」などの一斉読書の時間を設けていますか	95.7	92.0
中学校	(83)	学校の自己点検評価の結果を学校運営の改善に生かしていますか	98.2	97.5
	(22)	第3学年の生徒のうち、日本語指導が必要な生徒の割合	97.6	94.1
	(60)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	97.6	88.6
	(68)	職場見学や職場体験活動を行っていますか	97.6	96.0
	(70)	第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間に実施しましたか	97.6	83.8
	(72)	第3学年の生徒に対する家庭訪問は、学校で決めた期間以外に、何か問題が起きた時にも実施しましたか	97.0	95.1
	(82)	学校評議員(類似の制度によるものを含む)制度を取り入れていますか	97.0	91.5
	(79)	保護者からの意見や要望を聞くために、懇談会の開催やアンケート調査を実施していますか	96.4	96.3
	(43)	第3学年の生徒の学力を把握するため、学年末テストや学期末テストの結果の分析を行いましたか	95.2	94.0
	(53)	第3学年の生徒に対する国語の指導として、家庭学習の課題(宿題)を与えましたか	95.2	84.0
(62)	第3学年の生徒に対する数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか	94.6	93.2	
(16)	第3学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか	90.4	84.0	

取組や指導方法において、肯定的な回答の割合が高い順にならべたときに50%以下で、全国の割合より10ポイント以上低い項目

岡山県 全国

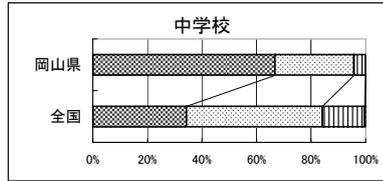
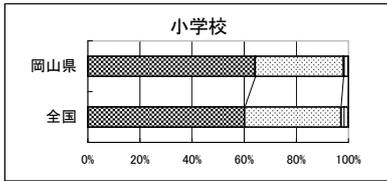
小学校	(49)	第6学年の児童に対する国語の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか	49.2	65.0
	(60)	第6学年の児童に対する算数の指導として、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	48.7	60.1
	(48)	第6学年の算数の授業で習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を行いましたか	47.5	59.9
	(46)	第6学年の算数の授業で習熟の遅いグループに対して複数の教員による指導を行い、習得できるようにしましたか	44.6	58.3
	(58)	第6学年の児童に対する算数の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	44.2	58.3
	(35)	第6学年の児童に対して、長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施していますか	37.2	47.8
	(44)	第6学年の国語の授業で習熟の遅いグループに対して少人数による指導や個別指導を行い、習得できるようにしましたか	24.4	36.8
	(50)	第6学年の児童に対する国語の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか	22.7	33.4
	(29)	第6学年の児童に対して、都道府県又は市区町村が実施する学力向上のための事業による指定を受けたことがありますか	13.1	23.5
	(38)	第6学年の児童の学力を把握するため、都道府県が実施する学力調査を行いましたか	11.9	59.5
中学校	(50)	第3学年の数学の授業で習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を行いましたか	45.2	57.6
	(76)	家庭への定期的な連絡方法として、学級便り又は学年便りを発行しましたか	43.4	59.3
	(48)	第3学年の数学の授業で習熟の遅いグループに対して複数の教員による指導を行い、習得できるようにしましたか	39.2	51.5
	(84)	学校のホームページを利用して、自己点検評価の結果を公表していますか	38.5	54.1
	(41)	第3学年の生徒の学力を把握するため、市区町村が実施する学力調査を行いましたか	25.9	36.2

※網かけのところは、本報告で学力との相関を調べ、考察を加えている項目

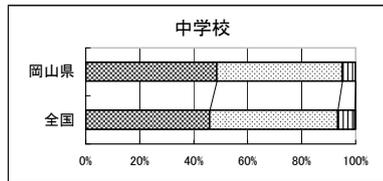
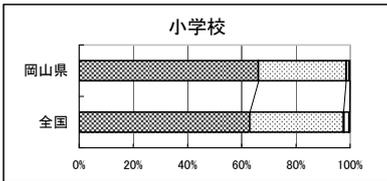
②肯定的な回答の割合が全国より高い主な「学習指導」の項目



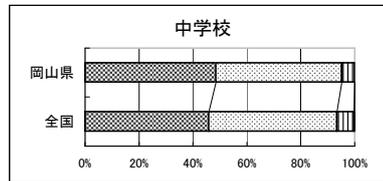
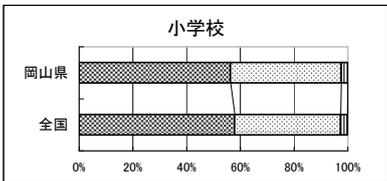
A 国語の学習指導として家庭学習の課題を与えた



B 算数・数学の指導として家庭学習の課題を与えた



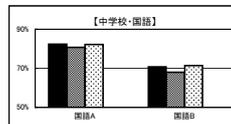
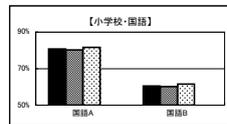
C 算数・数学の指導として計算問題などの反復練習をする授業を行った



全国に比べて、家庭学習の課題を与える割合が高く、特に中学校において、その傾向が顕著となっている。また、算数・数学では、計算問題などの反復練習の実施の割合が高くなっている。

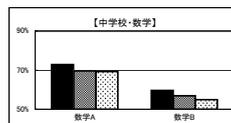
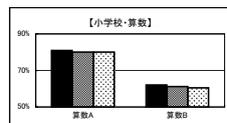
学力との相関（横軸：質問紙の回答、縦軸：平均正答率）

A 国語の学習指導として家庭学習の課題を与えた



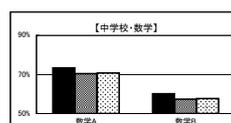
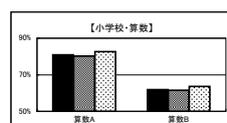
小・中学校ともに、国語の指導として家庭学習を与える頻度と平均正答率との間に相関は認められない。

B 算数・数学の指導として家庭学習の課題を与えた



中学校では、数学の指導として家庭学習を与える頻度が高いほど平均正答率が高い傾向が見られるが、小学校では相関が認められない。

C 算数・数学の指導として計算問題などの反復練習をする授業を行った



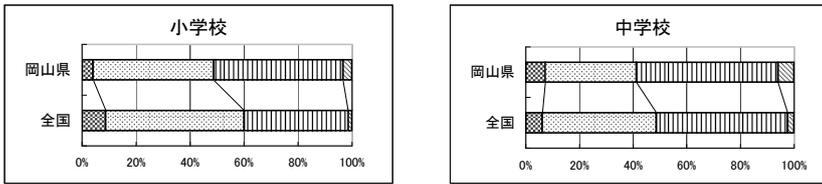
中学校では、数学の指導として計算問題などの反復練習をする頻度が高いほど正答率が高い傾向が見られるが、小学校では相関が認められない。

教科の指導として与える家庭学習の課題のあり方について、その量や質、出し方、提出後の教員の確認や返却の仕方などについて、今後検証していく必要がある。

③肯定的な回答の割合が全国より低い主な「学習指導」の項目

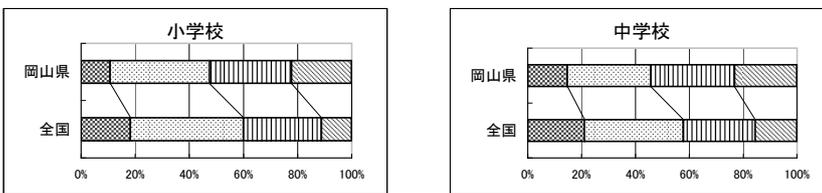


A 算数・数学の指導として実生活における事象との関連を図った授業を行った

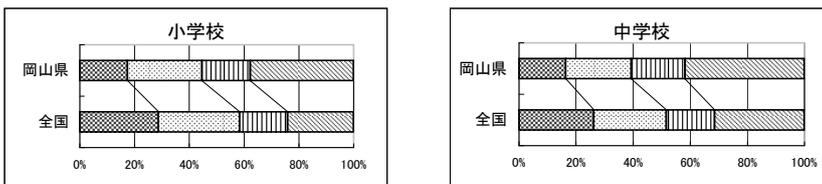


全国に比べて、算数・数学では、実生活との関連を図った授業の実施の割合が低い傾向が見られる。

B 算数・数学の授業で習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を行った

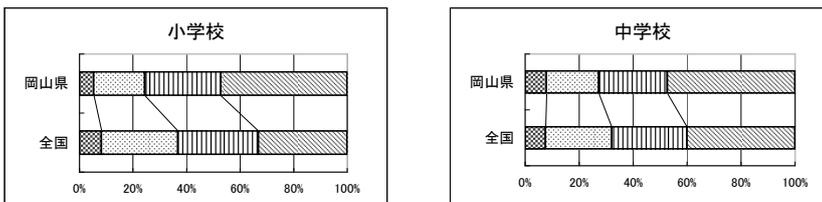


C 算数・数学の授業で習熟の遅いグループに対して複数の教員による指導を行い、習得できるようにした



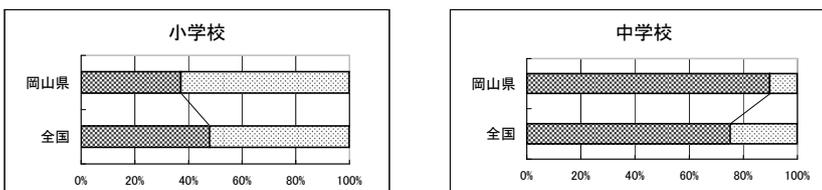
全国に比べて、算数・数学では、習熟の程度に応じた指導の実施の割合が低い傾向が見られる。

D 国語の授業で習熟の遅いグループに対して少人数による指導や個別指導を行い、習得できるようにした



全国に比べて、国語では習熟の遅いグループに対する少人数指導や個別指導の割合が低い傾向が見られる。

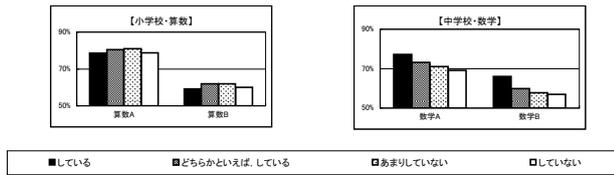
E 長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施している



全国に比べて、小学校では長期休業中の補充的な学習サポートの実施の割合が低い傾向が見られたが、中学校では逆に高い傾向が見られた。

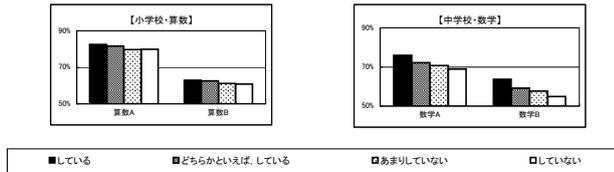
学力との相関（横軸：質問紙の回答、縦軸：平均正答率）

A 算数・数学の指導として実生活における事象との関連を図った授業を行った



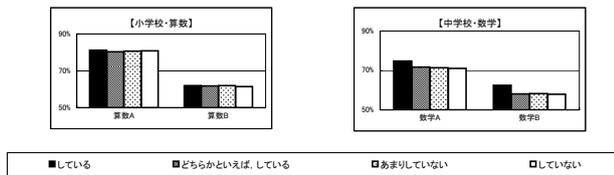
中学校では、数学の指導として実生活における事象との関連を図った授業の頻度が高いほど平均正答率が高い傾向が見られるが、小学校では、最も実施頻度が高い学校の平均正答率が低い傾向が見られた。

B 算数・数学の授業で習熟の早いグループに対して発展的な内容の指導を行った



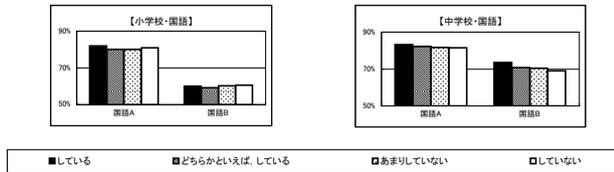
算数・数学の授業で習熟の早いグループに対する発展的な内容の指導の頻度が高いほど平均正答率が高い傾向が見られるが、特に中学校でその傾向が顕著である。

C 算数・数学の授業で習熟の遅いグループに対して複数の教員による指導を行い、習得できるようにした



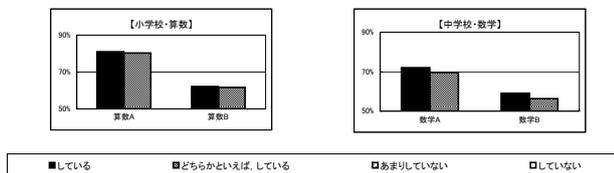
中学校の数学の授業で習熟の遅いグループに対する複数教員による指導の頻度が高いほど平均正答率が高い傾向が見られるが、小学校では相関が認められない。

D 国語の授業で習熟の遅いグループに対して少人数による指導や個別指導を行い、習得できるようにした



中学校では国語の授業で習熟の遅いグループに対する少人数指導や個別指導の頻度が高いほど平均正答率が高い傾向が見られるが、小学校では相関が認められない。

E 長期休業期間を利用した補充的な学習サポートを実施している

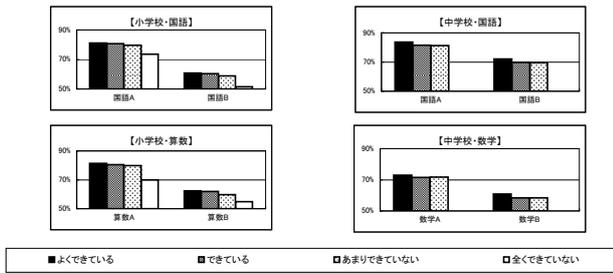


長期休業中の補充的な学習サポートを実施している学校の方が算数・数学の平均正答率が高い傾向が見られるが、小学校では相関が認められない。

特に小学校において、習熟の遅いグループに対する複数教員による指導や少人数指導や個別指導の頻度や長期休業中の補充的な学習サポートの実施と学力との相関が見られなかったが、今後、中学校も含めて指導方法の具体について検証していくことが必要である。

その他、特徴的な傾向が見られた学校質問紙と学力との相関

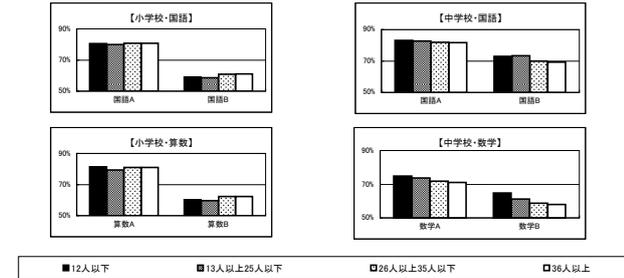
教員の特別支援教育に対する理解と子供の特性に応じた指導



* 中学校の「全くできていない」に対する回答はない

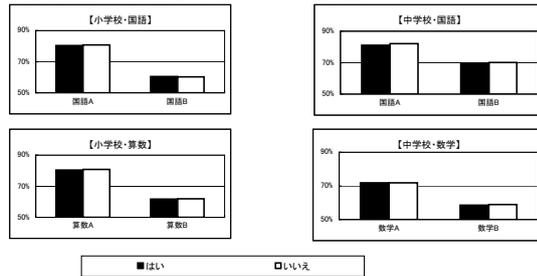
小中学校ともに、教員の特別支援教育に対する理解と子どもの特性に応じた指導ができているほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

1学級あたりの児童生徒数

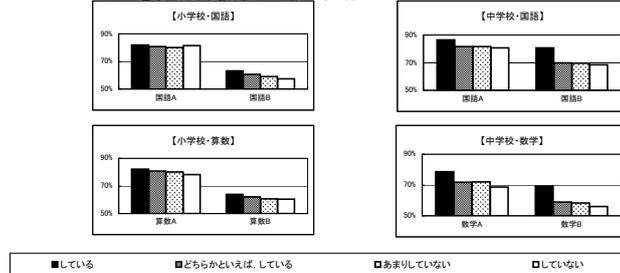


調査対象1学級あたりの児童生徒数については、小学校では明確な相関は認められないが、中学校においては、少人数の方が国語・数学ともに平均正答率が高い傾向が見られる。

普通教室への教育用コンピュータの設置状況

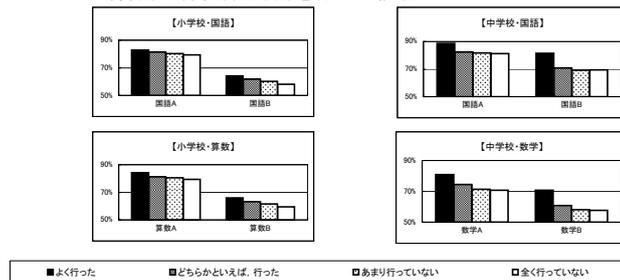


ICTを活用した授業の研修の実施



普通教室への教育用コンピュータの設置の有無については、いずれも平均正答率との相関は認められないが、ICTを活用した授業のための研修の実施については、小・中学校いずれにおいても、よく行っている方が平均正答率が高い傾向が見られる。

博物館や科学館、図書館を利用した授業



小・中学校ともに、博物館や図書館を利用した授業の頻度が高いほど、平均正答率が高い傾向が見られる。

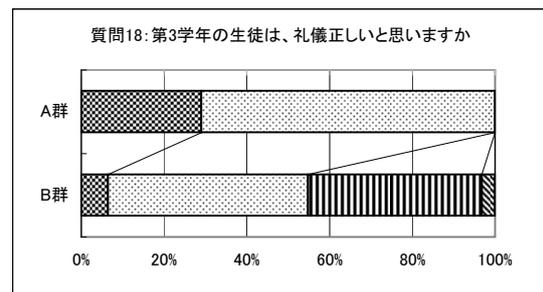
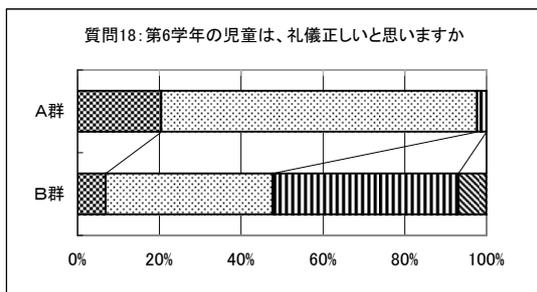
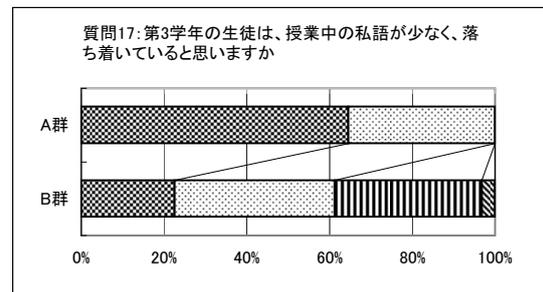
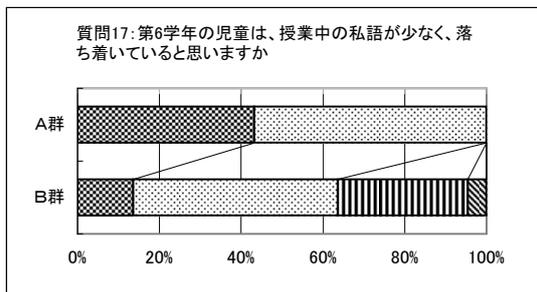
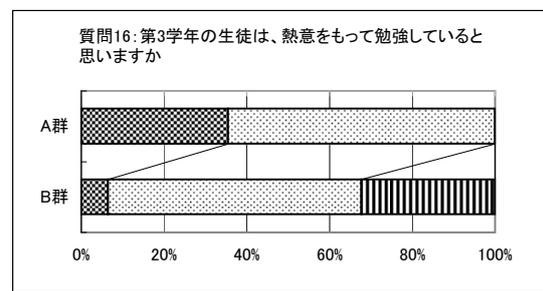
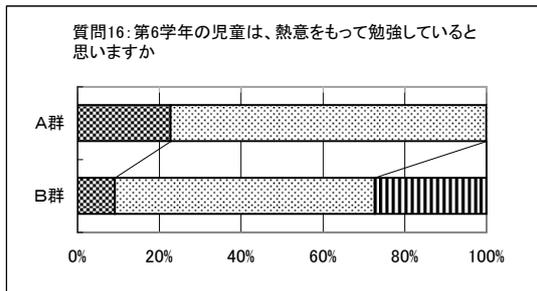
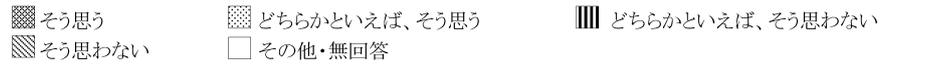
④平均正答率が高い学校と低い学校の特徴

学校の取組が児童生徒の学力に及ぼす影響を調べるため、児童生徒数が20名未満の学校を除いて平均正答率の高い順に並べ、上位25パーセントの学校をA群、下位25パーセントの学校をB群として、学校質問紙の回答状況の結果を比較した。

なお、国の集計は、上位・下位それぞれ10パーセントで行っているが、県においてはサンプル数が少なくなることから、集計方法を変更していることに留意する必要がある。

【小学校】

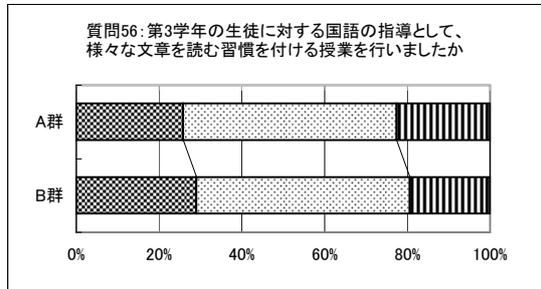
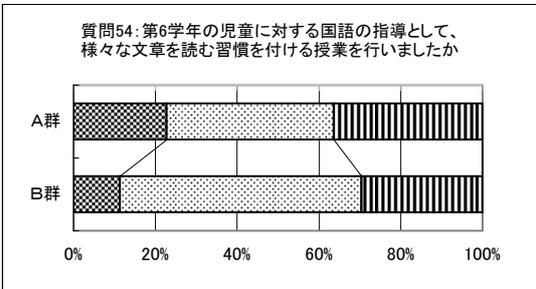
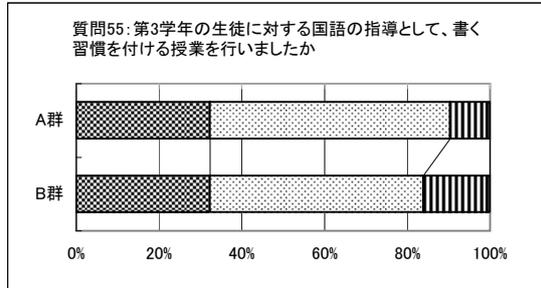
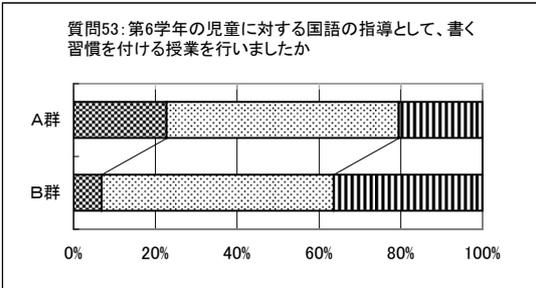
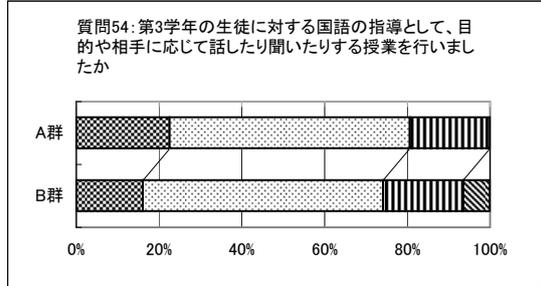
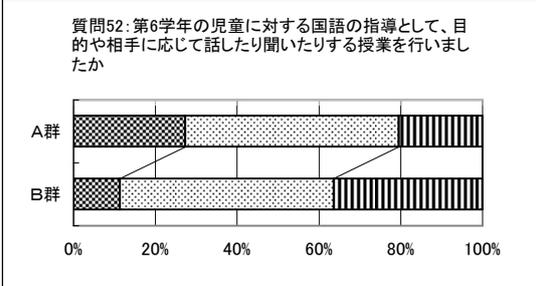
【中学校】



小・中学校ともに、平均正答率が高い学校の方が、児童生徒が「熱意をもって勉強している」「授業中の私語が少なく、落ち着いている」「礼儀正しい」という傾向が見られるが、特に中学校でその傾向が顕著である。

【小学校】

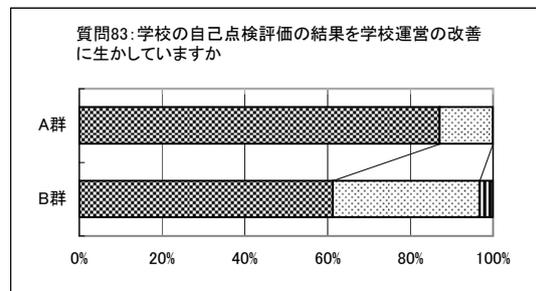
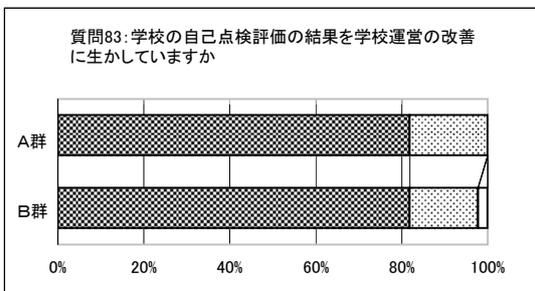
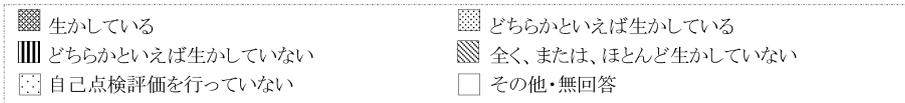
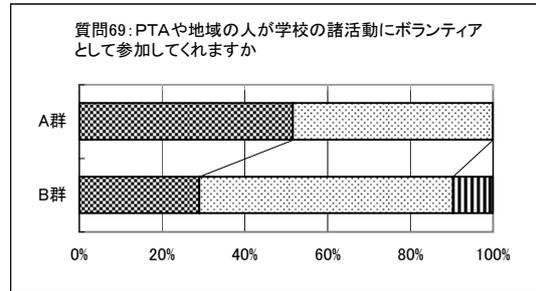
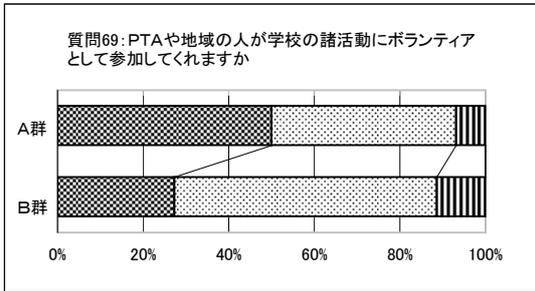
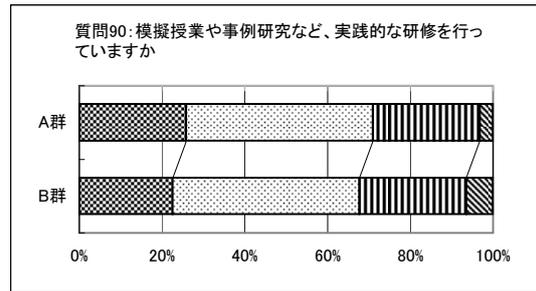
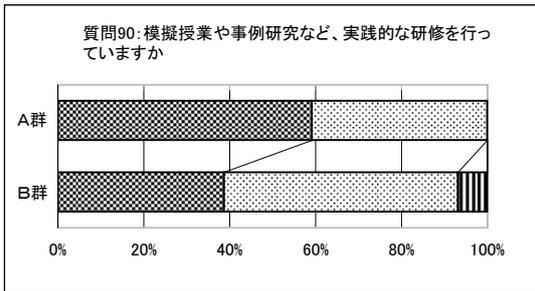
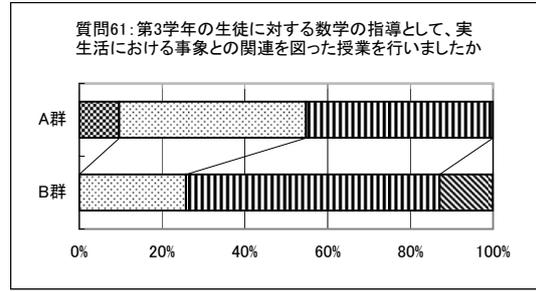
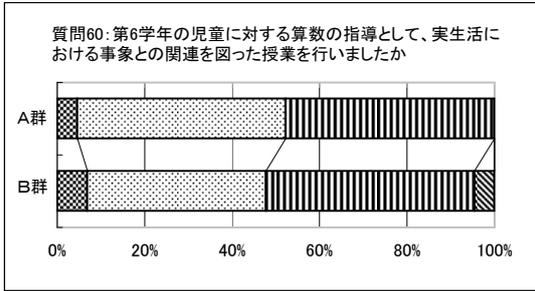
【中学校】



小・中学校ともに、平均正答率が高い学校の方が国語の指導として目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業や書く習慣を付ける授業を行う傾向があるものの、様々な文章を読む習慣を付ける授業の実施との相関は認められない。

【小学校】

【中学校】

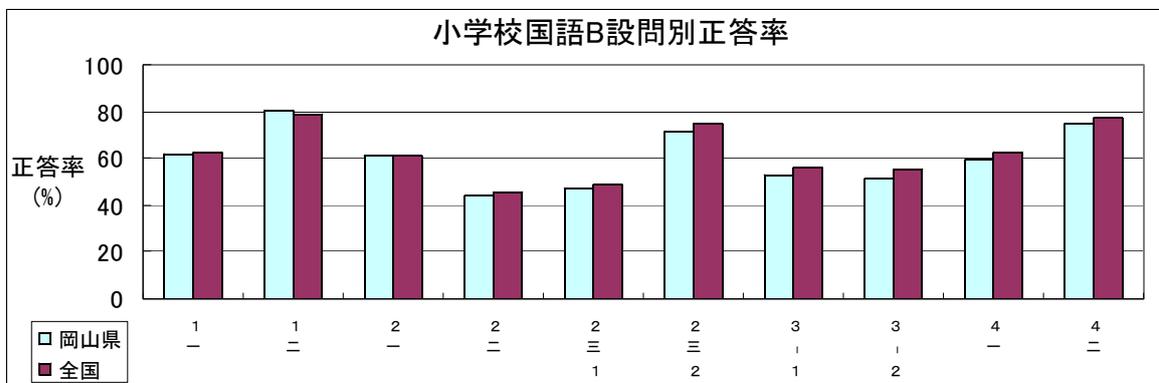
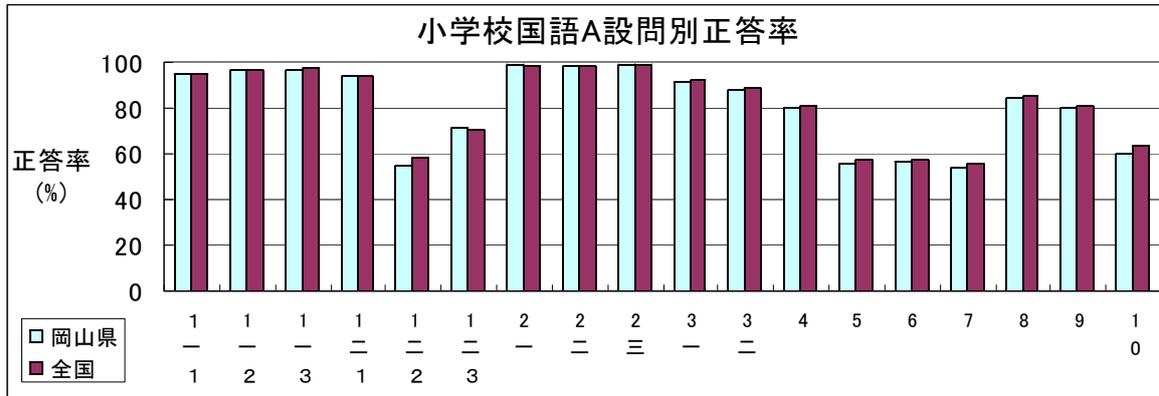


平均正答率が高い学校の方が実生活における事象との関連を図った授業の実施、模擬授業や事例研究など実践的な研修の実施している傾向が見られる。また、平均正答率が高い学校の方がPTAや地域の人が学校の諸活動にボランティアとして参加していたり、学校の自己点検評価の結果を学校運営に生かす傾向がある。

4 教科ごとの分析と授業改善

(1) 国語〔小学校〕

①設問ごとの正答の状況



②全体的な傾向と分析

〔全体の傾向〕

- 設問別に見ると、正答率が全国と比べて特に低い問題があるのではなく、全体的に少しずつ下回っている。
- 全体的に、文章を書き換えたり、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえたり、自分の考えをまとめて書くことなどの記述式の問題の正答率が低い。

〔課題の見られる主な設問〕（問題番号）

- 人物の心情を表現や叙述と関係付けて読む(A10)
- 古紙を再利用することが課題となってきた根拠を文中から探して書く(B2-二)
- 二人の感想文から共通する書き方のよいところを書く(B3-1と2)
- 広告の情報とそれを説明した内容を関係付けて読み取る(B4-一)

〔課題の見られる問題の分析〕

- 「二人の感想文から、共通する書き方のよいところを書く(B3-1と2)」では、二つの文章を読み比べたり、書き方のよさや工夫を評価したりしながら読み、考えたことを自分の考えとしてまとめ、条件に合わせて書くことが求められている。無解答率が高いことと、二つの感想文に対する自分の感想を書くなど、求められた条件に応じて書くことができにくい。

④主な設問ごとの分析

小学校 国語A 10 「登場人物を把握する」

主人公のローワンは、村人が自分をどのように見ていると感じていますか。もっともふさわしいものをあとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

出題の趣旨

物語文の登場人物の心情について、表現や叙述に即して読むことができるかどうかをみる。

学習指導要領の領域・内容

C 読むこと (第5・6学年)

ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率%(国)	反応率%(県)	正答
10	1 1 と解答しているもの	18.8	19.8	
	2 2 と解答しているもの	63.3	59.8	◎
	3 3 と解答しているもの	7.9	8.7	
	4 4 と解答しているもの	5.9	6.6	
	9 上記以外の解答	0.1	0.0	
	0 無解答	4.1	5.0	

分析結果と課題

- 正答率は、59.8%である。物語の登場人物相互の関係を押さえて心情を把握することに課題がある。
- 本問は、物語の一場面における人物の心情を表現や叙述と関係付けて読む問題である。取り上げた場面は、村人という他者の目を通して、主人公であるローワンの心情をとらえる構造になっている。正答は、選択肢2「村人は、村でいちばんいくじのないぼくが選ばれたことをかわいそうだと見ている」である。
- 誤答は、選択肢1「村人は、ぼくが一人でさびしく生きていくことに耐えられないだろうと見ている」が、19.8%と多い。これは「痛ましげな目で自分を見ることに耐えられなかった」ことが村人ではなく、主人公の視点であることを理解していないものである。視点を変えて人物相互の関係をとらえることの理解が、不十分である児童が多いことが分かる。

小学校 国語B [2] 二 「新聞記事を書く<<環境問題>>」

「一度使い終わった紙を古紙として、再生利用することが世界的に重要な課題となってきた」のはなぜですか。その理由を本文中から探して、二つ書きましょう。

出題の趣旨

取り上げた事実が、どのような理由で述べられているかについての確に読み、その理由を要約することができるかどうかをみる。

学習指導要領の領域・内容

B 書くこと(第5・6学年)

イ 全体を見通して、書く必要のある事柄を整理すること。

C 読むこと(第5・6学年)

イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。

エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率%(国)	反応率%(県)	正答
[2] 二	(正答の条件) 次の条件を満たして、2つの理由を書いている。 ①(社会や経済の発展にともない、紙がより多くの分野で使われるようになり、)新しく木から作り出す紙だけでは不足するようになってきたこと ②(紙の原料である)森林を守るためにも、(古紙を利用して、)むやみに木を切ることがないようにする必要があること (正答例) ・理由1「新しく木から作り出す紙だけでは不足するようになってきているから。」 ・理由2「紙の原料である森林を守るためにも、古紙を利用して、むやみに木を切ることがないようにする必要があるから。」			
	1 条件①、②のいずれも満たして解答しているもの	45.7	44.2	◎
	2 条件①は満たしているが、条件②は満たさないで解答しているもの	17.3	17.6	
	3 条件①は満たしていないが、条件②は満たして解答しているもの	23.0	22.3	
	4 条件①、②のいずれも満たさないで解答しているもの	9.7	10.5	
	9 上記以外の解答	0.3	0.4	
	0 無解答	4.0	5.0	

分析結果と課題

○本問は、前提となっている現状を要約し、理由として記述するものである。正答は、①「新しく木から作り出す紙だけでは不足してきた」、②「紙の原料である森林を守るため」という2つの理由を要約することである。正答率は、44.2%である。

○誤答は、正答となる2つの理由のうち、1つしか満たしていない解答が40.3%と多い。「森林を守る」のみを解答したものが22.3%、「作り出す紙の不足」のみを解答したものが17.6%である。理由となる事実をとらえ、要約することに課題があることが分かる。

小学校 国語B ③ 「比べて読む(二人の感想文)」

夏休みに読んだ同じ本について書いた二人の感想文に共通するよい書き方を二つ書きなさい。

出題の趣旨

二つの文章を比べて読み、共通する書き方のよさや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめることができるかどうかをみる。

学習指導要領の領域・内容

C 読むこと (第5・6学年)

オ 必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率%(国)	反応率%(県)	正答	
③	(正答の条件) 次の条件などを満たして、二人に共通する書き方のよいところを書いている。 ①自分の生活体験や思いなどを結び付けた感想や意見、決意が明確であること ②本の引用や要約をしていること ③段落構成(三段落)や言葉の使い方(現在形、過去形)を工夫していること (正答例) ・自分の体験をもとにした感想や意見、決意が明確であること。 ・主人公の言葉を使ったり、物語のあらすじをまとめたりしていること。 ・第一段落には心に残った主人公の言葉、第二段落には話のあらすじ、第三段落には自分の考えを中心にまとめるなど、三段落構成で書いていること。				
	一つ目	1 条件①、②、③などの複数を満たすか、いずれかを満たして解答しているもの	56.2	52.6	◎
		2 条件①、②、③などを満たさないで解答しているもの	30.3	31.1	
		9 上記以外の解答	0.5	0.6	
		0 無解答	13.1	15.8	
	二つ目	(二つ目が正答になる条件) 一つ目と同じ条件を取り上げてもよいが、全く同じような内容ではないこととする。同じような内容と判断するものは、類型2とする。			
		1 条件①、②、③などの複数を満たすか、いずれかを満たして解答しているもの	55.1	51.0	◎
		2 条件①、②、③などを満たさないで解答しているもの	27.1	27.9	
		9 上記以外の解答	0.4	0.5	
		0 無解答	17.4	20.7	

分析結果と課題

- 本問は、児童が書いた二つの文章を比べて読み、書き方のよさや工夫を評価するものである。正答は、①「感想や意見、決意が明確であること」、②「引用や要約をしていること」、③「段落構成や言葉の使い方を工夫していること」などを満たして解答しているものである。正答率は、一つ目が52.6%、二つ目が51.0%である。
- 誤答には、「しっかり書けている」のように抽象的に評価したり、二つの感想文に対する自分の感想を記述したりするなど、求められた条件に応じていない解答がある。また、無解答率が15.8%、20.7%であることから、読書感想文に必要な要素を押さえ、二人に共通する書き方のよいところを的確に把握し、評価することに課題があることが分かる。

⑤授業改善の視点と実践例

〔例1〕

授業改善の視点（小学校国語）【児童が自分の考えをもち、それが表現できる授業を】

- 授業の課題（めあて）を自覚し、自分の考えを持ち、それを発達段階に応じて書いて、交流したりする活動を取り入れた授業づくりをする。
- 多様な読み方が経験できる学習活動を効果的に取り入れ、読むための方法を身に付けることを重視した授業づくりをする。

実践例 < 文学的文章における改善例 >

書かれている内容を読み取るだけでなく、書き方のよさに着目し、内容や表現を比べて読む力、評価しながら読む力を高めるための指導方法の工夫

【指導のねらい】

二つの物語に描かれている登場人物の言動や書き方の特徴などを比べて読み、その共通点を見付ける中で、「家族の心のつながり」というテーマに気付くことができる。

【主な学習活動】

中心教材「一つの花」<（今西祐行「光村図書・4年下（平成17年度版）」>
 補助教材「すいかの種」<（沖井千代子「学校図書・4年上（平成12年度版）」>

- ①「一つの花」の学習後、「すいかの種」を読み、あらすじを確かめる。
 - ・各場面の挿絵をもとに、登場人物を確かめ、並び替えたり出来事（誰が、どうした）を話したりする。
- ②「二つの物語の似ているところを探す」という課題をもち、自分の考えをもって表現する。
 - ・「父・母・子ども（ゆみ子・ふじ子）らしい言動」を探して、サイドラインを引く。
 - ・父・母・子どもの特徴的な言動を取り上げ、そういった言動をとった理由を自分のことばで表現する。
 - ・二つの物語に描かれた「コスモス」と「すいかの種」の役割を比べ、何を象徴しているのかを考える。
 - ・「比べる」という読み方に沿って、『一つの花』のお父さんは～、『すいかの種』のお父さんは～。」のように、比べてカードに書く。
- ③比べて読んだ成果（カードに書いたこと）をグループやクラス全体で交流する。
 - ・グループでの交流を効果的に位置付け、読書会的な話し合いを目指す。
 - ・話し合いの中で気付いたことを、色を変えて書き加える。

その他	コスモス・すいかの種の役割	ゆみ子・ふじ子	お母さん	お父さん	ころくらはと	ワークシート(例)
					一つの花	
					すいかの種	

【実践上の留意点】

- 比べて読むときには、漠然と文章を比べて読むのではなく、文章を読みながら何をどうするのか、どのような観点で比べて読むのかを確認した上で読むことが大切である。比べて読む活動を取り入れることにより、書き方のよさや工夫により気付きやすくなるとともに、比べて読むという読むための方法を身に付けることができる。
- このような学習指導は、すべての教材に適しているわけではない。何をどのように比べるのか、比べることによりどのような力を身に付けさせるのかというねらいを明確にした上で、教材を選択していく必要がある。

〔例2〕

授業改善の視点 【児童が自分の考えをもち、それが表現できる授業を】

- 授業の課題（めあて）をつかんで自分の考えをもち、それを書いたり発表したりする活動を取り入れた授業づくりをする。
- 書かれていることに心を動かしながら読むおもしろさが経験できる学習活動を効果的に取り入れ、登場人物の行動描写のよさに気付くことができる授業づくりをする。

実践例 <文学的文章における改善例（「〇〇見つけ」の活動を取り入れて）>

読み手として書かれていることに心を動かしながら自分の考えをもつことができるように、「たぬきのかわいらしさ」「おかみさんのやさしさ・びっくり」などを探していく「〇〇見つけ」の活動を位置づける。

【指導のねらい】

たぬきのかわいいところを見つける活動を通して、たぬきの様子を表すことばを見つけ、たぬきの様子や気持ちを読み取ることができる。

【主な学習活動】

教材「たぬきの糸車」（光村図書1年下）

本時のめあてをつかむ



- ・挿絵をもとにたぬきのしたことを確かめ、「こんなたぬきさんのことをどう思うか」を問いかけ、めあてをつかむ。

めあて：たぬきのかわいいところをみつけよう。

ポイント

自分の考えをもつ



- ・学習範囲を一人で読み、見つけた「たぬきのかわいいところ」にシールを貼る。
- ・可能な児童は行間にかわいいと思う理由を記入する。

もった考えを交流する



- ・挿絵と本場面の全体を掲示し、児童が発表してきたところに印をつけたり、理由の発言内容を整理して書き込むことにより、どの言葉を根拠にしているのかを明らかにしたり、友達と自分の考えを比べたりしやすくする。
- ・児童の考えを整理する中で、たぬきが糸車をじっと見つめている様子を動作化し、「まわるにつれて～もまわりました」の表現のよさに気付く。

ポイント

本時のまとめをする

- ・特にかわいいと思うところを考え、そこを含む一文を部分視写する。

【実践上の留意点】

- 「かわいいと思うところ」にシールを貼る活動を取り入れることで、1年生にも意識して自分の考えをもたせるようにする。
- 児童の発表を板書の本文に丁寧に書き加え、可能な児童には、どの表現からどのようなかわいさを見つけたかを発表させる。それにより、登場人物の行動描写に着目させるようにする。
- まとめの段階では、本時の学習の中で話題になった表現について振り返らせ、自分が特にかわいいと思うところを含む一文を部分視写させる。
- ここで経験した「〇〇見つけ」の活動を使って、他の読み物教材に読み広げていくことで、教室での学びを生活読書につなぐようにする。

〔例3〕

授業改善の視点 【児童が自分の考えをもち、それが表現できる授業を】

- 授業の課題（めあて）やそのもたせ方を工夫することにより、児童が課題（めあて）を意識して自分の考えをもたせるとともに、それを書いたり交流したりする活動を取り入れた授業づくりをする。
- 行動描写や情景描写、登場人物や場面の設定などをもとに、根拠を明らかにし自分の考えをもつことができる授業づくりをする。

実践例 <文学的文章における改善例（課題のもたせ方や内容を工夫して）>

登場人物の行動や情景の描写、人物や場面の設定などの表現に着目できるように、課題（めあて）やそのもたせ方を工夫する。

【指導のねらい】

真夜中の山道を走る豆太の行動描写や夜道の情景描写をもとに、じさまを助きたい一心で必死に走る豆太の気持ちや様子を読み取ることができる。

【主な学習活動】

教材「モチモチの木」 齋藤隆介作（光村図書3年下）

本時のめあてをつかむ

ポイント

・「じさまあつ。」と「じさまつ。」を読み比べたり、「医者様をよばなくっちゃ」の言い方を考えたりすることで、豆太がじさまを助けようとしていることに気づき、めあてをつかむ。

めあて：豆太のじさまを助きたい気持ちはどれくらいの大きさだろうか。

自分の考えをもつ

・気持ちの大きさを表す小、中、大のハートマークを提示して、その大きさを選んだ理由を記述することで、豆太の行動描写をもとにした自分の考えをもちやすくする。

もった考えを交流する

ポイント

・ハートマークの大きさとその理由を発表していく中で、何を根拠にした考えなのかが明らかにしていく。
 ※「ねまきのまんま。はだしで。半道もあるふもとの村まで」の描写表現について、普通の言い方と比較することで、夢中で飛び出した豆太の気持ちに気付かせる。
 ※「霜が足にかみついた。」について「つきささる」と比べたり、「かみつく」の様子を想像したりすることで、足から血が出るほど痛くても走り続けた豆太の必死の思いまで読み取る。

本時のまとめをする

ポイント

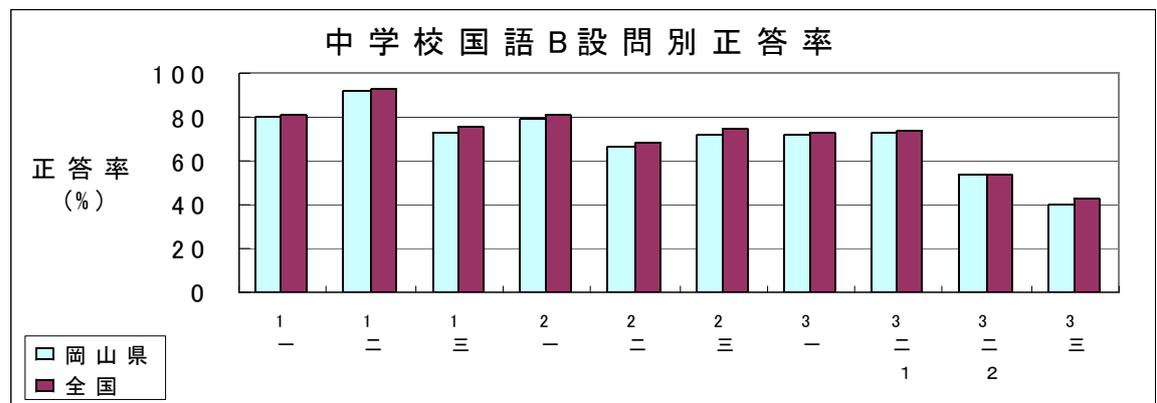
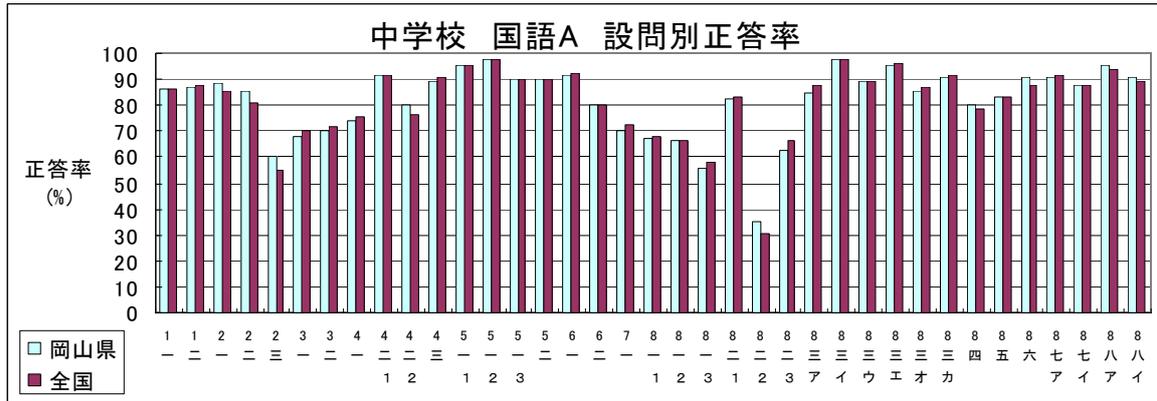
・話し合いで分かったことや自分の考えが変わったことを色を変えてワークシートに付加する。

【実践上の留意点】

- 活動を通して、場面の概略やポイントとなる言動などをつかみ、めあてを納得できるようにする。
- めあての質を工夫し、児童が本文中の言葉をもとに自分の考えをもちやすくする。
- 焦点化した発問をもとにして話し合い、読みと読み方を深めていく。
- めあてや自分の初めの考えなどに振り返り、自分の読みや読み方の成長を気付かせることで成就感を味わわせる。

(2) 国 語〔中学校〕

①設問ごとの正答の状況



②全体的な傾向と分析

〔全体の傾向〕

- 設問別に見ると、Aでは、正答率の状況は全国とよく似ており、全国平均よりも高い正答率であった問題も多い。Bでは、全国と比べて特に低い問題があるのではなく、全体的に少しずつ下回っている。
- 作品の内容や構成、表現上の特色を踏まえて自分の考えを書いたり、資料に書かれているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書くなどの記述式の問題の正答率が低い。

〔課題の見られる主な設問〕（問題番号）

- 文学的な文章を読む際に、比喻等の表現技法に注意して内容をとらえる (A3-二)
- 文章の構成や展開をとらえ、表現上の特色を踏まえて自分の考えを書く (B2-二, 三)
- 中学生と店員の作成した広告カードを比較して違いを説明する (B3-三)

〔課題の見られる問題の分析〕

- 「『蜘蛛の糸』の『三』の場面の有無に関して自分の考えを書く (B2-三)」「広告カードに共通して書かれている情報を書く (B3二-1と2)」等の正答率が低かったが、読み取った情報を自分なりに評価してコメントを加え、班の中や学級全体の前で分かりやすく説明するなどの授業の構想が必要となる。
- 「蜘蛛の糸」やポップ広告の問題のように、ある程度の時間の中で長文の概略を読み取ること(速読力)や身の回りの様々なテキストを自在に読んで活用することが求められており、多様な言語活動を意図的に組み込んだ授業づくりが必要である。

④主な設問ごとの分析

中学校 国語B ③ 「複数の資料を比較しながら読む(広告カード)」

【A】の中に「このカードと君たちのカードを比べてごらん。」とありますが、四人の会話を踏まえ、三人の作った広告カードと店長さんが紹介してくれた広告カードを比較して、その違いを説明しなさい。

出題の趣旨

資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書くことができるかどうかをみる。

学習指導要領の領域・内容

B 書くこと (第1学年)

イ 伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを明確にすること。

C 読むこと (第1学年)

オ 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広げること。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率%(国)	反応率%(県)	正答
③ 三	広告カードの違いについて、店長さんが示した視点を踏まえながら書いている。 (条件) ①中学生三人が作った広告カードは、中学生を対象にしているということを書いている。 ②店長が紹介してくれた広告カードは、幅広い年齢層の読者を対象にしているということを書いている。 ~~~~~ (正答例) ・三人が作った広告カードは、対象者が中学生であるのに対し、店長さんが紹介してくれた広告カードは、中学生に限らず幅広い年齢層の読者を対象としている。			
	1 条件①、②を満たして解答しているもの	29.8	27.3	◎
	2 条件①を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	0.7	0.6	○
	3 条件②を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	12.9	11.8	○
	9 上記以外の解答	44.6	45.1	
	0 無解答	11.9	15.2	

分析結果と課題

○誤答は45.1%で、正答に至らなかった生徒の多くは、三人の中学生と店長の会話から「加えてほしい視点」が何を指すものなのかを十分にとらえられていないと考えられる。カードだけの比較ではなく、会話の内容を的確にとらえた上で見比べる必要がある。また、四枚の広告カードの「違い」をとらえてはいるものの、主語を省略して説明しているため、どのカードに対する説明なのかを判別することができないものも見られる。

中学校 国語 A ③ー二 「文学的な文章を読む」

次の1から4のうち、この文章に描かれた場面と表現についての説明として、最も適切なものを一つ選びなさい。

出題の趣旨

比喩等の表現技法に注意して内容をとらえることができるかどうかをみる。

学習指導要領の領域・内容

C 読むこと（第2学年及び第3学年）

ウ 表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型		反応率%(国)	反応率%(県)	正答	
③	二	1	1 と解答しているもの	14.1	14.2	○
		2	2 と解答しているもの	11.0	12.4	
		3	3 と解答しているもの	72.1	70.0	◎
		4	4 と解答しているもの	2.3	2.8	
		9	上記以外の解答	0.0	0.0	
		0	無解答	0.4	0.6	

分析結果と課題

○誤答についてみると、選択肢1と選択肢2がそれぞれ14.1%、11.0%である。選択肢1を選んだ生徒は、本文に書かれている色は「あおじろい」のみであるのに、「くすのき」、「ほととぎす」、「月」、「星」、「水」、「闇」といったものの色を自分で想像して「様々な色彩」ととらえたと考えられる。選択肢2を選んだ生徒は「湧いている」、「ゆがんだり反射したり」、「くねくねと」といった水の動きを「水の音」と誤ってとらえたものと考えられる。

中学校 国語B 2-2 「文学作品を評価しながら読む(蜘蛛の糸)」

- ア この部分を話の展開に沿って大きく二つに分けるとすれば、どこで分けますか。
 イ アで答えたところで二つに分けて朗読する場合、前と後ろとをどのように読み分けますか。

出題の趣旨

作品の展開や心情の変化に着目して朗読することができるかどうかをみる。

学習指導要領の領域・内容

B 読むこと(第1学年)

ウ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。

言語事項(1)(第1学年)

ア 話す速度や音量、言葉の調子や間のとり方などに注意すること。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率%(国)	反応率%(県)	正答
2-2	1 「ア」を4と解答し、「イ」を3と解答しているもの	69.4	66.6	◎
	2 「ア」を4と解答し、「イ」を3と解答していない(無解答も含む)もの	5.5	6.4	
	3 「イ」を3と解答し、「ア」を4と解答していない(無解答も含む)もの	12.4	12.3	
	9 上記以外の解答	12.2	14.0	
	0 「ア」、「イ」ともに無解答	0.6	0.7	

分析結果と課題

○誤答についてみると、解答類型3が12.4%と最も高い。文章に描かれている情景や心情の変化の大体をとらえることはできるが、その細部について、表現に即して読み取ることが不十分であると考えられる。

⑤授業改善の視点と実践例

〔例1〕

授業改善の視点(中学校国語)【自分の考えを持ち、それが表現できる授業を】

- 書かれている内容を理解するだけでなく、表現の仕方の特徴に着目し、その効果を考えながら読む活動を取り入れた授業づくりをする。
- 読み取ったことを基に自分の考えを書く活動を効果的に取り入れ、生徒が自分の考えをもち、それを表現する活動を重視した授業づくりをする。

実践例 〈 説明的文章における改善例 〉

筆者の論理の展開の仕方の特徴をとらえ、表現のよさや工夫を評価しながら読む力を育てるための指導方法の工夫

【指導のねらい】

表現を手がかりに筆者の論理の展開を予想しながら読み、自分が予想した論理の展開と筆者の論理の展開を比較し、表現のよさや工夫に気付くことができる。

【主な学習活動】

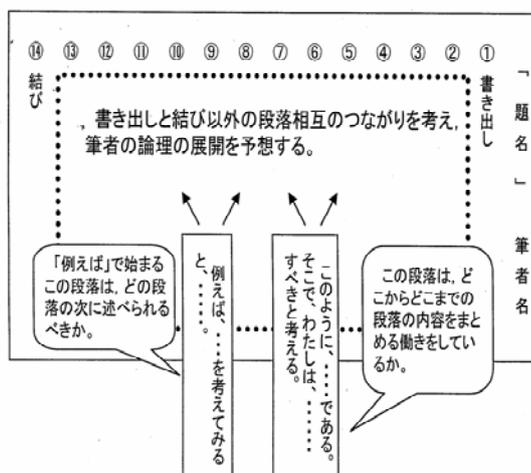
- ①本文の「書き出し」と「結び」の段落以外を空白にしたワークシートを活用して、残りの段落相互のつながりを考え、筆者の論理の展開を予想する。
- ②自分が予想した論理の展開を、根拠を基に説明し、互いの考えを評価し合う。

ポイント

- ③自分が予想した論理の展開と筆者が書いた文章を比較し、筆者の論理の展開のよさや工夫に気付く。

ポイント

- ④自分の考えを効果的に伝える論理の展開について、理解したことをまとめ、自分の表現に生かすことができるようにする。
〈書く活動との関連を図る〉



【実践上の留意点】

- このような学習指導は、すべての説明的文章に適しているわけではなく、次のようなポイントに留意して、教材を選ぶ必要がある。

- ・筆者の意見や主張が明確に表現されている。
- ・論理の展開の仕方が、明確で分かりやすい。
- ・手がかりとなる語句(指示語、接続語等)が効果的に用いられている。

- 予想しながら読む活動のねらいは、筆者の表現の特徴や工夫に気付くためのものである。そのねらいを十分理解した上で指導しなければ、自分の予想と筆者が書いた文章の比較を行う際に、単なる答え合わせになってしまう恐れがある。自分が予想した論理の展開と作品とを比較することにより、筆者の論理の展開の工夫に気付くとともに、根拠として挙げられている事例の適否や主張を導き出す論理の妥当性を評価しながら読むことも可能となる。

〔例2〕

授業改善の視点 【自分の考えを持ち、それが表現できる授業を】

- 語句の意味を正確にとらえ、情景描写を基に、作者の表現の工夫や効果を考えながら読む活動を取り入れた授業づくりをする。
- 読み取った作者の表現の工夫について、自分の考えを持ち、それを表現する活動を重視した授業づくりをする。

実践例 〈 文学的文章における改善例 〉

語句の意味を正確にとらえ、作者の表現の工夫や効果について考えながら読む力を育てるための指導方法の工夫

【指導のねらい】

石川啄木の短歌を読み、作者の表現の工夫の違いや効果を理解し、短歌に込められた作者の心を味わうことができる。

【主な学習活動】 教材：石川啄木の短歌二首（「一握の砂」より）

①「やはらかに」の短歌を読み、「泣けとごとくに」の比喩表現等に込められた作者の心を理解する。

②「不来方の」の短歌を「やはらかに」と比較して読み、比喩表現の仕方の違いに気付く。

ポイント

※「不来方の」には、作者の心が直接的に言葉で表現されていないことに気付かせる。

③「十五の心」に込められた作者の心を味わう。

- ・作者の心が託されている「草」「寝ころぶ」「空」「吸はれし」が持つイメージを説明し合い、言葉の意味を具現化する。

- ・「空に吸はれし／十五の心」を一字または二字の言葉（例：「夢」「希望」等）に置き換えて考えることを通して、作者の表現の工夫を味わう。

- ・「十五の心」の後に言葉（例：「が懐かしい。」「に戻りたい。」等）を加えて考えることを通して、「十五の心」に込められた作者の心を味わう。

④それぞれの短歌のよさ（表現の工夫や効果など）を「鑑賞文」として表現し、相互に交流し合う。

ポイント

不来方のお城の草に寝ころびて 空に吸はれし 十五の心	やはらかに 柳あをめる 北上の 岸辺目に見ゆ 泣けとごとくに	石川 啄木
----------------------------------	--------------------------------------	----------

【実践上の留意点】

○文学的文章の学習指導を行う際には、以下の点に留意し、語句の意味を正確にとらえ、情景描写を基に、作者の表現の工夫や効果を考えながら読むことが大切である。

- ・用いられている表現技巧等を比較し、生徒自身が作者の表現の仕方の特徴に気付きながら読むことができるようにする。
- ・言葉が持つイメージを自分の言葉で説明する活動を取り入れ、表現を手がかりに情景描写を味わいながら読むことができるようにする。
- ・作者の表現の工夫や効果をとらえた上で、それに対する自分の考えを交流し合いながら、理解が更に深まるようにする。

〔例3〕

授業改善の視点 【自分の考えを持ち、それが表現できる授業を】

- 作品の内容や構成、表現上の特徴に着目し、その効果を考えながら読む活動を取り入れた授業づくりをする。
- 読み取った筆者の表現の工夫や効果について、自分の考えを持ち、それを表現する活動を重視した授業づくりをする。

実践例 〈 古典作品における改善例 〉

作品の内容や構成、表現上の特徴をとらえ、筆者の表現の工夫や効果について考えながら読む力を育てるための指導方法の工夫

【指導のねらい】

「徒然草」の中の作品を比較し、作品の内容や構成、表現上の特徴に注意しながら読み、表現の工夫や効果をとらえた上で、それに対する自分の考えを持つことができる。

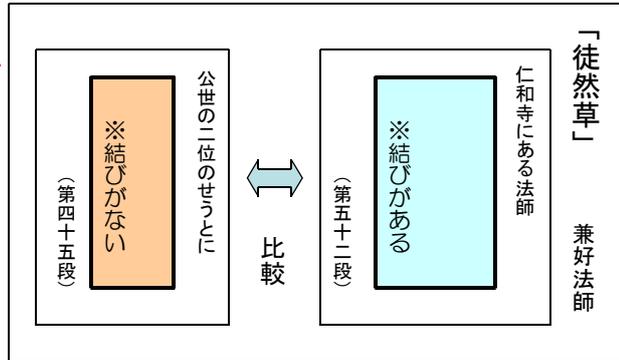
【主な学習活動】 教材：「仁和寺にある法師」（第52段） 兼好法師

「公世の二位のせうとに」（第45段） 兼好法師

- ①「仁和寺にある法師」と「公世の二位のせうとに」を比較して、作品の内容や構成の共通点や相違点を考える。

ポイント

- ・共通点：取り上げられている人物、話題等
- ・相違点：全体の構成（結びの有無）等



※「公世の二位のせうとに」には、筆者の結びがないことに気付かせる。

- ②「公世の二位のせうとに」に結びがない理由を考え、根拠を基に考えを交流し合う。

※人物の描かれ方の特徴などに着目させる。

※それぞれの話のおもしろさやこっけいさなど、表現上の特徴について考える。

ポイント

- ③それぞれの内容や構成、表現上の特徴をとらえ、筆者の表現の工夫や効果について理解した上で読むための工夫点とその根拠を明確にして朗読し、評価し合う。

ポイント

【実践上の留意点】

- 比較して読むことで、生徒はそれぞれの内容や構成、表現上の特徴に気付きやすくなる。その特徴に気付いた上で、筆者の表現の工夫や効果について、自分の考えが持てるようにしていくことが大切である。そして、理解したことを生かした朗読の工夫などを行っていく必要がある。
- 自分の考えを述べて話を結ばなかった筆者の意図を考え、それを交流し合う活動においては、表現や叙述を根拠にした意見の交流を促していくことが大切である。それにより、生徒は筆者の表現の仕方や特徴をとらえた上で、筆者の表現の工夫について自分の考えを持つことができるようになるのである。

③類型別調査結果 (国語B)

(%)

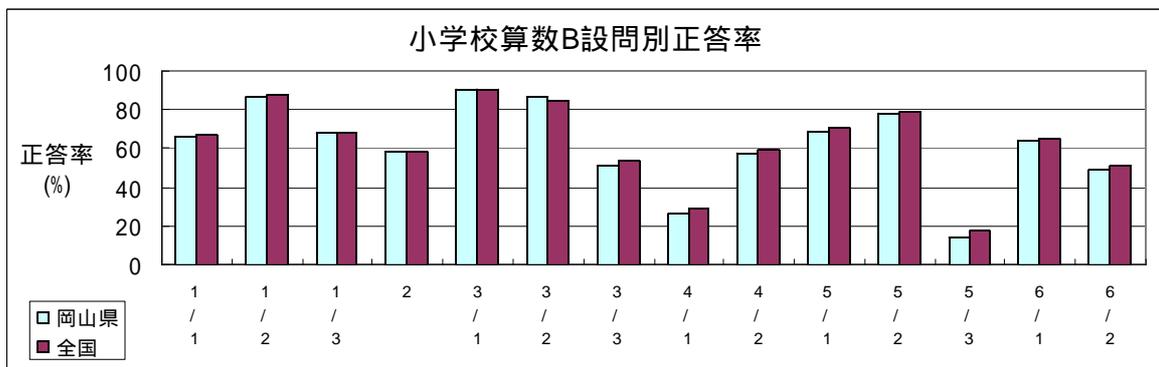
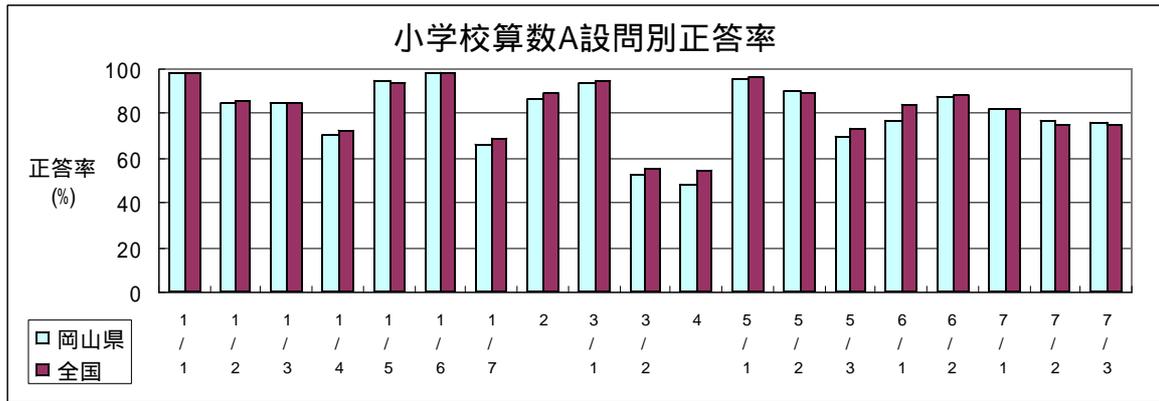
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	解答類型									無解答		
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	岡山県	全国	
1一	話題を具体化するために資料を用いる箇所を選択する	話すことの内容に応じて、適切な資料を提示する	4.2	80.3	7.7	7.3						0.0	0.6	0.4
1二	ロボットを開発した人の考えに合う内容を表から選択する	必要な情報を収集し、表現に生かす	3.1	4.3	92.0							0.0	0.6	0.4
1三	ロボットと共存する未来社会について想像し、自分の考えを書く	情報を基に、根拠を明らかにしながら、自分の考えが適切に相手に伝わるように書く	72.4	11.7	1.4							1.7	12.8	9.6
2一	「蜘蛛の糸」を読み、その内容や表現についての適切な説明を選択する	作品の内容や表現上の特徴をとらえる	5.5	78.9	10.0	4.8						0.0	0.8	0.6
2ニアイ	「蜘蛛の糸」の一部分を朗読する場合の適切な工夫を選択する	作品の展開や心情の変化に着目して朗読する	66.6	6.4	12.3							14.0	0.7	0.6
2三	「三」の場面の有無に関して、自分の考えを80字以上120字以内で書く	作品の内容や構成、表現上の特色を踏まえ、自分の考えを書く	71.4	1.3	0.0	6.0						8.3	13.0	10.1
3一	広告カードについての会話文とカードの内容から、書いた人を特定する	表現の仕方の特徴をとらえる	3.6	9.5	14.2	71.5						0.0	1.1	0.8
3二(1)	中学生が作成した広告カードに共通して書かれている情報を二つ書く	広告カードを比較して、共通して書かれている情報を読み取る	72.8									19.0	8.2	6.8
3二(2)			53.5									34.9	11.6	10.0
3三	中学生の広告カードと、店員が作成した広告カードを比較し、違いを説明する	資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書く	27.3	0.6	11.8							45.1	15.2	12.4

学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式			
話す・聞く	書く	読む	言語事項	関心・意欲	話す・聞く	書く	読む	言語知識	選択式	短答式	記述式
○					○				○		
	○						○		○		
○	○			○		○	○				○
	○						○		○		
	○	○					○	○	○		
○	○			○		○	○				○
	○						○		○		
○	○			○		○	○				○

※網掛けかつ下線付きの箇所の類型が、正答を表す。

※解答類型の内容については、「別添:平成19年度 解答類型.pdf」及び「解説資料(平成19年5月)」、「報告書(平成20年1月)」(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm)参照。

(3) 算 数〔小学校〕
設問ごとの正答の状況



全体的な傾向と分析

〔全体の傾向〕

A問題B問題ともに、設問別の正答率は全国と岡山県との間に大きな差が見られない。
Aでは、全体的に正答率が高いが、Bでは、全体的に正答率の低い問題や無解答率の高い問題が多い。

〔課題の見られる主な設問〕(問題番号)

- 分数、小数の意味と大きさの理解(A3-2、4)
- グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る(B3-3)
- 式の形に着目して、計算結果の大小を判断する(B6-2)
- 百分率を用いて問題を解決する(B4-1)
- 基本的な図形を見いだして、その面積を求める(B5-3)

〔課題の見られる問題の分析〕

Aの問4は、 210×0.6 という式に対応する問題場面を選ぶものだが、文章中の「倍」という語から乗法と判断している児童が3割以上もいたことから、問題場面から立式する力を育てる指導が必要である。

Bの問4-1は、百分率を含んでおり、児童が百分率を使いこなせていない様子が見られる。

Bの問5-3は地図上の複数個の図形から必要な情報を取り出して面積を比べるものである。

Aの問5-1での平行四辺形の面積計算の正答率は9割以上だったにもかかわらず、Bの問5-3の方では、底辺×斜辺で面積を求めた誤答が3割程度あった。日常的な諸要因がからんだ問題場面での活用力が低いことがわかる。

AとBとの関連では、Aに関する問題は正しく解ける児童でも、Bのような「式をよむ」力、「グラフや地図情報をよみとる」力、さらには「言葉で説明する」力が不足している児童が多い。

主な設問ごとの分析

小学校 算数A 4 「演算決定」

答えが 210×0.6 の式で求められる問題を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 砂糖を0.6kg買って、210円はらいました。この砂糖1kgのねだんはいくらでしょう。
- 2 210kgの大豆を0.6kgずつふくろにつめます。大豆を全部つめるには、ふくろはいくついるでしょう。
- 3 1mのねだんが210円のリボンを0.6m買いました。リボンの代金はいくらでしょう。
- 4 赤いテープの長さは210cmです。赤いテープの長さは白いテープの長さの0.6倍です。白いテープの長さは何cmでしょう。

出題の趣旨

小数の乗法の意味について理解しているかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

第5学年 A 数と計算

(3) 小数の乗法及び除法の意味について理解し、それらを適切に用いることができるようにする。

イ 乗数や除数が整数の場合の計算の考え方を基にして、乗数や除数が小数である場合の乗法及び除法の意味について理解すること。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型		反応率%(国)	反応率%(県)	正答
4	1	1 と解答しているもの	4.5	4.6	
	2	2 と解答しているもの	10.3	10.7	
	3	3 と解答しているもの	54.3	48.2	
	4	4 と解答しているもの	30.1	35.5	
	9	上記以外の解答	0.2	0.1	
	0	無解答	0.7	0.8	

分析結果と課題

正答率は、48.2%である。小数の乗法の意味について理解し、問題の場面から式を考えることに課題がある。

誤答については、選択肢4を選んでいる解答が35.5%と最も多い。文章に「倍」という表現が含まれることから乗法と判断していると考えられる。

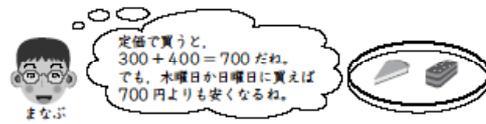
小学校 算数 B 4 (1)「情報の分類整理と問題解決(ケーキ)」

4

まなぶさんの町にケーキ屋があります。
このケーキ屋のロールケーキ、チーズケーキ、イチゴケーキ、チョコレートケーキの定価は、次のとおりです。



(1) まなぶさんは、チーズケーキ1個とチョコレートケーキ1個を買おうと思います。



まなぶ

木曜日の代金と日曜日の代金では、どちらのほうがいくら安くなりますか。求める式と答えを、それぞれ書きましょう。

出題の趣旨

各曜日の安売りの条件を基に、百分率を用いるなどしてそれぞれの代金を求め、その代金を比較することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

第5学年 D 数量関係

(2) 百分率の意味について理解し、それを用いることができるようにする。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 %(国)	反応率 %(県)	正答
4	<p>(1)</p> <p>(正答の条件)</p> <p>次のAからCのいずれかで、それぞれ から のすべてを書いている。</p> <p>A 【式】 木曜日の代金を求める式 日曜日の代金を求める式 木曜日と日曜日の代金の差を求める式</p> <p>【答え】 木曜日の代金のほうが40円安くなる。</p> <p>B 【式】 木曜日の値引き額を求める式 日曜日の値引き額を求める式 木曜日と日曜日の値引き額の差を求める式</p> <p>【答え】 木曜日の代金のほうが40円安くなる。</p> <p>C 【式】 チーズケーキについて、木曜日と日曜日の値段の差額を求める式 チョコレートケーキについて、木曜日と日曜日の値段の差額を求める式 チーズケーキの木曜日と日曜日の値段の差額と、チョコレートケーキの木曜日と日曜日の値段の差額の差を求める式</p> <p>【答え】 木曜日の代金のほうが40円安くなる。</p> <p>(正答例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【式】 木曜日は$(300 + 400) \times 0.8 = 560$ 日曜日は$200 + 400 = 600$ だから、代金の違いは$600 - 560 = 40$ 【答え】 木曜日の代金のほうが40円安くなる。 ・ 【式】 $(200 + 400) - (300 + 400) \times 0.8 = 40$ 【答え】 木曜日の代金のほうが40円安くなる。 ・ 【式】 木曜日は$700 \times 0.2 = 140$ で、140円の値引き。 日曜日は$300 - 200 = 100$ で、100円の値引き。 			

	<p>だから、代金の違いは$140 - 100 = 40$</p> <p>【答え】木曜日の代金のほうが40円安くなる。</p> <p>・ 【式】チーズケーキは$300 \times 0.8 - 200 = 40$ で、木曜日のほうが40円高い。</p> <p>チョコレートケーキは$400 - 400 \times 0.8 = 80$ で、木曜日のほうが80円安い。</p> <p>だから、代金の違いは$80 - 40 = 40$</p> <p>【答え】木曜日の代金のほうが40円安くなる。</p>			
1	AからCのいずれかで、 、 、 のすべてを書いているもの	17.7	15.7	
2	AからCのいずれかで、 、 、 を書いているもの AからCのいずれかで、 、 、 を書いているもの AからCのいずれかで、 、 、 を書いているもの AからCのいずれかで、 、 を書いているもの	11.8	10.5	
3	類型1、2で式の表現に誤りがあり、 を書いているもの	1.0	1.1	
4	Aの を書いている、 を書いているもの 木曜日のチーズケーキとチョコレートケーキの値段を求める式をそれぞれ書いて、 を書いているもの	1.7	1.3	
5	類型1から4以外で を書いているもの	2.2	1.7	
6	類型1、2で、 を書いているもの	6.1	6.7	
7	Aの を書いているもの チーズケーキとチョコレートケーキの木曜日の値段を求める式をそれぞれ書いているもの	4.6	4.6	
8	Bの を木曜日の代金を求める式と考えているもの	0.9	1.0	
9	上記以外の解答	45.5	47.2	
0	無解答	8.6	10.0	

分析結果と課題

正答率は、26.2%である。百分率を用いて問題を解決することに課題がある。

誤答について

- ・ 式を正しく記述し、答えが誤っている解答（解答類型6）は、6.7%である。その中には、次のような解答がある。

例：答えるべき内容を誤り、より多く値引きされる曜日と、その値引き額を書いている

【式】木曜日の代金は $240 + 320 = 560$ $700 - 560 = 140$

日曜日の代金は $200 + 400 = 600$ $700 - 600 = 100$

【答え】木曜日の代金のほうが140円安くなる。

- ・ 解答類型9の反応率は、47.2%である。その中には、次のような解答がある。

例1：木曜日は「すべてのケーキが50円引き」と解釈している

【式】木曜日のチーズケーキの値段は $300 - 50 = 250$

チョコレートケーキの値段は $400 - 50 = 350$ なので、

木曜日の代金は $250 + 350 = 600$

日曜日の代金は $200 + 400 = 600$

【答え】木・日曜日の代金のほうが0円安くなる。

例2：0.2を用いて誤った式を書いている

【式】木曜日の代金は $(300 + 400) \div 0.2 = 350$

日曜日の代金は $200 + 400 = 600$

だから、 $600 - 350 = 250$

【答え】木曜日の代金のほうが250円安くなる。

小学校 算数 B 5 - (3) 「事象の観察と判断 (道路)」

5

ひろしさんは、土曜日に買い物に行きました。交差点④から交差点⑤まで行くのに、下の地図の中にある の道を通りました。

- 道路ア、イ、ウは平行です。
- 道路オ、カ、キは平行です。
- 道路ア、イ、ウは、それぞれ道路エに垂直です。
- 道路ア、イ、ウは、それぞれ道路クに垂直です。

(3) ひろしさんの家の近くに東公園があります。東公園の面積と中央公園の面積では、どちらのほうが広いですか。答えを書きましょう。また、そのわけを、言葉や式などを使って書きましょう。

- 道路ア、イ、ウは、それぞれ道路ケに垂直です。
- 道路ア、イ、ウは、それぞれ道路コに垂直です。

出題の趣旨

与えられた条件を基に地図を観察して図形を見だし、面積を比較して説明することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

第4学年 B 量と測定

(1) 面積の意味について理解し、簡単な場合について、面積を求めることができるようになる。

ウ 正方形及び長方形の面積の求め方を考え、それらを用いること。

第5学年 B 量と測定

(1) 基本的な平面図形の面積が計算で求められることの理解を深め、面積を求めることができるようになる。

ア 三角形及び平行四辺形の面積の求め方を考え、それらを用いること

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 %(国)	反応率 %(県)	正答
5	(3) (正答の条件) 次の、, , のすべてを書いている。 または、, を書いている。 または、, を書いている。 【答え】 東公園の面積のほうが広い。 【わけ】 2つの公園の面積を求める式 2つの公園の面積の値 面積に対応した公園の名称			
	(正答例) 【答え】 東公園の面積のほうが広い。 【わけ】 東公園の面積は $100 \times 110 = 11000$ で、 11000m^2 になる。 中央公園の面積は $70 \times 150 = 10500$ で、 10500m^2 になる。 だから、東公園のほうが面積が広い			
1	, , のすべてを書いているもの , を書いているもの	17.7	14.0	

	、 、 を書いているもの		
2	、 、 を書いているもの	0.5	0.4
	、 を書いているもの		
3	類型 1、2 で、2つの公園の面積を求める計算に誤りがあるもの	2.0	1.9
4	を書いている、面積を求めることについて書いているが、それを求める式や求めた面積について書いているもの	4.7	3.9
5	中央公園の面積を「底辺×斜辺」で求めているもの	34.4	33.5
6	辺の長さや周の長さで比較しているもの	7.5	8.9
7	を書いているもの	9.4	10.5
9	上記以外の解答	20.4	23.0
0	無解答	3.5	4.0

分析結果と課題

正答率は、14.4%である。地図上に複数の図形を見だし、必要な情報を取り出して面積を比較し、説明することに課題がある。

誤答について

- ・中央公園の面積を「底辺×斜辺」で求めている解答(解答類型5)が、33.5%と最も多い。平行四辺形の高さ150mが図形の外に示されているために、斜辺を高さにとらえていると考えられる。
- ・辺の長さや周の長さで比較しようとしている解答(解答類型6)は、8.9%である。長さで面積を比較しようとしていると考えられる。
- ・解答類型4より、東公園の面積の方が広いと判断しているが、面積を求める式や記述に誤りがあったり、不十分であったりする解答は、3.9%である。

解答類型4の中には、次のような解答がある。

例1：東公園の面積を求める式が誤っている

【答え】東公園の面積のほうが広い。

【わけ】東公園の面積は $110 \times 110 = 12100$

中央公園の面積は $70 \times 150 = 10500$

例2：中央公園の面積に関する記述がない

【答え】東公園の面積のほうが広い。

【わけ】東公園の面積 $100 \times 110 = 11000$ のほうが大きいから

授業改善の視点と実践例

〔例1〕

授業改善の視点（小学校算数）

計算の工夫や考え方をよみとり、その考えを新しい場面に用いる活動を取り入れた授業づくりをする。

具体物、操作、図、言葉、式を用いて説明する活動を重視した授業づくりをする。

実践例

計算の工夫や考え方をよみとる活動を取り入れた授業の例

従来の問題解決の授業に加え、授業の導入段階で、ある方法で既に問題を解決している例を提示し、その計算の工夫や考え方をよみとることを中心的な課題とした授業展開を、意図的・計画的に単元計画に取り入れる。

【従来の問題解決の授業】



+

【計算の工夫や考え方をよみとる授業】

【実践上の留意点】

- ・言葉で説明するだけでなく、式のどの部分が図のどの部分の面積を求めているのかを示すなど、式と言葉と図を関連付けて説明を考えるようにする。
- ・授業の後半では、その考えを新たな問題に活用する場面も取り入れたい。例えば、台形やひし形などの面積を求める問題を提示し、「三角形に分割して面積を求める」という考えを用いて解決することが考えられる。

線分図を用いて、演算決定の理由を説明する授業の例

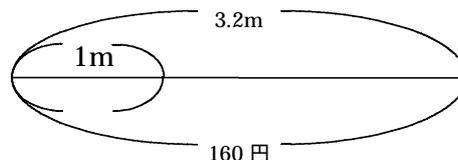
例えば、第5学年の小数の割り算では、次のような問題が提示されることがある。

リボンを3.2m買うと160円でした。このリボン1mの値段はいくらでしょう。

除数が小数の場合、基準にする大きさを求める際には、公式や言葉の式だけでなく、数直線や図などを用いたり、具体的な場面に当てはめて調べたりすることが大切である。

【実践上の留意点】

- ・演算決定の理由は、右に示す線分図を用いると説明できる。線分図は、抽象的な表現であるため、自分で書けるようになるまで、ていねいな練習が必要である。
- ・線分図を理由に演算決定の説明を行う場合は、なぜ、この線分図から割り算とわかるのかを尋ねる。児童の答えとしては、整数の除法の例を図に示し、の位置関係が同じなので割り算であるなどの説明ができることが望ましい。



発表と話し合いの活動を充実させる教師の手立て

自力解決後に行われる発表と話し合い活動が、単なる発表会にならないようにしたい。話し合いを充実させるためには、次のような工夫を取り入れることが効果的である。

解決のアイデアを思いついた理由となぜそれのできるかを問う。
発表ボードに自分の考えを書かせるときには、すべてを書くのではなく、図や式だけを書くように指示する。
代表児童が学級全体に自分の考えを発表するときに、すべてを説明させるのではなく、発表の途中で止め、続きを他の児童に予想させたり、説明させたりする。 など

〔例2〕

授業改善の視点

子どもがめあてをつかみ、主体的に測定の仕方を考える操作的な算数的活動を取り入れた授業づくりをする。
 なぜその方法で正しく重さの順位が決まるのかなどについて、単位の幾つ分を根拠に説明し合う授業づくりをする。

実践例 < 第3学年「重さ」/問題解決の学習における課題把握、練り上げの改善例 >

【指導のねらい】

重さを数値化する必要性や明確・的確に表すことができるよさに気付く。また、重さの量の比較や測定の方法について、長さの場合の直接比較、間接比較、任意単位による測定、普遍単位による測定などを用いて考える。

【主な学習活動】

課題(めあて)把握 任意単位を使えば、重さの順位を決められそうだという見通しを持つ

- ・まず、天秤を使って、3匹の魚の直接比較をする。
- ・次に、5匹の魚の重さの順番も同じ方法で測定できないかを考える。
- ・教師が提示した任意単位(洗濯ばさみ、釘、クリップ(1g)の3種類)を見ることで、「これらを使えば、魚の重さの順位を決めることができそうだ」という見通しを持つ。

自力解決 任意単位を使って測定する

- ・提示された任意単位をどのように使えば、重さの順位を決めることができるか、天秤を操作しながら考える。
- ・何を使って測定するのがよいかをグループで話し合いながら測定をする。

全体での話し合い なぜ、順位を決めることができたかその理由を話し合う

- ・クリップ1種類で測定している例と、洗濯ばさみとクリップなど複数の単位を用いて測定している例を比較し、いずれの考えでも単位の幾つ分の考えを用いれば、重さの順位を決めることができる理由を話し合う。

まとめ 本時の学習で分かったことをまとめる

- ・同じ重さの幾つ分を調べれば、重さの順位を正確に早く調べることが可能になることをまとめる。

【実践上の留意点】

魚の数が増えると直接比較することが難しいと感じた瞬間に、準備した任意単位を提示することで、任意単位の幾つ分かで量れば重さの順番を早く決められることができそうだという見通しを持たせる。

測定活動する魚の重さは、すべて整数値で作成する。また、反応例が多様になり過ぎないようにするために、教師が提示する任意単位は、3種類に限定する。

グループで測定した結果を発表する際には、一つの任意単位(クリップ)のみで測定した結果と、2種類の任意単位を用いて測定した結果を取り上げ、いずれの考えもなぜ重さの順番を決めることができたのかを説明させることで、同じ重さの幾つ分という考え(単位の考え)を用いるよさを確かめやすくする。

【板書例】

反応例の一部分を大きく提示するなど、比較する場所を焦点化することで、二つの考えに共通した測定のアイデアを見付けやすくする。

長さやかさの学習と似ていることはないかを問い、本時に発見した測定方法は、それらと同じ考え方をしていることに気付かせる。

重さくらべ	
1つの物	2つの物
① マバル 42分	① マバル 31分
② サバ 37分	② サバ 31分
③ タイ 32分	③ タイ 31分
④ フグ 27分	④ フグ 31分
⑤ チヌ 22分	⑤ チヌ 31分

重さは同じ重さの物のいくつ分で表すとよい

〔例3〕

授業改善の視点

表を見ることで2量の変わり方やきまりを見つけ、きまりをことばや や を用いた式に表す活動を取り入れた授業づくりをする。
根拠を明らかにしながら、自分の考えを分かりやすく説明する活動を重視した授業づくりをする。

実践例 < 第4学年「変わり方」/問題解決の学習における練り上げの改善例 >

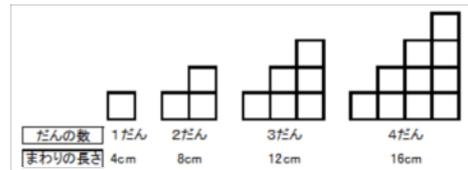
【指導のねらい】

表から変わり方のきまりを見つけて、 や を用いた式に表すことができる。

【主な学習活動】

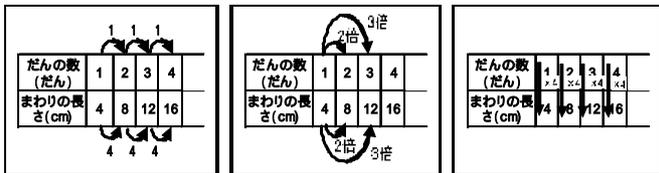
課題(めあて)把握 表に整理すれば、きまりが見つけれそうだという見通しを持つ

- ・ 段の数につられて変わる数にはどんなものがあるかを最初に考えた上で、段の数と周りの長さの変化のきまりを考えるというめあてをつかむ。



自力解決 段の数と周りの長さの関係を表に整理し、それらの変わり方のきまりを考える

- ・ 図を見て、具体的に数えて表を完成させる。
- ・ 矢印や数字等を書き込みながら自分の考えを整理する。
- ・ 見つけたかわり方のきまりについて2、3人のグループで話し合う。



全体での話し合い 見つけたきまりについて、話し合い、考えを深める

- ・ 表と関連付けて自分の見つけたきまりを説明する。
- ・ まだ十分でない児童の説明に続けて、付け足しや言い換えをしながら説明する。
- ・ 児童は自分の考えと友達の考えの類似点・相違点・補充点を考えながら聞くようにする。
- ・ 見つけたきまりを文章や言葉の式で表し、 や の記号を用いた式に表す。

まとめ 本時の学習で分かったことをまとめる

- ・ 対応関係にある2量が何かを考え、表に整理すると変わり方のきまりを見つけることができることをまとめる。

【実践上の留意点】

本時は、表を見て $\times 4 =$ というきまりに気付くこと、すなわち、最終的には問題場面を理解して「式を立てる」活動を中心とした授業づくりをする。式表現から問題場面对応させる「式を読む」活動、すなわち「なぜ4倍かという理由が分かること」は、次時以降で扱うようにする。

表からきまりを見つける段階では、いろいろな見方が出てくると予想されるが、いろいろな見方だけの議論にならないようにする。表を見てきまりに気付き、そのきまりを $\times 4 =$ のように表現できるという新しい話題へ進む過程を重視する。ただし、もし子どもが表から見つけたいろいろなきまりをなんらかの基準で比較して、「段の数 $\times 4 =$ 周りの長さ」というきまりの表現が一番便利であるという話へ続けるような流れの授業展開をすると、既有知識と新しい話題とを不自然な価値観でつなげることになりかねないので注意する。方法や理由等を説明する活動を重視した授業づくりをする。具体的には、自分の考えと友だちの考えとの違いを正確な表現で説明できるようにする。

③類型別調査結果 (算数B)

(96)

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	解答類型									無解答			
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	岡山県	全国		
1(1)	長方形のまわりの長さを求める式を選ぶ	長方形のまわりの長さの求め方を理解している	66.2	6.3	7.9	18.1							0.8	0.7	0.5
1(2)	全体の長方形から内部の長方形を除いた残りの部分の面積を求める式を選ぶ	L字型の図形の面積の求め方を表す式をよみとることができる	4.0	3.7	87.1	3.2							0.5	1.5	1.3
1(3)	全体の長方形から内部の長方形を除いた残りの部分の面積が等しいことの理由を説明することができる	条件を変えた複数の図形で、面積が等しいこと理由を説明することができる	6.3	7.9	29.6	1.1	22.7	0.0	0.7	12.3	10.0	9.5	8.8		
2	25×32を、筆算を用いずに工夫して計算する方法を説明することができる	計算の工夫をよみとり、それを用いて異なる数値の問題の解決方法を説明することができる	56.1	0.3	2.2	3.7	3.5	4.6					18.9	10.8	9.3
3(1)	漁業に携わる人数を表した棒グラフを見て、人数が最も多いグループを選ぶ	棒グラフから人数の大小をよみとることができる	90.2	5.7	1.5								1.7	0.8	0.7
3(2)	漁業に携わる人数を表した棒グラフを見て、全体の数がどのように変化してきたかを書く	棒グラフから人数の変化の様子をよみとることができる	86.7	0.0	0.5								9.6	3.2	3.3
3(3)	漁業に携わる人数のグループ別の割合を表した帯グラフを見て、正しい記述を選ぶ	帯グラフから割合の変化の様子をよみとることができる	51.4	31.0	8.9								7.4	1.3	1.2
4(1)	木曜日と日曜日に安売りをするケーキ屋で指定されたケーキを買うとき、どちらの日がいくら安くなるかを求める式と答えを書く	条件を基に各曜日の代金を求めて比較することができる	15.7	10.5	1.1	1.3	1.7	6.7	4.6	1.0	47.2	10.0	8.6		
4(2)	5個のケーキを買うとき、与えられた条件から残り2個のケーキの買い方を答える	問題の条件を整理して、筋道を立てて考えることができる	34.1	23.0	0.0	3.4	14.4						15.6	9.5	8.4
5(1)	2地点間を往復する際、行きに通った道を通らず、行きと同じ道のりとなる帰りの経路をかく	平行四辺形を見だし、その性質を用いて移動経路を考えることができる	65.0	3.7	0.0	6.3	10.5						8.0	6.6	6.1
5(2)	A地点からB地点まで進む2つの経路について、どちらの道のりが長いか答える	直角三角形を見だし、三辺の長さの関係を基に道のりの長短を判断することができる	78.1	19.5									0.5	2.0	1.9
5(3)	長方形の形をした公園と、平行四辺形の形をした公園について、面積が広い方の公園を答え、その理由を説明する	地図を観察して図形を見だし、面積を比較して説明することができる	14.0	0.4	1.9	3.9	33.5	8.9	10.5				23.0	4.0	3.5
6(1)	式を用いて計算した走り高跳びのめあてと実際の記録を比べ、正しい記述を選ぶ	言葉の式に数値を当てはめて値を求め、実際の記録と比較し、判断することができる	7.0	63.9	19.7								0.3	9.1	8.2
6(2)	2人の走り高跳びのめあてについて、計算せずに大小を比較できる理由を説明する	式の形に着目して計算結果の大小を判断し、根拠となる考えを説明することができる	2.3	13.1	2.1	26.1	5.3	7.9	0.9				19.9	22.4	20.4

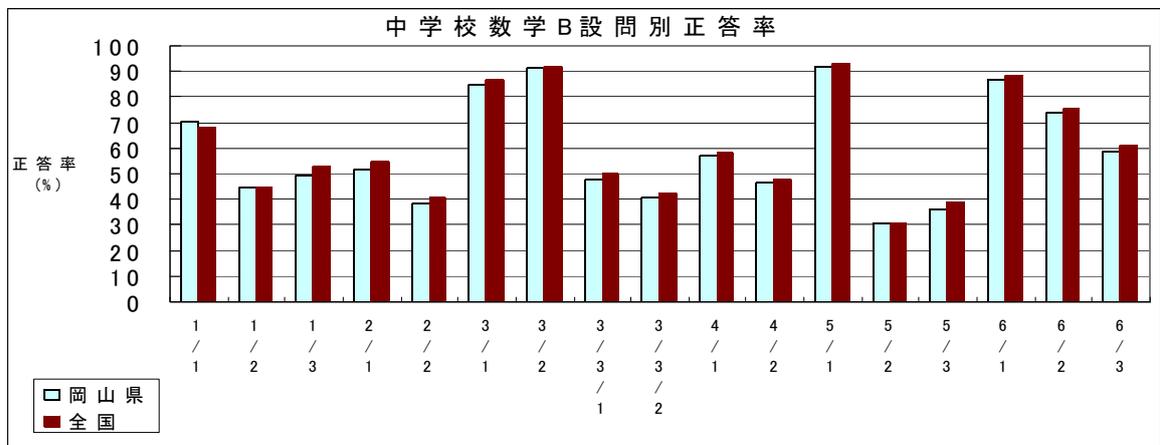
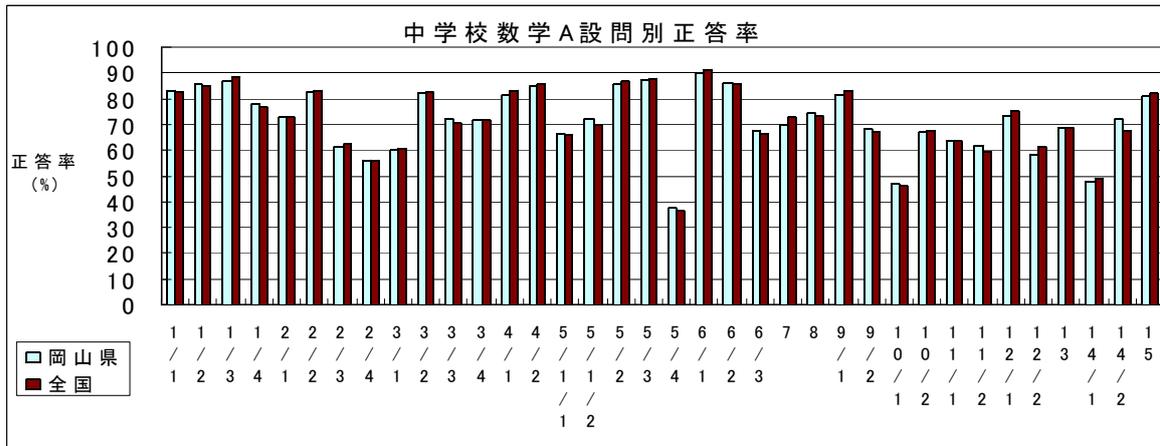
学習指導要領の領域				評価の観点				問題形式		
数と計算	量と測定	図形	数量関係	関心・意欲	数学的考え	表現・処理	知識・理解	選択式	短答式	記述式
		○	○				○	○		
	○		○				○		○	
	○					○				○
○			○			○				○
							○			
			○				○			○
								○		
○							○			○
		○							○	
			○				○			○
		○								○
									○	
			○				○			○

※網掛けかつ下線付きの箇所は、正答を表す。

※解答類型の内容については、「別添:平成19年度 解答類型.pdf」及び「解説資料(平成19年5月)」、「報告書(平成20年1月)」(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm)参照。

(4) 数 学〔中学校〕

①設問ごとの正答の状況



②全体的な傾向と分析

〔全体の傾向〕

- 正答率については、A Bともに全国と岡山県との間に大きな差は見られない。
- Aでは全体的に正答率が高いが、Bでは全体的に正答率の低い問題や無解答率の高い問題も多い。

〔課題の見られる主な設問〕（問題番号）

- 円柱と円錐の体積の関係の理解 (A5-4)
- 反比例の対応関係の理解 (A10-1)
- 確率の意味そのものの理解 (A14-1)
- 発展的に考え、その結果を説明すること (B2-2)
- 文字式で表し、理由を数学的な表現を用いて説明すること (B3-3)
- 2つの数量の変化の様子を読み取り、その特徴を的確にとらえて説明すること (B5-2)
- 問題解決の方法を数学的に説明すること (B5-3)

〔課題の見られる問題の分析〕

- 書かれた数式をよんで解釈することが要求されているB2-2の正答率は、4割弱である。また、一次関数のグラフの特徴を読み取るB5-2、3の正答率は、3割から4割弱であり、いずれも言葉での説明を求める問いである。
- AとBとの相関では、Aに関する問題は比較的容易に解ける生徒でも、Bのような「式やグラフをよみとる」力、さらには「言葉で説明する」力が不足しているので、この方面での指導が重要であると考えられる。

④主な設問ごとの分析

中学校 数学A 14- (1) 「確率の意味・場合の数」

(1) 1の目が出る確率が $\frac{1}{6}$ であるさいころがあります。このさいころを投げるとき、どのようなことがいえますか。下のアからオの中から正しいものを1つ選びなさい。
 ア 5回投げて、1の目が1回も出なかったとすれば、次に投げると必ず1の目が出る。
 イ 6回投げるとき、そのうち1回は必ず1の目が出る。
 ウ 6回投げるとき、1から6までの目が必ず1回ずつ出る。
 エ 30回投げるとき、そのうち1の目は必ず5回出る。
 オ 3000回投げるとき、1の目はおよそ500回出る。

出題の趣旨

確率の意味に基づいて、「1の目が出る確率が $\frac{1}{6}$ 」であることの意味について理解しているかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

第2学年C 数量関係

(2) 具体的な事象についての観察や実験を通して、確率について理解する。

イ 不確定な事象が起こり得る程度を表す確率の意味を理解し、簡単な場合について確率を求めることができること。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率(%) (国)	反応率(%) (県)	正答
14 (1)	1 ア と解答しているもの	3.1	3.7	
	2 イ と解答しているもの	27.1	26.7	
	3 ウ と解答しているもの	10.1	11.2	
	4 エ と解答しているもの	8.2	8.9	
	5 オ と解答しているもの	49.9	47.7	◎
	9 上記以外の解答	0.0	0.1	
	0 無解答	1.5	1.7	

分析結果と課題

○ある試行を多数回繰り返したときに、ある事象の起こる回数の割合は、ある安定した値をとるという傾向が見られる。この問題では、このような「大数の法則」を基にして確率の意味について理解していることが求められる。確率の意味の理解は、高等学校の確率の学習に必要である。また、自然現象や社会現象における不確定な事象を考察する際にも必要である。正答率は、47.7%であり、確率の意味の理解に課題がある。

中学校 数学B [5]-(2)「事象の数学的な解釈と問題解決の方法 (水温の変化)」

理科の授業で、水を熱したときの水温の変化を調べる実験をしました。右下の図は、水を熱し始めてからの時間と水温の関係を、2分ごとに10分後までかき入れたものです。

(1) 水を熱し始めてから10分後の水温は何℃ですか。

(2) 洋子さんは、このグラフを見て、「水を熱し始めてから x 分後の水温を y ℃とすると、 y は x の一次関数とみることができる。」と考えました。「 y は x の一次関数とみることができる」のは、グラフのどのような特徴からですか。その特徴を説明しなさい。

(3) 浩志さんと洋子さんは、「このまま熱し続けると、80℃になる時間は何分後だろうか。」と話し合っています。

浩志さんと洋子さんの会話

浩志さん「こんな方法を思いついたよ。」
 洋子さん「どんな方法なの。説明してみてよ。」
 浩志さん「 x と y の関係を表したグラフをのぼして、80℃になる時間は何分後かをよみとる方法だよ。」
 洋子さん「でも、そのままグラフをのぼしても、グラフ用紙の外側になってよみとれないよ。」

水温が80℃になる時間は何分後かを求めるには、浩志さんの考えた方法のほかに、どのような方法が考えられますか。その方法を説明しなさい。

ただし、グラフ用紙をつぎたしたり、目盛りの取り方をかえてかき直したりして、グラフをのぼすことはできないこととします。

出題の趣旨

実験から得られた数値に基づく x 、 y の関係を表すグラフの点の並び方から数量の関係を理想化したり、実際のデータを単純化したりしてとらえ、 y は x の一次関数であるとみてよいグラフの特徴を説明することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

第2学年C 数量関係

(1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%) (国)	反応率 (%) (県)	正答
5 (2)	1 点がほぼ直線上に並んでいることを指摘して解答しているもの	17.8	17.8	◎
	2 上記1で、まっすぐなど直線と同様な意味をもつ言葉で解答しているもの	0.5	0.5	○
	3 グラフの傾きについて、時間を区切って解答しているもの 例 区間ごとに線をひいてみると、グラフの傾きがほぼ一定である。	0.0	0.0	◎
	4 上記3で、グラフの傾きについて着目しているが、時間を区切ることにについて解答していないもの 例 グラフの傾きがほぼ一定である。	0.3	0.2	○
	5 時間と水温の2つの量に着目し、「変化の割合が一定である」ことについて解答しているもの 例 2分ごとにみると、温度の増え方がほぼ一定である。	7.2	6.1	◎
	6 上記5で、温度の変化のみに着目し、時間の変化について解答していないもの 例 水温の上がり方がほぼ一定である。	6.4	6.0	○

7	式の形が $y=ax+b$ となることに着目して解答しているもの 例 グラフの式が $y=4x+20$ で表すことができる。	1.4	1.1
8	比例という用語、あるいは比例のグラフの性質を用いて、解答しているもの 例 比例している。	17.6	18.9
9	上記以外の解答	20.4	17.8
0	無解答	28.5	31.7

分析結果と課題

- 本問題は、グラフの点の並び方から、グラフを直線とみてよいことを指摘して説明できるかどうかをみるものである。正答率は、30.6%である。目的に応じて、時間と水温の関係を理想化したり、実験から得られたデータを単純化したりして一次関数とみなしてグラフの特徴を説明することに課題がある。
- 誤答については、「比例」という用語、あるいは比例のグラフの性質を用いて解答している解答類型8の反応率が、18.9%である。これらの解答をした生徒は、点が直線上に並んでいる特徴をとらえているものの直線ならば比例であるとして、比例と一次関数を混同していると考えられる。
- 解答類型9（上記以外の解答）の反応率は、17.8%である。その中には、次のようなグラフの一部分の特徴の記述しかない解答や実験の様子を記述している解答がある。
 - (例1) 原点を通っていない。
 - (例2) 右上がり。
 - (例3) 熱を加えると温度も上がる。

中学校 数学B 5- (3)

出題の趣旨

グラフに示されていない水温に対応する時間の求め方について、グラフの直線を延ばさずに求める問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

学習指導要領における領域・内容

第2学年C 数量関係

- (1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。

解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%) (国)	反応率 (%) (県)	正答
5 (3)	(正答の条件) <式を用いることについて記述している場合> 次の (a)、(b) について記述しているもの (a) 一次関数の式を求めて利用すること (b) 一次関数の式に $y=80$ を代入して x の値を求めること <表や数値を用いることについて記述している場合> 次の (c)、(d) について記述しているもの (c) 表や数値を用いて変化の様子を調べること (d) 水温が 80°C のときの時間を調べること なお、(c) としては、表や数値を使うことを記述していれば、変化の様子を調べることを記述していなくてもよい。			

	(正答例) 例1 xとyの関係式を求めて、y=80を代入し、xの値を求める。 例2 xとyの関係を表した表をつくり、変化の様子を調べて、80℃になる時間を求める。			
1	(a)、(b)について文で記述しているもの (実際に式にしたり、計算したりしていてもよい。)	14.3	13.3	◎
2	上記1で、(b)において数値「y=80」の記述がないもの または、具体的に求めた式に誤りがあるもの	6.8	6.7	○
3	(a)、(b)について文で記述せずに、実際に式からy=80のときのxの値を求めているもの 例 $y = 4x + 20$ $80 = 4x + 20$ $4x = 60$ $x = 15$	1.6	1.1	◎
4	上記3で、式を求めてyの値を代入しているが、式や計算に誤りがあるもの	0.7	0.5	○
5	(a)または(b)のみ等について記述しているもの 例1 式を求めればよい。 例2 代入すればよい。	6.7	6.5	
6	(c)、(d)について記述しているもの または、実際に表や数値計算から80℃の時間を求めているもの 例1 グラフからおおよその数をよみとって、表をつくってみると、時間が2分ふえるごとに水温が8℃ずつあがる。だから、80℃になる時間は60℃のときの時間に5分をたす。 例2 数値から変化の様子を調べ、80℃になるときの時間を求める。	10.8	9.2	◎
7	上記6で、(d)において数値「水温が80℃のとき」の記述がないものまたは、表や計算のみを記述しているもので、その表や計算に誤りがあるもの	5.9	5.1	○
8	(c)または(d)のみ等について記述しているもの 例1 表をかけばよい。 例2 数値を使って計算すればよい。	0.4	0.2	
9	上記以外の解答	15.3	15.7	
0	無解答	37.3	41.7	

分析結果と課題

- 本問題は、水温(y ℃)は熱し始めてからの時間(x 分)の一次関数であるとみなし、水温が80℃になるときの時間を求める方法について、式や表などの「用いるもの」と「その用い方」を明示して説明できるかどうかをみるものである。正答率は、35.9%であり、グラフに示されていない水温に対応する時間の求め方について、その方法を説明することに課題がある。
- 誤答については、「何を用いるのか」、「どのように用いるのか」のうち、どちらか一方しか説明していない解答類型5と8の反応率を合わせると、6.7%である。
- 解答類型9(上記以外の解答)の反応率は、15.7%である。その中には、「計算して出す」など、用いるものを説明していない解答やグラフを延ばして求めようとしている解答がある。

⑤授業改善の視点と実践例

〔例1〕

授業改善の視点（中学校数学）

- 文章の立式指導だけでなく、式をよむ活動を取り入れた授業づくりをする。
- 関数のグラフでは、単にグラフのかき方を指導するだけでなく、具体的な事象をイメージできるように、グラフをよんだり説明したりする活動を重視した授業づくりをする。

実践例

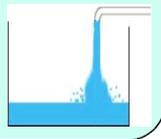
○式をよむ活動を取り入れた授業の例

与えられた問題を解くことに加えて、類似した式を提示し、その式から問題場面がどのようになるかを考える活動を行う。こうした活動により、問題を解く活動が形式的な処理だけにとどまらず、生徒が関数関係をより深く理解することを目指している。

場面の理解

文章 式
式 グラフ

水が7ℓはいつている水そうに、毎分5ℓで x 分間水を入れるときの水そうの水の量を y ℓとします。このとき、 y は x の一次関数であることを示しなさい。



もし、 $y=6x+2$ で表されるなら、水そうと水の入れ方はどのようになっているでしょうか。

【実践上の留意点】

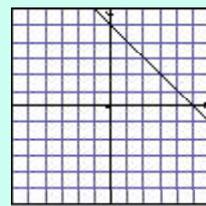
- ・式をよむ活動では、新たな活動として x 分のように、 y 、6、2にもそれぞれ単位をつけて表現するようにし、何を表しているかを常に意識させるようにしたい。
- ・生徒が自ら式を発表し、その問題場面を考えていくような授業展開にすると効果的である。

○グラフをよむ活動を取り入れた授業の例

例えば、一次関数のグラフをかいたり直線の式を求めたりする場面がある。方法の定着を図る段階では、グラフから具体的な問題場面を選んだり考えたりするようなグラフをよむ活動を取り入れる。

次のグラフにあてはまる問題場面を選びなさい。

- ① 500mlの牛乳を、 x ml飲んだときの残り y ml
- ② 面積 20cm^2 の長方形の縦の長さを x cm 横の長さ y cm
- ③ 1辺が x cmの正三角形の周りの長さを y cm



関数の指導では、表、式、グラフを関連付けることによって、具体的な事象の考察をより深めることが大切である。したがって、扱いが並列的にならないように意図的にこのような指導を展開する必要がある。

【実践上の留意点】

- ・問題場面を選ぶ際には、「なぜ選んだか」という理由を、生徒が自分で説明できるように指導したい。
- ・グラフをよむ視点から、生徒が実生活の中から二つの数量を取り出して場面を設定できるようにすることが望ましい。「こんなグラフになるのは、どんな場面だろう」「減っているのだから、ジュースを飲んだ量と残りの量があてはまるかな」と具体的な数量関係と結び付けることができるようにしたい。

〔例2〕

授業改善の視点

- オープンアプローチの課題を設定することにより、生徒の主体的な取り組みを促す授業づくりをする。
- グループで各自の考え方を説明する場面を設定することにより、論理的に筋道を立てて説明する力を育てる授業づくりをする。

実践例<第2学年「平行四辺形」/オープンアプローチを取り入れた改善例>

【指導のねらい】

平行四辺形のいろいろな性質に関心をもち、平行四辺形になるための条件を見いだそうとする。また、その条件を自分の言葉で説明することができる。

【主な学習活動】

- 平行四辺形をかく方法についてのワークシートを事前課題とする。
 - ・ワークシートの記入状況を把握しておく。

課題を確認する



- ・「2組の向かいあう辺が、それぞれ平行な四角形は平行四辺形である」という平行四辺形の定義を再確認する。

グループでの話し合い



- ・平行四辺形になるか、判断にとまどっているグループには、実際に作図して考えるよう指導する。
- ・自分にない考え方は、理解した上で書き加えるようにする。

全体での話し合い



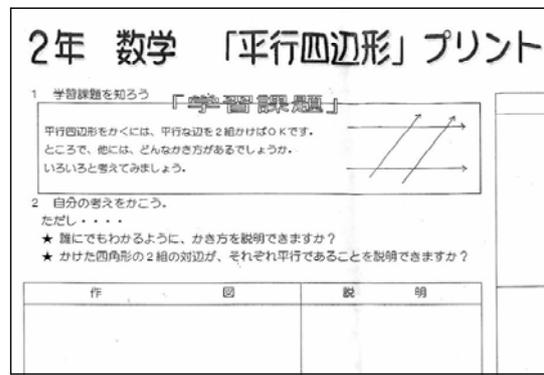
- ・発表者には、図に記号を書き加えながら、分かりやすく説明をするよう指導する。

まとめ

- ・論理的に筋道立てて説明できた点を賞賛する。
- ・次時は、本時の説明を、数学の記号を使って証明をしていくことを伝える。

【実践上の留意点】

- 本時の学習課題は、宿題として扱った。家庭学習が直接授業に生かすことを意識した指導も有効である。
- グループの話し合い活動では、事前に手順を説明しておき、話し合いが円滑に進むよう指導しておく。また、机間指導では、発表内容だけでなく、話し合いへの取り組みの様子も指導し、良い点を褒めて自信を付けさせたい。
- 生徒が学級全体で説明する場面では、説明の過程で使った根拠となる事柄には、アンダーラインを引くなどして、意識させていくようにしたい。



話し合い活動の進め方の例

※司会者を決め、協力して進めることができるようにする。

全 員：(ワークシートを読み合う)

発表者：私は、～と考えました。

司会者：2組の対辺がそれぞれ平行だと説明できますか。

発表者：(自分の言葉で説明する)

司会者：他の人は納得できましたか。

〔例3〕

授業改善の視点

- 数学を生み出したり、数学を利用したり、数学的に伝え合ったりするなどの数学的活動を充実した授業づくりをする。
- 帰納的な考え方が必要な課題を設定し、生徒が自ら情報を整理する方法を見いだす活動を取り入れた授業づくりをする。

実践例<第2学年「課題学習」/数学的活動を充実させた改善例>

【指導のねらい】

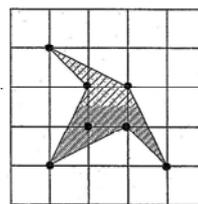
多角形の面積を格子点の数から求めようとする。また、対応表の分析を通して、きまりを見付けるといった数学的な見方や考え方のよさに気付く。

【主な学習活動】

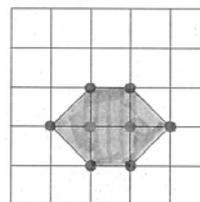
課題を確認する

- ・課題プリント(内部点が1つ)の答え合わせし、面積の求め方には、工夫した方法があることに気付く。
- ・点と面積の関係について考えることを確認し、関係を見付ける。(公式1)

課題プリント



問題1



個人追究

- ・問題1(内部点が2つ)を考える。
- ・簡単に面積を求めることができるが、公式1が使えないことを確認し、次への課題意識を高める。
- ・課題プリントとの図の相違点が、内部点の個数であることに気付かせる。

集団追究

- ・辺上点、内部点、面積の関係を対応表に整理する。
- ・どんなデータを増やせば関係式を見付けることができるか試行錯誤しながら考えて、お互いの意見を出し合う。
- ・各自の考え方や級友の意見を書き留めておくようにする。

まとめ

- ・ピックの定理を示す。
- ・各自で問題を作り、ピックの定理を利用して問題を解く。
- ・自己評価シートに書かれた感想等を互いに紹介することで、驚きや定理のよさを共有させたい。

ピックの定理
 $(面積) = (辺上点の数) / 2 + (内部点の数) - 1$

【実践上の留意点】

- 数学科で扱う課題には「ピックの定理」のように課題自体に数学の面白さや魅力が備わっているものも多い。教科書では、様々な課題学習や発展的な学習が取り上げられている。それらを有効に活用することで数学的活動を充実させることが可能となる。
- 考えを書き留めることを習慣化するために、ワークシートに意図的に自分の考え方や級友の発言を記入する枠を作ることも有効である。

③類型別調査結果 (数学B)

(%)

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	解答類型									無解答			
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	岡山県	全国		
1(1)	レストランのセットメニューで、条件を満たすメニューの選び方が何通りあるかを求める	情報を分類整理することができる	70.4	13.7	0.9	0.2	1.4						11.1	2.3	1.8
1(2)	レストランのセットメニューで、条件を満たすメニューを選択する	情報を分類整理し適切に選択し、判断することができる	44.8	49.0									5.5	0.7	0.5
1(3)	レストランのセットメニューの代金から、条件に合う注文をした人がいたかどうかを答え、その理由を説明する	筋道を立てて考えることができ、数学的な表現を用いて説明することができる	0.4	39.9	7.7	1.6	24.2	7.9	15.7				0.1	2.8	2.5
2(1)	連続する3つの自然数の和の性質について、式からよみとることを選ぶ	説明を振り返って考えることができる	14.0	10.6	17.7	51.5	4.3						0.0	1.8	1.6
2(2)	連続する5つの自然数の和が5の倍数になることを説明する	ものごとを発展的に考えることができる	35.2	0.9	1.1	18.9	0.1	0.7	1.4	0.9	7.3	33.4	29.2		
3(1)	サッカー大会の総当たり戦での順位決め方から、指定されたチームの点数を計算する	与えられた情報を的確に処理することができる	84.8										11.6	3.5	2.8
3(2)	チームの順位決め方をもとに、1位のチームを選ぶ	情報を的確に処理し、その結果を比較することができる	0.9	91.2	4.7	1.2	0.9						0.0	1.0	0.9
3(3)式	条件に合った計算式を新たに作る	問題解決の構想を立て、結果を振り返りながら、数学的な表現を用いて説明することができる	47.6	0.1	0.0	14.2							0.3	37.7	35.0
3(3)理由	新たに作った計算式が、条件に合うことを説明する		6.5	0.1	34.0	2.8	11.8						1.0	43.8	40.1
4(1)	線分の垂直二等分線の証明で、誤りを指摘する	図形の証明を振り返り、評価することができる	24.8	31.9	0.5	9.9	6.4						2.0	24.5	23.3
4(2)	証明の中の誤りを正しく書き直す	証明の評価にもとづき、改善することができる	38.6	8.1	0.0	1.0	4.3	1.5					26.7	19.8	17.4
5(1)	水を熱したときの時間と温度(水温)のグラフから、10分後の水温を求める	グラフから情報をよみとることができる	91.8	0.0									2.9	5.3	4.5
5(2)	時間と水温の関係が一次関数であることが分かるグラフの特徴を説明する	グラフ上の点の並び方を理想化、単純化してとらえることができる	17.8	0.5	0.0	0.2	6.1	6.0	1.1	18.9	17.8	31.7	29.5		
5(3)	水温が80℃になる時間を求める方法を説明する	問題解決の方法を数学的に説明することができる	13.3	6.7	1.1	0.5	6.5	9.2	5.1	0.2	15.7	41.7	38.6		
6(1)	家から公園を通り図書館まで往復したときの時間と距離の関係を表したグラフの線分が表す事象を答える	グラフから情報をよみとり、事象に対応させて解釈することができる	86.5	0.0	0.6								3.1	9.8	8.2
6(2)	グラフをもとに、図書館にいた時間を答える	事象を数学的に解釈し、グラフと対応させてよみとることができる	73.7	2.5	1.4	1.6							13.9	7.0	6.0
6(3)	家から公園までの速さと、公園から図書館までの速さのどちらが速かったかを選び、その理由を説明する	グラフから情報をよみとり、考えを数学的な表現を用いて説明することができる	22.8	4.1	30.8	0.7	6.0	17.1	14.6				0.2	3.6	3.6

学習指導要領の領域			評価の観点				問題形式		
数と計算	図形	数量関係	関心・意欲	数学的な考え力	表現・処理	知識・理解	選択式	短答式	記述式
		○			○			○	
		○			○		○		
○				○					○
○				○			○		
○				○					○
		○			○			○	
		○			○		○		
○				○					○
○				○					○
	○			○				○	
	○			○					○
		○			○			○	
		○			○				○
		○			○				○
		○			○				○

※網掛けかつ下線付きの箇所の類型が、正答を表す。

※解答類型の内容については、「別添：平成19年度 解答類型.pdf」及び「解説資料(平成19年5月)」、「報告書(平成20年1月)」(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/index.htm)参照。

5 教育委員会・学校における事例

(1) 教育委員会が作成する学校改善支援プラン

①学校支援の手だてを明確にしている事例

学校を支える教育委員会

〈調査結果の分析及び資料提供〉

各学校に市全体の状況を伝えるとともに、各校の結果の分析及び改善策の検討の参考となるよう、下記の資料を作成・配付する。

- ・市の結果概要
- ・教科ごとの結果分析と改善授業の例
- ・学力と生活習慣・指導方法等との相関
- ・無解答に関する分析とその改善策

〈無解答率アンケートの実施〉

調査を受けた全児童生徒に対して無解答の理由を問うアンケートを実施した。

無解答率の高さは、教科の内容のみならず、学習意欲や記述に対する児童生徒の意識等にも関係するものであり、この結果の分析が学力の向上の一つの鍵となると考える。

〈A市教育課程研究協議会の開催〉

市内の全小中学校参加で年間3回程度実施している「市教育課程研究協議会」を、2月に「全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業づくり」というテーマで開催する。

市教委からの説明に加え、中学校区をグループとして、授業づくりについて情報交換及び協議を行う。また、全校の改善プランをファイリングし、情報共有するとともに、今後に生かすことができるようにする。

〈平成20年度教育課程編成への活用〉

各学校の担当指導主事が、各学校の授業改善プランをもとに、その取組の状況を把握し、学校の相談に応じたり内容について協議したりすることで、来年度の教育課程が今回の調査の分析結果を十分に生かしたものとなるようにする。また、学校教育基本計画や指導の重点とも合わせて具体的な取組となるよう指導する。

〈他課との連携〉

また、今回の調査で、児童生徒の生活習慣の状況や学力との関係が改めて明らかになった。調査の分析結果を他課と共有し、平成19年4月に施行した条例に則って、市民協働での子どもの育成を一層推進し、家庭、地域の教育力の向上を図っていく。

小学校 全国学力・学習状況調査 無解答アンケート 国語 無解答率の高い問題

BJ3

〈設問概要〉

同じ本を読んで書いた2人の感想文から、共通する書き方の良いところを書く

〈出題の趣旨〉

二つの文章を比べて読み、共通する書き方の良さや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめる

【質問及び選択肢】

- この問題の答えを、少しでも書くことができましたか。
(答えがあっても、まちがっていてもかまいません。また、とちゅうやめになっても、少しでも書くことができていたら、「ア 書いた」に○をつけてください)
ア 書いた イ 書けなかった
- 1で「イ 書けなかった」を選んだ人だけ答えてください。書けなかった理由はどんなことですか。最も近い理由を次のア～エから選んで、記号に○をつけてください。
ア 答えは何となくうかんだが、どう書いてよいか分からなかった。
イ 考えたが、答えが思いつかなかった。
ウ 考える時間がなかった。
エ できないと思ったので、考えなかった。

算数 無解答率の高い問題

B 6-(2)

〈設問概要〉

2人の走り幅跳びのめあてについて、計算せずに大小を比較できる理由を説明する

〈出題の趣旨〉

式の形式に着目して計算結果の大小を判断し、根拠となる考えを説明することができる

【質問及び選択肢】

- この問題の答えを、少しでも書くことができましたか。
(答えがあっても、まちがっていてもかまいません。また、とちゅうやめになっても、少しでも書くことができていたら、「ア 書いた」に○をつけてください)
ア 書いた イ 書けなかった
- 1で「イ 書けなかった」を選んだ人だけ答えてください。書けなかった理由はどんなことですか。最も近い理由を次のア～エから選んで、記号に○をつけてください。
ア 答えは何となくうかんだが、どう書いてよいか分からなかった。
イ 考えたが、答えが思いつかなかった。
ウ 考える時間がなかった。
エ できないと思ったので、考えなかった。

アンケート（小学校）

小学6年生の皆さんへ
このアンケートは全国学力・学習状況調査についての皆さんの解答の状況を知るためのものです。下の問いに答えてください。名前は記入しなくてよろしい。ありのままを書いてください。
教育委員会

3

先生は、この二人の感想文はどちらも良い書き方だと思いました。二人の感想文は、同じように書いてもらいたいです。

<高橋さんが書いた感想文>

わたしは、「相手のさげんをとったり、合わせたりするのは、本当の友達とはいえない」という主人公あゆみの言葉をうまく受け入れられます。この本を読んで、人と人がつながることのおずかしさを改めて考えました。
あゆみは、親友とうまくいけなくなったとき、今までとはちがう見方をしました。少しずつはなれていく関係になやみながらも、新しく友達との関係をつくることができました。いつまでも考えこまず、気持ちを切りかえるようにしたのです。あゆみは自分にとって本当の友達とは何かというこの答えを見つけたのです。
わたしも、あゆみと同じような体験をしたことがあるのですが、うまくいきませんでした。広く人とかかわり、新しく友達を見つけていくことは大事です。だからといって、すぐに気持ちを切りかえるのはかんたんではありません。これからも、人と人とのつながりについて、考えていきたいと思っています。

<青木さんが書いた感想文>

主人公あゆみの印象的な言葉。「いつもそばにいていっしょに行動することだけが友達じゃない。ときにはさよりを置き、友達を見守ることが大切だ。」わたしは、この本を読んで、はげまれ、勇気ももらいました。
あゆみは、親友とささいなことでもけんかします。少しずつ二人の心ははなれてしまい、落ちこんでいきます。そんなとき、全く気が合わないと決めつけていた別の友達が「気にしすぎだよ。そのうち、仲良くなるよ」と声をかけてきました。話すことが少なかった友達が、声をかけてくれたことで、あゆみは元気づけられ、前向きな気持ちになれたのでした。
わたしは、この本と出会ってから、いろいろな人と広くかかわることができるようになりました。少しのけんかは気にせずに、できるだけ多くの友達をつくらうと思います。この本に出会うことができ、本当によかったです。

中川さんの手紙では、夏休みには読んで本の中で心に残ったものを感想文に書くことになりました。先生が、感想文の書き方の勉強にやるように二人の感想文に書いてもらいました。同じように書いて二人の感想文を読んで、あの問いに答えよう。

1 この問題の答えを、少しでも書くことができましたか。（答えがあっても、まちがっていてもかまいません。また、とちゅうやめになっていても、少しでも書くことができていたら、「ア 書いた」に○をつけてください）

ア 書いた イ 書けなかった

2 1で「イ 書けなかった」を選んだ人だけ答えてください。書けなかった理由は何なことでか。最も近い理由を次のア～エから選んで、記号に○をつけてください。

- ア 答えは何となくかんたが、どう書いてよいか分からなかった。
- イ 考えたが、答えが思いつかなかった。
- ウ 考える時間がなかった。
- エ できないと思ったので、考えなかった。

②検証改善サイクルのプロセスを明確にしている事例

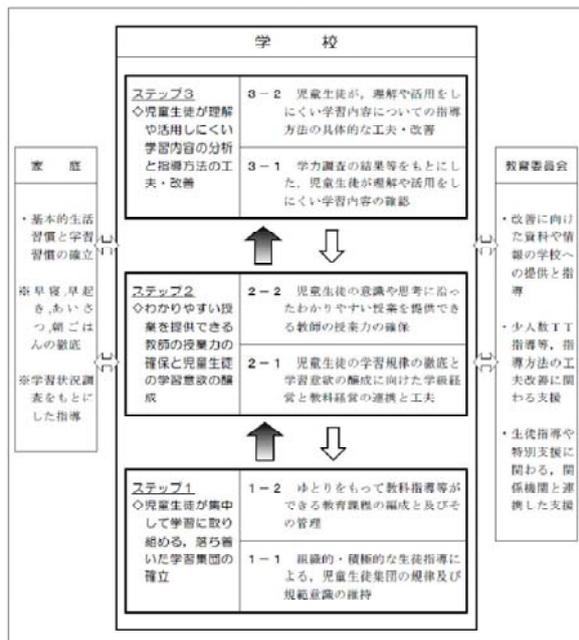
(1) 今年度の学校支援の重点

<「B市『確かな学力』の獲得に向けた改善プラン」の作成及び提示>

各校が全国学力・学習状況調査の結果や実態を踏まえて自校の改善策を作成するための視点を明確にした「B市『確かな学力』の獲得に向けた改善プラン」を作成し、学校に提示する。そして、それをもとに各校の現状を全職員で見直し、そこで明らかになった成果と課題を踏まえて、実効性のある各校独自の改善プランを作成するよう依頼する。

<各校の取組内容の例示及び取組状況の把握>

各校が作成した改善プランを集約し、実効性のあるものかどうかを検討し、具体的な取り組み内容をまとめ、自校の改善プランを見直すための参考として例示する。また、今年度末までの取組状況を調査し、各校の実態を把握する。



<教務主任者会における取組についての情報交換及び教育課程編成に係る協議>

平成20年1月25日に開催する教務主任者会において、ア)各校の取組状況や改善の工夫、イ)平成20年度教育課程編成に係る工夫、等について協議し、各校の取組や教育課程編成の参考とする。

<落ち着いた集団づくりに向けた支援>

生徒指導及び特別支援教育に関わり、児童生徒が落ち着いて生活したり、学習したりすることができるよう、各校の実態に応じて関係機関との連携を図り、具体的な支援を行う。必要に応じて、学校教育課担当者が学校訪問を行い、状況把握や具体的な対応について協議する。

(2) 来年度の学校支援の重点

<各校の改善プランの評価・修正による平成20年度の取組支援>

各校が作成した改善プランの今年度の取組状況を踏まえ、平成20年度の取組内容を再度吟味し、焦点化した取組となるように支援する。

<学校訪問による状況把握及び具体策に係る協議の実施>

学校訪問の中で、各校の取組状況を把握するとともに、教員と協議する際の柱に「B市『確かな学力』の獲得に向けた改善プラン」を位置付け、ステップ1から3の視点を踏まえて協議する中で具体策を明らかにしていく。

<改善プランに係る校内研修会の実施及び会への参加>

各校が独自に研究テーマを設定し計画的に取り組んでいる校内研修の中に、改善プランに係る校内研修会を位置付けてもらい、その際に学校教育課担当者が参加し、具体的な対策等について教員と一緒に協賛する。併せて、教育委員会と学校が連携して取り組むことができる体制を整える。

<研究担当者会の開催>

各校が作成した改善プランの取組状況についての情報交換及び具体策等について協議するとともに、具体的な手立て等を提示することを通して、各校における取組の充実に向けた支援を行う。

③その他の事例

<校種間連携の推進>

- ・各中学校区の小中教科部会等による系統的、継続的な学習の在り方についての研究を推進する。
- ・異校種間での授業参観を推進する。
- ・各中学校区での学力向上についての小中合同研修会開催を推進する。
- ・小学校6年生の分析結果を基に小中連絡会を実施し、中学校1年生へのサポート体制をつくる。

<家庭との連携の推進>

- ・家庭と学校が一体となった学力向上の取組となるよう、市の児童生徒の状況や保護者への提案等を内容とする資料を作成し、来年度1学期の学年・学級懇談会等で活用し、家庭と学校が一体となった学びの環境づくりを推進する。

<その他の取組>

- ・学習効率を高めるためのICT活用を促進する教材開発チームを立ち上げる。
- ・独自にモデル校を指定し、モデル校で講師を招いた研修会を実施する。
- ・市のケーブルテレビで児童生徒向けに「英語・算数・数学」の教育番組を配信する。

(2) 学校が作成する授業改善プラン

①調査結果の分析の事例

○特徴的な傾向をつないで解釈したA校の分析例

**学校全体で取り組む！
確かな分析・計画の立案**

- ・「国語や算数の勉強は大切である」という質問には、90%以上の児童が肯定的な回答をしており、これは岡山県とほぼ同じである。しかし、「国語（算数）の勉強が好き」という質問に肯定的な回答をした児童はどちらも60%に達しておらず、岡山県を下回っている。
→大切さは分かっているが、好きになれない、好きになれないので意欲がわかないという状況があると考えられる。
- ・いろいろな活動を体験しているかどうかを問う質問については、「体験した」と回答した児童がほとんどの項目で岡山県をやや上回っていた。学校で楽しみにしている活動があると肯定的な回答をした児童も岡山県をやや上回っていた。しかし、総合的な学習の時間の勉強は「好き」「新しい発見ができる」「普段の生活や社会に出たときに役立つ」「他の授業も分かりやすくなった」というような質問に肯定的な回答をした児童はいずれも岡山県をやや下回っていた。地域とのかかわりや社会への関心を問う質問は、ほとんどの項目で岡山県を下回っていた。
→多様な活動を体験できるという点ではよいが、児童の実態や社会の状況等を考慮して総合的な学習の時間の活動内容や身に付けさせたい力などを見直していく必要があると考えられる。
- ・家庭学習については90%以上の児童は家で宿題をすると回答しているが、「調べ学習をする」と肯定的な回答をした児童は50%以下で岡山県より低くなっている。また、「復習をする」「予習をする」は30%程度でこれらもいずれも岡山県より低くなっている。
→与えられたことについては取り組むが、自ら進んで学習をするという姿勢は身に付いていないと考えられる。
- ・睡眠時間や起床時刻に気を付けて生活している様子は見られるが、テレビを見る時間やゲームをする時間について家族と約束していると肯定的な回答をした児童は岡山県より3ポイント少なかった。家庭で勉強する時間を決めて実行している児童の割合は岡山県よりやや多いが、50%程度にとどまっている。
→睡眠時間や起床時刻については、生活調べを実施しているということが影響していると考えられる。しかし、全体的にみると、規則正しい生活ができているとは言い難い。家族全員で規則正しい生活ができるように気を付けることも必要でないかと考える。

B校の分析例

児童質問紙から、算数の勉強はあまり好きではなく、大切であるとは思っていないこと、学習したことが将来社会に出たときに役に立つ、という意識もやや低いことがわかっている。また、新しい問題に出会ったとき解いてみたいと思ったり、解き方が分からないときはあきらめずにいろいろな方法を考えたりすることも少ないこともわかっている。学力調査からは、比較したり筋道を考えたりして解くことが苦手であることが分かっている。

これらのことから、計算や図形等、単純なものは身に付いているが、条件をそろえて比較することや複雑な思考を必要とすることは苦手であり、新しい問題に挑戦したり、解けるまであきらめずに取り組んだりしていないことが分かる。

○学力調査や標準学力検査と児童生徒質問紙を関連させたC校の分析例

〈課題〉

- ・国語科の学力調査結果は、全国に比べ全体的に低く、国語Bにおいては、全国の正答率に到達している問題が1問のみとなっている。質問紙調査においては、国語の勉強が好きな児童、国語の授業がよく分かる児童、読書の好きな児童、国語の授業の中で司会をしたことがある児童の割合が低いといった国語の授業についての課題が明らかになった。年度当初に実施した「教研式標準学力検査CRT-Ⅱ」においても、国語科の正答率（全国比）が低くなっている。この傾向は、2～5学年にも当てはまることであり、国語科の学習指導の充実は、今後の大きな課題といえる。

○児童生徒の学習意欲に着目したD校の分析例

〈成果〉

- ・各教科ごとに、①好きだ、②大切だ、③よく分かる に分けて問うた結果が興味深かった。肯定的な回答は高い順に②-③-①となる。
- ・「勉強は大切だ。そして、好きだ」と思っている児童の割合を比べると、算数の方が多かった。これは少人数指導やT Tの授業の結果だろう。

〈課題〉

- ・Aでつけたい基礎基本の力で、達成率の低いところをまず反復して学習させていく。
- ・「国語の授業の中で、司会をすることがある」は、全国的にも低い、本校では肯定的な回答が15%であり、授業の中で取り組むべき課題であろう。
- ・「書く」「話す」「聞く」力を育てるための具体的な方法研究し、国語が好きと感じる児童を増やしていく。

②課題に対応したE校の改善計画例

〈課題〉

- ・家や図書館で普段読書をする生徒の割合は、県平均値より20%以上低く、また、読書が好きであるという生徒の割合は県平均値より低い。今回の調査では、読解力の分野において県平均を下回ることはなかったが、読書習慣の確立による読解力のさらなる向上は、今後の課題である。
- ・いつもテレビを見ている生徒の割合は県平均値より10%程度高い。家で学校の宿題をしている生徒の割合は、どちらかといえばしているという生徒を含めて県平均より高いが、家庭での余暇の過ごし方についての指導が必要である。

〈改善計画〉

- ・読書の習慣が身に付くように、読書週間を12月に設け、朝読書の時間を毎日15分間確保する。
- ・各教室に学習に必要な教材を常時設置し、生徒が授業中だけでなく、休憩時間等においても、触れることができるようにする。
- ・教科以外の学習（総合的な学習の時間など）において、手紙の書き方や集めた資料をグラフにまとめる方法などのスキル学習などを行い、問題解決能力を育成する。
- ・学級活動において、望ましい余暇の過ごし方について指導する。

③改善計画の事例

○当該年度から組織を挙げて取り組むF校の改善計画例

〈本年度〉	〈来年度〉
<p>◎すでに導入されている 数学・英語の少人数学級（3年数学は習熟度別）に加え、「授業で勝負！」の研究成果を共有化し授業に生かしていく。具体的には次のとおり。</p> <p>○教師集団を〈学習意欲を高めるグループ〉〈学び合いをつくりだすグループ〉〈つまずきを克服するグループ〉の教科を越えた3グループに分け、生徒の学びの現実を変えていくために学校全体でチームとして授業改善を図る。（本年度4回の「研修・研究授業・研究協議会」を8月・10月・11月・2月に実施。）</p> <p>○現時点で共有し、授業改善のために意識化を図っている主な点として</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究では率直な意見を ・苦手意識を持っている生徒にはおもしろさというより小さな前進を実感させることの積み重ねを ・授業の最初でつまずかせない工夫を（つまずきを授業に生かす工夫も） ・授業の節目で全員が一つになれる瞬間を ・生徒の授業規律、発表の仕方なども全ての教科・場面で鍛えることを ・グループ任せ、生徒任せにせず学習の方法や手だての明示を ・学び合うからこそ付く学力を ・小中連携でさかのぼって指導を ・教室環境の整頓・美化で落ち着いた雰囲気 <p>◎B問題における課題についての改善</p> <p>○国語…教科書教材に加え、読むこと・書くことを中心に新聞等からも教材開発を行い、授業展開の中で、特に「書くこと」を習慣的に取り入れていく。</p> <p>○数学…問題を解いて終わるのではなく、その解答を自分で読み返し見直すことまで指導していく。</p>	<p>◎左記の本年度の授業改善を基本的に引き続いて行う。</p> <p>◎本年度から組織づくりを行っている「地域協働学校」の活動を具体化し、地域・学校の役割をそれぞれ分担・強化していく。</p> <p>◎学校支援ボランティアの充実をさらに図り、学校整備や授業支援、アフタースクール（放課後）での基礎的な学習支援を行っていく。</p> <p>◎朝読書や基礎学習の時間を全校一斉に設け、ゆとりの時間は授業返還に充てたり生徒会活動の活性化を図ったりする時間として常時確保する。</p> <p>◎図書室等の利用による調べ学習の充実を図ることや、教室環境についても整頓・美化のみでなく、学級文庫の設置や学習に関する掲示物により学習環境を整える。</p>

○全ての教科で授業改善に取り組むG校の改善計画例

〈本年度〉

各教科の特性に合わせ次の3点に重点をおいた授業を展開する。

- ①学習意欲の高揚を図る。
- ②基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得。
- ③思考力、判断力、表現力の育成。

【国語】

- ・書く活動（要旨をまとめる、要点を抜き出す等）を多く取り入れる。
- ・感想文等条件にあった文章を書く場面の設定をする。
- ・新聞記事を使った授業。

【数学】

- ・用語の意味や数式の計算など知識・技能を確実に習得させる。
- ・数学的な表現や考え方を活用し、問題解決していく場面の設定をする。自分の考えをきちんと発表したり、グループ討議等の場を設定する。
- ・基礎・発展プリントを作り、自分の理解度に合わせて問題にじっくり取り組ませる。

【社会】

- ・基礎基本を明確にし、社会事象を互いに関連させたり、まとめたりする時間を設定する。

【理科】

- ・日常生活と関わりの深い分野を多く取り上げ、興味や意欲を高める。
- ・討論活動を取り入れた授業。

【英語】

- ・日常の言語使用により近い形で、考えや気持ち伝え合うための言語能力を行う。
- ・基礎基本をペアー学習や個人のドリルで定着させる。

【音楽】

- ・鑑賞活動を多く取り入れ、その感想を発表しあう場を設定する。

【保健体育】

- ・表現力等を高めるために、レポート、学習カードを活用していく。

【美術】

- ・視聴覚機器を活用し、具体的な説明を入れた発表会をする

【その他】

- ・1分間スピーチや3分間作文等を学級活動の時間に多く設定する。
- ・家庭学習の定着を図るために、課題の出し方の工夫と各教科間の連絡調整をする。

〈来年度〉

各教科の特性に合わせ次の3点に重点をおいた授業を展開する

- ①学習意欲の高揚を図る。
- ②基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得。
- ③思考力、判断力、表現力の育成。

【国語】

- ・単元毎に条件をつけた文章を書かせる学習を継続して行う。
- ・読んだ本や新聞記事を活用した授業を展開できるように工夫する。

【数学】

- ・用語の意味や数式の計算など知識・技能を確実に習得させる。
- ・数学的な表現や考え方を活用し、問題解決していく場面の設定をする。自分の考えをきちんと発表したり、グループ討議等の場を設定する。

【社会】

- ・基礎基本を明確にした授業展開を継続するとともに、生徒の意欲を高めるような資料の提示や学習形態の工夫をする。

【理科】

- ・実験・観察のレポートは、継続して行うが、発表の場を多くもち、データをまとめる力や科学的思考力を高めていく。

【英語】

- ・小学校の英語学習との連携を図ったり、日常の言語活動使用場面により近い形で言語活動を工夫する。
- ・英作文にも力を入れ、英作文の基本的なルールの定着を図る。
- ・定着した表現を使って、自分の考えや気持ちを伝える場面を多く設ける。

【音楽】

- ・歌唱や鑑賞等の表現活動を積極的に取り入れる。

【美術】

- ・制作途中にお互いの作品の鑑賞を行い、工夫する点などを発表し合う授業を実施する。

【その他】

- ・書く力、発表する力を養える弁論を総合的な学習の時間に、じっくり考えさせる。
- ・家庭学習の定着を図るために、課題の出し方の工夫と各教科間の連絡調整をする。

〇H校が整理した全ての教科で「ことばの力」の育成をめざして、身に付けさせたい力

教 科	身に付けさせたい力
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や場面に応じて、的確に話したり、聞いたりする力 ・ 自分の意見が相手に正しく伝わるように、根拠を明らかにし、筋道を立てて論理を展開していく力 ・ 語感を磨き、語彙を豊かにして、効果的に表現する力
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 筋道を立てて考え、論理的に表現する力 ・ 根拠を明らかにしながら、自分の考えを相手に伝える力 ・ 意見交流の中で、自分の考えと比べて社会事象を多面的・多角的に考察する力
数 学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 論理的に筋道立てて考え、推論の過程を相手に説明する力 ・ お互いの意見を率直に交流する中で、相互に学びを高め合う力
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物事を科学的に考え、表現する力 ・ 観察・実験を通して課題を追究し、解決しようとする力
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実技指導の中で、お互いに教え合いながら技能を高める力 ・ 歌唱教材の歌詞の内容を理解し、仲間に伝える力 ・ 鑑賞教材を通して、感性豊かな人間性を培い、表現力を高める力
美 術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表現した内容を発表したり、伝えたりする力 ・ 文化遺産を鑑賞し、感じたことを相手に分かりやすく伝える力 ・ 作品を通して、コミュニケーションや批評をしあい、互いのよさや個性を認め、感じたことを分かりやすく相手に伝える力
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種運動の実践の中で、お互いに教え合いながら運動能力を高める力 ・ 攻撃や防御の仕方を話し合いながら、よりよい戦術を考える力 ・ 意見交換の中で、自分の考えと比べて健康について多面的・多角的に考察する力
技 術	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習を始めるにあたって、作業の「危険箇所の予測とその対策」や「製作工程と必要な工具」について説明する力
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習の中で自分がやるべき手順や方法を系統立てて説明する力 ・ ロールプレイングや幼稚園実習で、相手を思いやる心を表現する力 ・ 食物領域で、食事からその食物がもつ栄養素や体内での働きについて説明する力
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見を根拠を明らかにして論理的に説明する力 ・ 英文を正しく理解し、必要な情報を引き出す力

○その他の事例

〈生活・学習習慣の確立〉

- ・学級指導や道徳の時間を利用し、自主的、計画的に学習する大切さを考えさせたり、自主学習の際の学習内容を提示したりして、意欲的に学習できるように指導する。
- ・4年生以上で、自分で学習内容を決定し、自己の課題に沿った家庭学習を行う自学自習ノートを作成させる。
- ・学年日より、懇談等で家庭での学習時間の確保を呼びかけ、連絡帳のチェック等により提出物、学習用具が揃うよう協力依頼をする。
- ・家庭との連携として生活リズム向上にむけて「家庭学習の手引き」を作成する。
- ・宿題に課している音読カードを取りやめ、各学年にあった生活振り返りカードを作成し、その中に音読練習の項目を設ける。
- ・週末の宿題の出し方を全校・全教科で調整し、テスト前の家庭学習のあり方について計画表を作らせる。
- ・ノーチャイム・生活点検週間を設け、生徒自身の生活を見直させる。
- ・月(週)に1回の早寝の日、ノーテレビ・ノーゲームデー等を設定する。

〈読書〉

- ・読書に親しむ活動として校内読書週間を設ける。その中で朝読書の読み聞かせや集会を行う。図書館司書と連携を取り常時活動としての朝読書や図書室での読書が魅力的なものになるようにする。

〈個に応じた指導〉

- ・スクールカウンセラーと連携し、発達障害等にかかわる個別の支援のあり方について研修を深め、支援を要する児童への指導の充実を図る。
- ・今までの少人数指導を点検し、習熟度別指導に向けた体制を整備する。
- ・個別指導を週2回(火・木)放課後20分間を位置づけ、家庭学習が不十分な児童の指導を行う。
- ・長期休業中にサマースクールを実施し、習熟の程度に応じた補充指導を行う。

〈学習指導の工夫〉

- ・ノートの書き方を全学年通してパターン化し、ノートを自分の考えの記録となるようにし、既習事項の確認をやすくする。
- ・新聞を読ませて要点をまとめさせたり、読書カード(あらすじ、感想)や作文を週に1度以上書かせたりする。
- ・算数科における話形指導を1年から6年まで系統的に行う。
- ・辞書の使用強化月間を設け、国語辞典や漢和辞典等の活用を習慣化する。
- ・授業の中に思考力や表現力を鍛える場面を設け、定期考査でも同様の問題を出題する。
- ・フラッシュカードやスマートボード、教材提示装置等を活用し、視覚的なわかりやすさに配慮した授業展開に努める。
- ・日常的にコンピュータや地図・地球儀、図鑑等に触れることができるよう学習環境を整備する。

〈教育課程の編成の工夫〉

- ・図書室利用時間を時間割に位置づける。
- ・教育課程の見直しを行い、授業時間を年間15時間増やし発展学習や探求活動、まとめ学習の充実を図る。
- ・総合的な学習の時間の基礎講座として、読解力、文章表現力、発表力、統計処理能力の向上をめざした授業を行う。

④モデル校の取組の成果と課題

各校における授業改善の過程の詳細は、ビデオDVDを参照のこと。

〈A 校〉

本校の改善計画に対し、主体性を尊重しながらも有益な指導助言を得ることができた。特に検証改善委員会から派遣された助言者を交えた協議は、深い教材研究と指導法等の改善及びその教材についての子どもの認識のあり方をつかむことにつながり、本校教員の貴重な財産となった。また、新学習指導要領で重視されている点と本校の課題とが重なるように整理していただくことにより、進むべき方向が明確になるとともに共通理解が図りやすくなった。こうしたことにより、本校教員の研修意欲の向上にもつながった。

課題としては、短期間での集中的な取組であったため、改善すべき指導法の一部を提案するに留まった。今後は、今回十分に深められなかった「式や表をよむ活動」や「式や表に表す活動」「問題の条件を少しずつ変えるなどして、自分の問題をつくったり、発展させたりする活動」を取り入れた学習のあり方を研究していく必要がある。

〈B 校〉

実際に教材文に当たりながら教材研究のあり方を研修できたことで、児童の意識に流れに沿っためあての設定や提示のタイミング、授業の山場となる発問や立ち止まって深く考えさせる箇所などを明確にすることができたので、自信をもって授業に臨めるようになった。

また、模擬授業を行ったことで、発問の仕方や説明の仕方などのあり方について具体的に振り返ることができ、研修した教材や教科以外にも生かすことができた。

しかし、教師が個々の発言を深めたりつないだりすることで、授業のめあてに近づけることは十分とは言えないので、今後も実践的な研修を進めていきたい。

〈C 校〉

大学や教育委員会の先生方との授業研究により、両教科とも本校の課題である論理的思考力を身に付けるという点で、確かな授業の構築に向けて、第一歩が踏み出せた。

生徒が思考を深めるためには系統的でむだのない発問や板書の工夫が必要であり、しっかりとした教材研究が授業を創るという再確認ができた。

しかし、本校の課題は、国語と数学だけでなく、あらゆる教育活動の場面で横断的に取り組む必要がある、今後は、このたびの授業研究の成果を他の教科等に拡大していきたい。

(3) 個人票の返却

①返却までのスケジュールを示した教育委員会の例

**チャンスを生かして
学習意欲につなぐ!**

- 一人一人の課題とその原因を分析し、個への指導に生かす。
- 児童生徒が自らの学びの状況を把握し、意欲的に今後の学習に取り組むことができるようにする。

●返却の前

- ・全体の傾向を把握しておく。
- ・個人票を基にして一人一人の課題を明らかにし、返却時に指導できるようにしておく。

●返却までの流れ（例）

- ・返却時期を決定する。（同一中学校区間の小・中学校で相談）
- ・保管していた問題冊子を返却する。
- ・授業の中で、調査問題を使って指導する。
- ・調査結果から分かった課題や努力点などを記入できるようなワークシートを工夫するなどして、結果を今後の学習に生かすことができるようにする。
- ・国から返却された個人票を児童生徒に返却する。

●返却時の保護者文書の作成

- ・個人表の返却とともに、次のような点について記入した文書を配付する。

学校全体の傾向
学校での個人票返却時の指導の具体
個人票の見方 等

②中学校の自己評価カードの例

全国学力・学習状況調査 自己評価カード

- 生徒が、自分の学習定着状況と生活習慣を的確に自己評価し、それをもとに今後の学習計画を立て、実践することができるようにする。
- 学級活動等を活用し、学習定着状況を各自が自己評価し、年度末に向けての家庭学習の改善計画や冬休み学習計画を立案する。
- カードには、児童生徒の感想や決意を文章で表現する。

●学習状況の自己分析

3年 組 番 氏名

【正答率の低いところで正解だった問題】 問題番号と（ ）には問題形式

聞くこと・話すこと	3-②（記述）
書くこと	2（記述）
読むこと	
言語事項	

【正答率の高いところで不正解だった問題】 問題番号と () には問題形式

聞くこと・話すこと	
書くこと	
読むこと	2 (短答)
言語事項	

【分析】

書くことが好きなので、自分の思った通りに文を書いたりする問題は得意だ。でも、難しい文になるとつながりを読み取れなくなって間違ってしまう。

【今後の改善策】

朝の読書で、読みやすい小説だけでなく、もう少し違う本を読んでみたい。そういう本でいい加減にしていた漢字の読み方をしっかり覚え、使えるようにする。

★今回の学力・学習状況調査の結果について、次の質問に○印をして答えなさい。

- ・ 3年になった頃の自分の学力が正確に現れている。
→ 正確 まあ正確 やや不正確 不正確
- ・ この調査の結果について、自分なりに満足できた。
→ 正確 まあ満足 やや不満足 不満足

③調査結果返却の個別面談についての資料例

○結果の概要や傾向からどのような改善が考えられるかに重点を置き、家庭訪問、個人面談、保護者面談、三者面談等を実施する。

●学習意欲につなぐ個人面談

- ・ 過去実施したテスト等の傾向も含めて、生徒のニーズやつまずきをとらえる。
- ・ 学力低下の原因や改善の方向性を共有することができるような情報提供・学習方法の提案等、具体的に説明する。
- ・ 生徒の学習意欲の状態が、無気力な状態、少しの意欲付けで学習に取り組める状態、長期的な目標に向かって短期目標を描ける状態かを見極め、学習意欲を高めるような適切な言葉かけを行う。

【参考】コーチングの技法を用いた面談

- ・ 傾聴・・・生徒が自己評価票をもとに話すことをうなずきながら聴く。
- ・ 承認・・・自己評価を承認するとともにコメントを加える。
- ・ 質問・・・生徒が今後の学習計画が立てられるように、GROWモデルに基づき質問する。

【GROWモデルの4段階】

<ul style="list-style-type: none"> ■ GOAL (目標) ■ REALITY (現状) ■ OPTIONS (方法) ■ WILL (着手) 	<p>何を目標にしますか？</p> <p>現在、どんな状況にありますか？</p> <p>どのような方法で改善・実行しますか？</p> <p>いつから実行に移す予定ですか？</p>
--	---

(4) 校内研修・学級での指導

① A 小学校の算数科における校内研修の資料

学校での着実な取組を！**●学習過程における指導のポイント（教訓）**

研究授業の前日「きっとあの子が言ってくれるはずだ」「お願い〇〇さん」などとお祈りする授業から児童が「だって□□だもん」といいたくなる授業（支援）に授業改革、意識改革を進めなければならない。（話し合いで児童が話そうとしなくても児童の指一本動けば授業はなんとかなる。ただし、一人ひとりが考えをもっていなければどうにもならないので、めあてをつかみ、解決活動が始められる支援は授業の命といえる。）

①問題を知り、本時の課題をつかむ（課題把握）

- ・既習と未習を明らかにする。（前時とのちがいを明らかにする。）
解決のための活動の見通しは問うてもよいが方法の見通しは問わない！「〇〇くんはどうする」と尋ねたのは「見通し」をもたせたのではなく授業を早くも終わらせたことになっている。（教師はこれからと思っても授業は既に済んでいる）
- ・ブロック、線分図、アレイ図などを使って考える活動にする場合は、問題場면을解決活動に使うものに置き換える一斉活動が前提となる。そうでないと、せっかくの支援が児童にとって解決に向けてどう活動していいか分からないものになる。
- ・子どもが転んでしまう高いめあてを設定してはいけない！
学級の85%以上が活動できるめあてをもたせる。（児童がどんな反応を見せ始めたら自分で解決活動を始められるか、状況とタイミングを見計らうことが大切！）
- ・問題と課題（めあて）は違う！（問題は教師から与えられたもの、めあては児童がつかんだもの！）

②□□について考える（自力解決）

- ・適切なめあてが設定できたなら、ヒントカードなどはなくてもよいはず！ヒントカードがたくさん必要だったり、多様に必要だったりするとしたら児童はめあてをもっていなかったということになる。児童がつまづくことが分かっているハードルを用意して治療薬をあれこれ考えるくらいならその前にハードルの高さ具合を必死に考えた方がよい！（めあてがもっていたのは残念ながら先生だけでした。ということがよくある。）
- ・既習事項を活用しやすくする活動を教師が工夫することが大切。
- ・「多様に考える」とは1人で2つ以上の考えをもつことである。
- ・低学年では初めから1番よい考えに気づく活動を工夫する。（比べられないから）
- ・考えるための活動手段（線分図、テープ図、関係図など）は基本的に1つがよい。解決のための活動から考えさせるのはハードルの前に跳び箱を置くようなもので、ハードルを跳ぶ前に跳び箱にひっかかってしまい今日することにたどりつけない児童ができる。（みな同じものを使って説明し合う方が分かりやすく伝えやすい。）

③□□について話し合う（練り上げ）

- ・1つの考えが分かるまで（どんな既習事項をどのように使ったか或いは数量や図形のどんな性質をとらえたか）話し合い、考えのよさを位置づける（それぞれの考えを比べやすくする）
- ・考えは1つ1つ取り上げ、図と式などを結び付けながら視覚を通して繰り返し説明させる。（どんな考えかが一言で言えるぐらいまで）
- ・1つの考えははじめは発表した児童の考えだが、繰り返すことでみんなの考えになり、他の考えと比べやすくなる。
「この考えが分かった人？そうだね、〇〇君の考えは□□な考えですね。簡単でいい考えです。」などと先生が上手に話してしまうことがある。
- ・発表ボードは考えを紹介し合う際には使わない方がよい。

- (自力解決の時間から話し合い活動の準備に入る児童が3人ほどいるということは、その子たちの解決活動の時間を奪うことになる。子どものかいた文字は見づらいので教師の意図的板書の方が考えの見直しは明らかにしやすい。)
- ・最後に児童に言わせたい言葉は、話し合いの中で引き出し意図的に板書しておく。

④本時のまとめをする（次時へのつなぎまで）

- ・「どんな既習事項をどのように使ったか。」などの既習事項の有用性の面、その考えは「簡単か（簡潔性）」、「分かりやすいか（明瞭性）」、「いつでも使えるか（一般性）」などの数理的処理のよさの面から自分の言葉でまとめさせるようにする。

②B小学校の学級指導用の手引き

自主（自由）勉強のススメ

◎ 自主勉強の意味（なぜするのか？）

・「自分が今一番練習すべきことは何か、知りたいことは何か、考える、あるいは考え直すべきことは何か？」を一番知っているのは、先生でも、家の人でも、塾の先生でもなく、あなた自身です。ですから本当の学習は、今日すべき学習は、自分で決めてそれに取り組むことに大きな意味があるのです。めあて（学習課題）を自分で具体的に決めて自分に本当に役立つ学習習慣を身につけていきましょう。

◎ めあてを決める（自分で自分に何をどのようにするか学習宣言をしましょう）

- (例)
- ・書き順に気をつけて漢字練習をしよう（書き順があやしい人）
 - ・正確に漢字練習をしよう（間違った漢字をつい書いてしまう人）
 - ・とにかく丁寧に漢字練習をしよう（文字が雑な人）
 - ・20分間漢字練習を続けよう（根気が続かない人）
 - 2ページ漢字練習をするぞ！オー
 - ・ひらがな交じりで漢字練習をしよう（作文に漢字が使いにくい人）

※ 漢字の書き取りは、漢字テストのためではなく、文章の中で使えてこそ意味がある！算数で九九が唱えられても実際ものの数を数える時に使えてはじめて意味があるのと同じです。

◎ まとめを書く

- ・決めためあてが達成できたかどうか、今日したことを短い言葉で表すとどうなるか、今後、続けて考えたり、調べたりすべきことは何か等を最後にまとめることも大切！

◎ 自主勉強メニュー（どんなことをすればいいの？）

- (例)
- ◆ 今日学習した場面の教科書とかノートを開き、もう1度自勉帳に書き取る。
 - ◆ 漢字ドリルや計算ドリルを使って練習する。
 - ◆ 社会科資料集を使う。
 - ◆ 理科の観察、実験を振り返り、結果からわかったことをはっきりさせる。
 - ◆ 言葉について調べたり、考えをまとめたりする。
 - ◆ 算数の計算の仕方や考え方をまとめる。
 - ◆ 日記を書く。(感動を書く、自分を振り返る)
 - ◆ ローマ字の練習をする。
 - ◆ 体育、音楽、家庭科などで習った大切なことをまとめ直す。
 - ◆ 図、表、グラフなどに表し、わかったことをまとめる。 など など

☆先生が出す宿題の補充発展として自主勉強を進めましょう！

**確かな学力の源、言葉の力
すべての教科で育成を！**

〈授業改善の参考になる「言葉の力実践事例集」
(H19岡山県教育庁指導課)から抜粋〉

社会 「わたしたちの市の様子」	学年 小 3 年
理由をキーワードにまとめ、説明する事例	
<p>学習活動・資料・留意事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 水島地区について知っていることを発表する。 ② 水島地区の写真を見て、気付いたことを写真に書き込む。 ③ 写真を見て気付いたことを話し合う。 ④ 水島地区で工場が多いわけについて話し合う。 ⑤ 水島地区に工場が多い理由を表すキーワードを考える。 ⑥ キーワードを使って、水島地区に工場が多い理由を説明する。 	<p>〔 水島地区に工場が多い理由を示すキーワード 〕</p> <p>(例) 高梁川の出口 埋め立てた広い土地 大きな港</p> <p>〔 児童が考えた水島地区に工場が多い理由 〕</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>広い土地があり、大きな港があって交通の便がよいので、水島地区には工場がたくさんある。</p> </div>
<p>ポイント</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>★キーワードは、具体的な事実をカードに表し、板書でKJ法等を活用しながらまとめ、抽象化していく思考の過程が児童に分かるようにする。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>★「ノートに書く活動」を取り入れ、一人一人がキーワードを使うという条件に合わせてまとめる経験ができるようにする。</p> </div> </div>	

理科 「自然環境の保全と科学技術の利用」	学年 中 3 年
問題意識や見通しをもちながら調べた結果について話し合う事例	
<p>学習活動・資料・留意事項等</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 科学技術の進歩で環境にどのような課題が生じているか、予想を小グループで話し合った後、学級全体で予想を出し合う。 <small><予想の例></small> <ul style="list-style-type: none"> ・酸化炭素の排出⇒地球温暖化 ・薬品など⇒有害な廃棄物 ・自動車の排気ガス⇒大気汚染 ② 問題意識をもった課題を小グループで話し合い、調べるテーマを決める。調べる方法について見通しをもち、調べた結果をレポートにまとめる。 <small><例></small> <p>テーマ 「雨の酸性度を調べる」</p> <p>調べる方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 調査する場所を決め、雨水を集める。 (2) PH計で、酸性度を測る。 (3) 都市部や山間部、工業地帯などの測定値と比較し、考察する。 (4) 分かりやすいグラフを入れたレポートにまとめて、発表する。 ③ 発表会を実施し、環境保全と科学技術の利用の在り方について意見の交換をする。 	<p>ポイント</p> <p>★小グループでの話し合いは次のような視点で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような科学技術の進歩によってどのような課題が生じているのか <p>★今まで学習したことを生かしながら、科学的な根拠をもった調査になるよう支援する。</p> <p>★レポートの書き方の例を示す。 <small>(例)</small></p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 目的 (2) 方法 (3) 結果 (4) 考察 (5) 感想

〈授業改善の参考になる「共に生きる子ども育成プロジェクト指導事例集」(H19岡山県教育庁指導課)から抜粋〉

**生活の中の問題を
共に考え、
共に解決する。**

話し合いの準備をしよう

① 計画を立てよう (計画委員会)

【低学年】

- 司会グループを作る。
- 役割分担を決める。
 - ・司会者
 - ・黒板係
 - ・ノート係
- 話し合いの内容を決める。
 - ・柱、順序、時間
- 話し合いの進め方を決めて練習する。



- ・司会者…指名をする。
- ・黒板係…賛成・反対のことばカードをはったりする。
- ・ノート係…決まったことを書いたり発表したりする。
- ・最初は、全体の流れを子どもたちがつかむことができるように、教師が全部の役割をしましょう。
- ・徐々に司会者グループに簡単な役割を受けもたせ、話し合いの進め方に慣れさせましょう。

【中学年】

- 役割分担を決める。
 - ・司会、副司会
 - ・黒板書記
 - ・ノート書記 (記録)
- 提案者と一緒に提案理由を考える。
- 話し合いの内容を決める。
 - ・話し合いの柱をしぼる。
- 活動計画 (P. 39~41参照) を作成する。
 - ・順序、時間配分
- 話し合いの練習をする。

- ・司会者…多くの意見を引き出すようにする。
- ・副司会…会の進行、発言が公平にできるように指名の手伝いをする。
- ・黒板係…みんなの意見を書いたり、賛成・反対のマークをはったりする。
- ・ノート係…決まったことを発表する。

※話し合いを深めるために・・・

① **提案理由について**

提案理由はしっかり考えさせましょう。まず、**提案者の意見**をしっかり聞きましょう。

- ・「なぜ、その提案をしたのか？」
 - ・「どのようにしたいのか？」
 - ・「みんなにわかりやすくするための工夫はないか？」
- (アンケート、資料等の活用) など

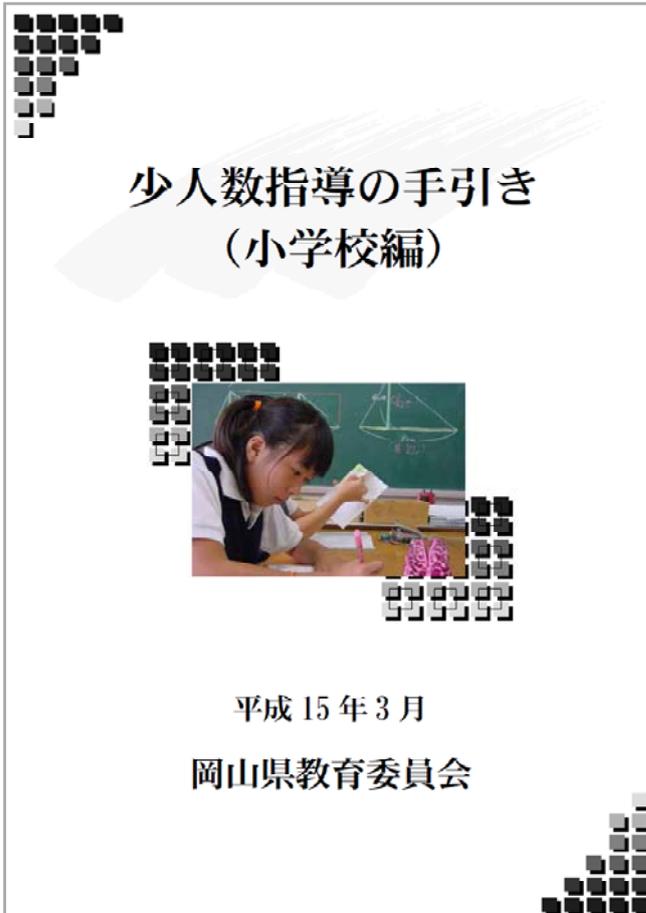
② **話し合いの柱について**

- ・教師が決めること、係が決めること、みんなが決めることに分けます。

【高学年】

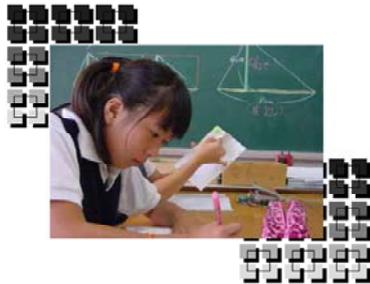
- 活動計画表を作成
 - ・役割分担
 - ・提案者との打ち合わせ
 - ・話し合いの柱や時間配分を考える。
- 話し合いの進め方を決めて練習をする。

〈授業改善の参考になる「少人数指導の手引き」(H15岡山県教育委員会)から抜粋〉



**一人一人の伸びを保证する
きめ細かな指導を目指して!**

少人数指導の手引き (小学校編)



平成 15 年 3 月
岡山県教育委員会



**きめ細かな指導の充実と
確かな学力の育成を目指して**

平成 13 年度から、基礎学力の向上ときめ細かな指導を目指して、第 7 次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画がスタートしました。これを受けて、岡山県でも平成 13 年度から、少人数指導のための教員の加配を開始し、少人数指導の充実に向けた様々な取り組みが始まっています。



少人数指導のねらい
少人数の集団編成による学習指導(少人数指導)を推進することによって、児童生徒の理解や習熟の程度、興味・関心などに応じたきめ細かな指導の充実を図り、確かな学力を育成する。

目次

はじめに 少人数指導によって生まれる新たな指導	1
第 1 章 少人数指導を効果的に進めるための学習集団編成	3
① 新しく学習集団を編成する際の基本的な考え方	
② 目的を明らかにして学習集団を編成する重要性	
③ 具体的な学習集団の編成方法	
第 2 章 少人数指導を効果的に進めるための指導方法	7
① 少人数指導の学習効果	
② 少人数指導を進めるための基本的な 4 段階	
③ 習熟度別指導の基本的な考え方	
④ 発展的な学習と補充的な学習	
⑤ 少人数指導の評価の工夫	
第 3 章 少人数指導を効果的に進めるための指導体制	11
① 学校全体の共通理解と協力体制	
② 少人数指導を推進する係の設置	
第 4 章 少人数指導実施上の Q&A	12
第 5 章 少人数指導の実践事例(習熟度別指導/算数)	17

「学力向上健やかフォーラム2008inおかやま」

開催概要

-
-
-
-
-
-
-
-
-
-
- タイトル 学力向上健やかフォーラム 2008 in おかやま
～学校・家庭で育む、教育の英知～
- 開催日： 平成20年2月10日（日）
- 時間： 13：30～16：30
- 会場： 岡山衛生会館 三木記念ホール
(岡山市古京町1-1-10)
- プログラム
- ①開会行事 13:30～13:40
- ・ 県検証改善委員会代表あいさつ
 - ・ 岡山県教育委員会教育長あいさつ
- ②全国学力・学習状況調査の報告 13:40～14:00
(岡山県検証改善委員会から)
- ③講演「気づかせて育てる」 14:00～15:00
講師：平尾誠二(ラグビー元日本代表監督：現神戸製鋼ラグビー部GM兼総監督)
- ④ディスカッション「子どもの学習意欲の向上に向けて」 15:10～16:30
- 木場弘子(千葉大学教育学部特命教授、浦安市教育委員、元TBSアナウンサー)
平尾誠二
犬飼茂子(岡山市立京山中学校校長 県検証改善委員会委員)
迫田栄理(新見市立正田小学校 教諭)
山田 泰(岡山県PTA連合会 副会長)
道廣和男(岡山県PTA連合会 前副会長 県検証改善委員会委員)
- ⑤閉会 16:30
- 主催： 岡山県検証改善委員会
- 共催： 岡山県教育委員会

ディスカッションの論点

子どもの豊かな成長のためには、**学校と家庭の連携、教員の「分かる授業」の実施、家庭において基本的な生活習慣を身に付けさせること**などが大切だ。今、学校ではどのような力を伸ばそうとしているのか、家庭では子どもに何を期待しているのか。それぞれの立場から子どもたちの「力」を伸ばしていく方法や手だてを考える。

<子どもたちのどんな力を伸ばしていくことが大切なのか>

- ・対人間だけでなく問題用紙との関係づくりの力も低下しているのではないかと考えている。何を問われているのかがつかみきれない。思っていることを表現できない。それぞれの場面でコミュニケーション能力を身に付けさせることが必要だ。
- ・点数だけで子どもを判断するのは危険なことではないか。総合的に評価したいが、今はものさしが学力に向いてしまっている。その状況に対応できる問題解決能力が大切になってくる。そのためには経験や体験を重視したい。
- ・生活実態と学力との相関は興味深い。昔から知・徳・体と言われるようにバランスが大切だ。そして社会の一員として生きていくことが必要だ。

<力を伸ばしていくために、どのような取組が大切か>

- ・学校は「教えて、考えさせる」指導をしていかななくてはならないのではないかと考えている。そのために総合的な学習の時間は有効だと思っている。教師はそうした学習を実施するために「教師力」を高めていかななくてはならない。教師は子どもの心に興味の炎をともしることが仕事だ。
- ・自分の子どもが通っている小学校では、地域の人と子どもたちとの関係づくりを通して、人生の諸先輩から学ぶことを大切にしている。
- ・みんなと考えること、意見交換することで「伝え合う力」が育つと思う。そして学習していることと生活体験や社会事象とを結びつけて考えさせることを大切にしたい。
- ・今も昔もしつけの基本は同じ。まずは健康と生活習慣。2つめは根気を養うということ。3つめは働くことに対するしつけ。責任を持って行うことを身に付けることは最も大切なことではないか。そして、近年、ルールやマナーの低下が言われているが、その向上のためには大人が頑張らなくてはいけない。子どもは大人の背を見て育つ。

<学力の向上に向けてメッセージ>

- ・自分の勤めている学校では、①勉強しようとする気持ちになっているか、②仲間とともに学ぼうとする態度や動きになっているか、③学習用具の準備ができていないか、といった学習に対する基本的な姿勢を大切にしている。また、友だちの間違いを笑ったりしない温かい心をもった学級を大切にしたい。
- ・社会環境の悪化に対して大人が力を合わせて子どもたちの成長のために頑張らなくてはならない。そして失敗したこと、つまづいた時に支えになってあげることのできる大人でありたい。
- ・確かな学力と豊かな心、健やかな体を育むために体験活動を大切にしたい学習に取り組みたい。社会の中の自分について考え、心の体力を身に付けさせたい。

講演「気づかせて育てる」

講師：平尾誠二（ラグビー元日本代表監督、現神戸製鋼ラグビー部GM兼総監督）

- 成長するということは、「気づき」によって行われるということが多いと思う。あるタイミングで、「あっ、そうか」と腑に落ちるようなこと。自分自身もそのようなことを経験する中で、成長していったような気がする。
- 自分はラグビーを中学から始めたが、その時その時の指導者が大変よかった、と今でも思う。自分が教える側に立った時に思うことだが、今何を教えるべきかがとても大事だ。
- 中学の時に出会った先生は、ラグビーの技術が高い人ではなかった。技術が高いことは指導者の力としてはあまり関係ない。この先生には、「ラグビーは、こんなにおもしろいんだ」ということを教えてもらったのだと思う。興味を持つということは底知れぬ可能性を引き出すきっかけになるような気がする。そこからスタートしたことが、一番よかった。ラグビーは三度の飯より好きであるということが、自分の中に擦り込まれた。それがなければ、後々にちょっと厳しい練習がある、試練があるというのに耐えられなかったと思う。
- 伏見工業高校時代の山口監督には、優しさとか愛情、それを越える包容力があつた。好きではないこと、不得手なことはやれせないとやらないが、好きなことや得意なことは、放っておいてもやる。そうした方向に持っていかどうかポイントだ。私たちは強制的にやらされたが、できなかったことをやれたときには快感がある。今までになかった感動がある。感動を味わったら、人間は、もう一回やりたいと思う。当時の自分にはこれがあつた。
- 当時の教え方は、厳しかった。自分は「突き放し」と呼んでいるが、突き放されて反発する係数も高かつた。タックルができなくて、みんなの前で恥をかかされて、それでも思い切ってタックルしにいった、「ほら、できた」ということになる。「おまえ、やったらできるじゃないか」と。「やったらできるじゃないか」という気持ちをそこで得る。「その気持ち、忘れるな」「いつも、その気持ちで臨め」と言う。これは、すばらしい教育ではないか。自分が教える立場になって、なるほどと思う。けれど今、これがなかなかやりにくい。今の子どもたちは、反発係数が少なくなつてきて、突き放しても返ってこない。突き放す度合いが難しい。
- 最近「突き放し」ではなく「たぐり寄せ」を心掛けている。自信喪失を極力おさえ、自信につながるように持っていき、少しくまくなつたらほめてや



る。ほめたらうれしいから、またやる。私より年上のかたは「突き放し」で育っている方が多いので、「突き放し」をしがちである。「たぐり寄せ」を大切にしていかなければいけない時代だ。

- 大学の時の指導者というのは、また別の意味で大変すばらしい指導者だったと思う。この方は一般的な学校の先生が言うようなことを言わない。ちょっといい加減さがあつた。大学生には、それくらいがちょうどよかった。そのいい加減さの中で、この先生が言いたかったのは、人間、思い通りにいかないということ。思いがけないこともいっぱいあるということ。それに対処していく力が大事であり本当の能力だ、ということをおしえてもらった気がする。
- 中学の時、高校の時、大学の時、それぞれで教えられるべき時に教えられるというタイミングのよさが自分にとっては幸運であつた。要領よくいこうと思えばいくらでもできるが、遠回りをすれば体力がつく。その体力が後々、大切になってくる。そういった経験の積み重ねが大切だと思うし、教育の場面でも同じことが言えるのではないか。考えさせる機会、悩む機会といったものを与えるべきだ。
- 「適性」と「向上」の自覚というものが非常に大切だと思っている。これが自分に向いているということと、やっていることが向上しているということ。この2つをどのように示してやるかが大切ではないか。
- 体力が衰えると考える力も出ない。集中力が足りない、思考力が足りないなど、体力と比例するものも多いのではないか。
- 自分の教育論ではあるけれども、将来自分のやりたいことが見つけられて、そのことに対して努力ができる人間であればいいなと思う。辛いのは、やりたくないことを仕方なく、だらだらとすること。時間の無駄だと。勉強したことが社会に出てほとんど役に立たないことがあり、人間関係で経験したことの方が役に立っていることもある。勉強ができるということは選択肢が広がるということかもしれない。
- 人間、それを何のためにやっているかが分かれば、意外に力が出るもの。それが分からないから、なかなか力が出ない。そういう視点でアドバイスができたらいと思う。
- 昔の社会では、一人前になるということをお「稼ぎ」と「勤め」で評価していた。両方できなくてはいけない。今は、どうも「稼ぎ」ができたら一人前と思う風潮がある。「勤め」つまり社会的貢献というものを考えていく必要があるし、おしえていかななくてはならない。この部分も教育には期待されているのではないか。

岡山県検証改善委員会 委員

企画運営委員会		
氏 名	職 名	役 職
森 熊男	岡山大学教育学部教授	代 表
森 裕一	岡山理科大学総合情報学部教授	データ分析部長
赤木雅宣	清心女子大学人間生活学部准教授	教科指導推進部会国語班長
平井安久	岡山大学教育学部准教授	教科指導推進部会算数・数学班長
武 泰稔	矢掛町教育委員会教育長	
山本 博	岡山市立中山小学校長	副代表
犬飼茂子	岡山市立京山中学校長	
道廣和男	岡山県 PTA 連合会前副会長	
安東いづみ	津山教育事務所次長	
中井智子	岡山県総合教育センター所長	
長尾紀江	岡山県総合教育センター教科教育部長	教科指導推進部長
山内隆彦	岡山県総合教育センター情報教育部長	情報セキュリティ総括責任者
徳山順子	岡山県教育庁教職員課参事	
竹井千庫	岡山県教育庁指導課長	経理責任者
小田幸伸	岡山県教育庁指導課参事	
岡村富広	岡山県教育庁指導課総括副参事	
久谷理恵子	岡山県教育庁指導課副参事	
村松 敦	岡山県教育庁指導課指導主事	

教科指導推進部会	
氏 名	職 名
赤木雅宣	清心女子大学人間生活学部准教授
平井安久	岡山大学教育学部准教授
嶋村尚美	備前市立日生東小学校教諭
片山晴夫	岡山市立妹尾小学校教諭
原 清行	岡山市立光南台中学校教諭
森田圭一	岡山県立岡山操山中学校教諭
長瀬尚樹	岡山市教育委員会指導係長
横溝紀子	倉敷市教育委員会指導主任
芦田俊彦	津山市教育委員会主幹
山田泰久	真庭市教育委員会参事
長尾紀江	岡山県総合教育センター教科教育部長
中島勝巳	岡山県総合教育センター指導主事
前田敦子	〃
楠 博文	〃
大月一泰	〃
岡村富広	岡山県教育庁指導課総括副参事
花房 淳	岡山県教育庁指導課指導主事
村松 敦	〃

データ分析部会	
氏 名	職 名
森 裕一	岡山理科大学総合情報学部教授
太田淳一	瀬戸内市教育委員会総括主幹
山内隆彦	岡山県総合教育センター情報教育部長
高橋伸明	岡山県総合教育センター指導主事
原田幸治	岡山県総合教育センター主任
高尾敏也	岡山県教育庁指導課指導主事

岡山県検証改善委員会事務局

岡山県教育庁指導課

〒700-8570 岡山市内山下2-4-6

Tel 086 (226) 7584

Fax 086 (224) 3035

(ホムペーヅ)

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=146